目次

重要　ご使用の際に必ず守っていただきたい注意事項などが書かれています。
メモ　補足説明やカメラの使いかたで参考になることが書かれています。

・ 本書ではデジタルカメラのことを「カメラ」と称しております。また、SD メモリーカードとマルチメディアカードのことを「メモリーカード」と称しております。

このカメラでできること

■ズーム
光学ズームで 10 倍、さらに電子ズームで最大 6 倍まで拡大して撮影することができます。
※電子ズームは、画素数によって制限があります。

■ストロボ
暗いところでは自動的にストロボが光ります。明るいところでも必ず光るように設定したり、ストロボを光らせないように設定することもできます。

■連写
毎秒約 3.3 コマの連続撮影ができます。※ 動いている被写体やシャッターチャンスを逃したくないときに有効です。
※（高速メモリーカードを使用した時）

■フォーカスロック
フォーカス（ピント）は、自動的に画面中央にあるものに合いますが、フォーカスロックによって画面中央以外にあるものに合わせることができます。

■シーンセレクト
スポーツ、ポートレート、夜景など、シーンに合ったモードを選ぶだけで最適な設定で撮影できます。

システムマップ

メール
パソコン
プリンター
プリント
PictBridge
USB ケーブル
（付属品）
USB
ケーブル
（付属品）
PictBridge
対応プリンター
（他社製）
デジタルカメラ
Finecam M400R
カードリーダー
ビデオケーブル
（付属品）
テレビ
AC アダプター
（別売り）
メモリーカード
プリント取扱店
DPOF 対応プリンター
（他社製）
プリント

各部の名称

セルフタイマー LED

シャッターボタン
→ 31 ページ

ストロボ

測光窓

マイク

ストラップ取り付け部

スピーカー

端子カバー

レンズ

USB 端子

電源入力端子

ビデオ出力端子

DC IN

VIDEO

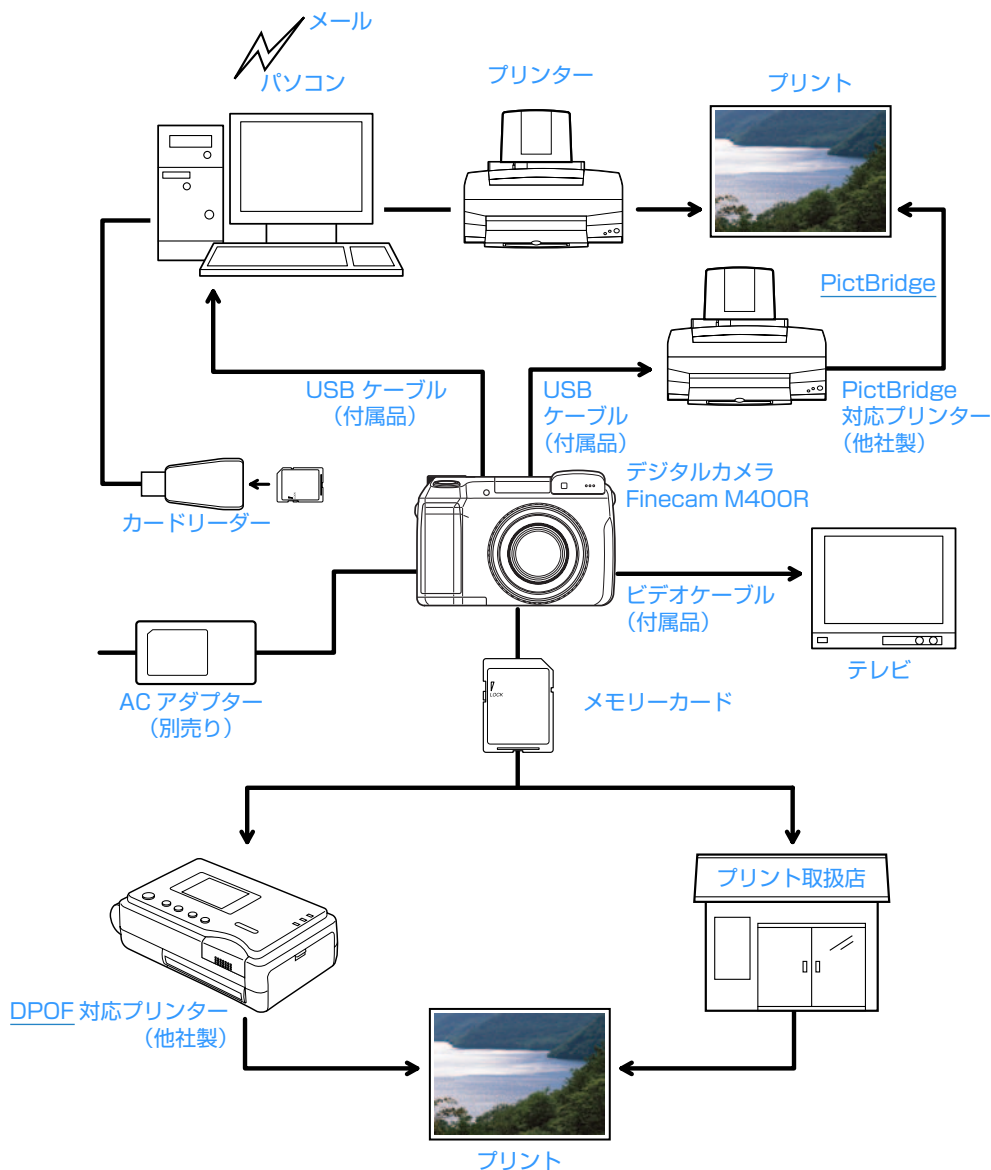
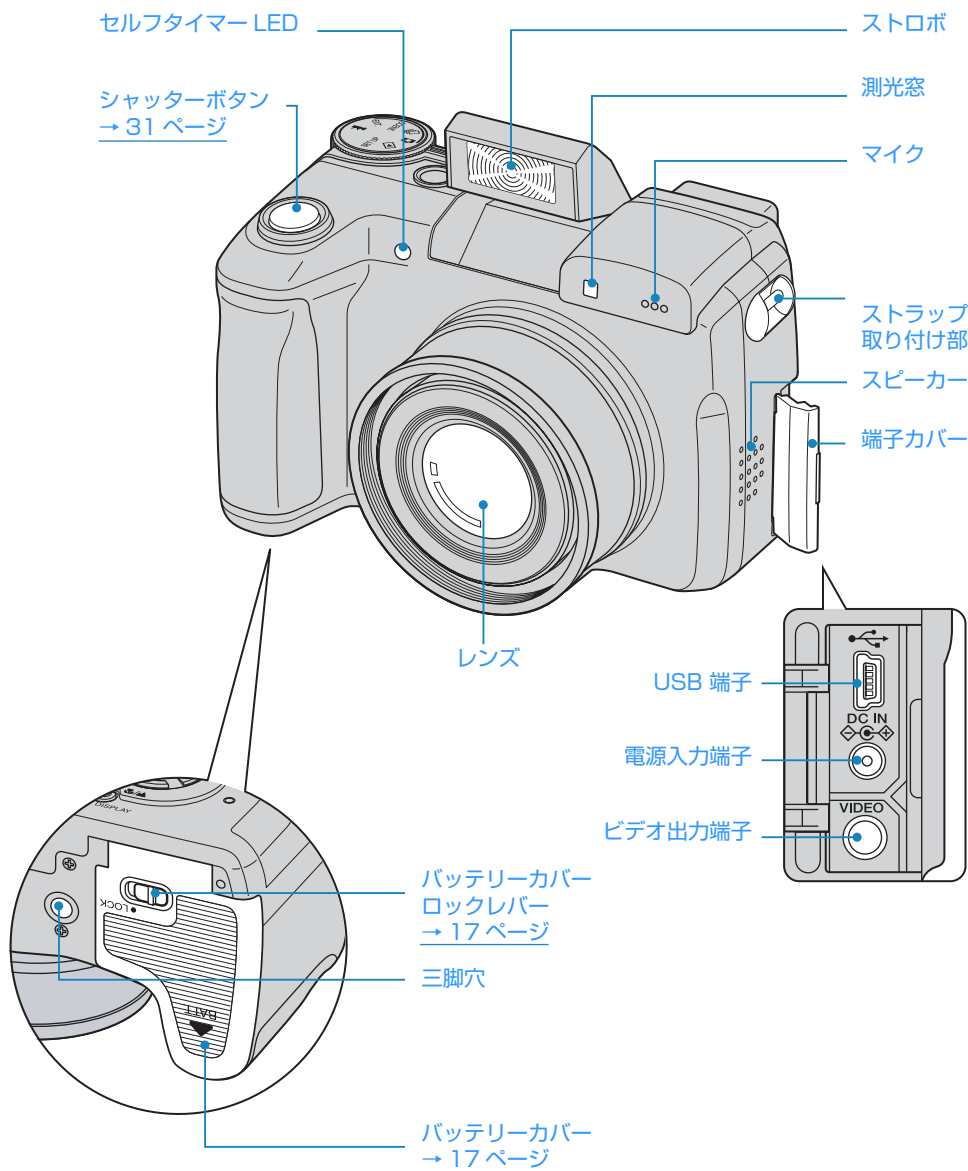
バッテリーカバーロックレバー
→ 17 ページ

三脚穴

LOCK

BATT

DISPLAY

バッテリーカバー
→ 17 ページ

ストロボポップアップレバー

電子ビューファインダー（EVF）

視度補正ダイヤル

VF ボタン → 30 ページ

露出補正ボタン → 55 ページ

MENU ボタン

液晶モニター（LCD）

決定ボタン

DISPLAY ボタン → 69 ページ

カードアクセス LED

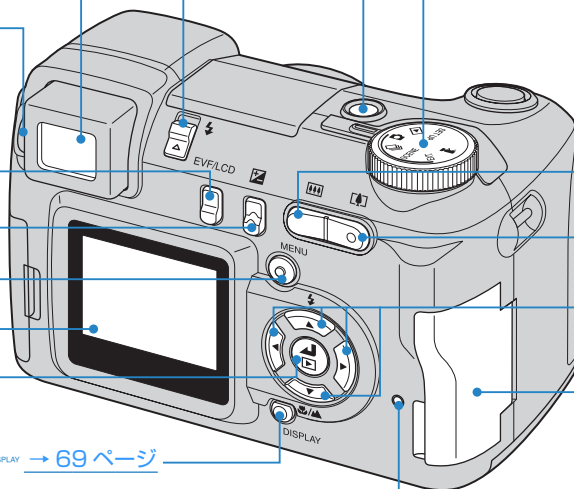
POWER ボタン → 22 ページ

モード切替ダイヤル → 23 ページ

ズームボタン（広角側）→ 46 ページ

ズームボタン（望遠側）→ 46 ページ

上下左右ボタン

カードカバー → 19 ページ

EVF/LCD

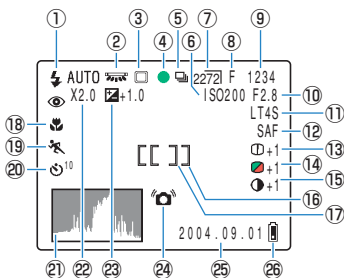
MENU

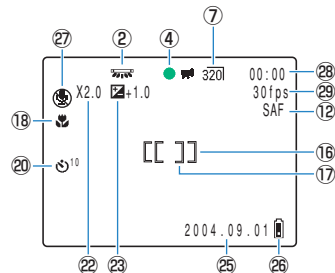
DISPLAY

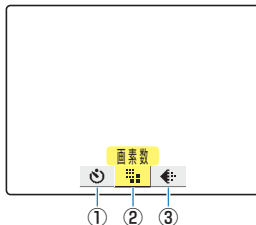
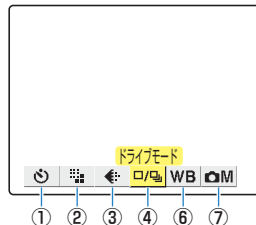
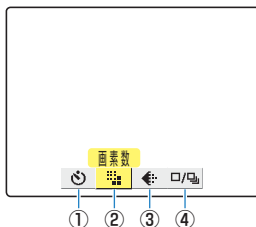
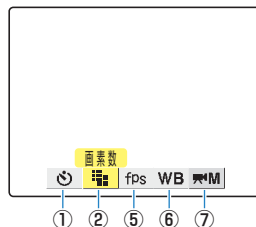
画面に表示されるメニューとアイコンの名前

“📷” 静止画 AUTO、“連写” 連写 AUTO、“SCENE” SCENE、“EXT.” EXT.、“🎥” 動画モードの表示

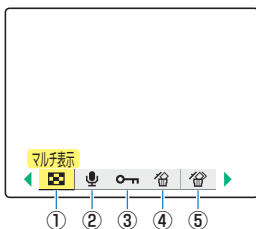
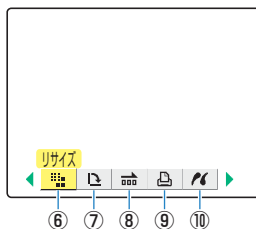
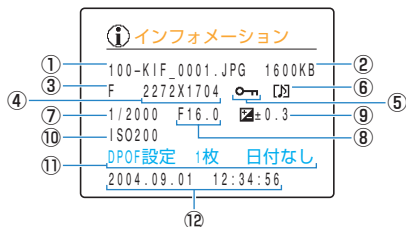
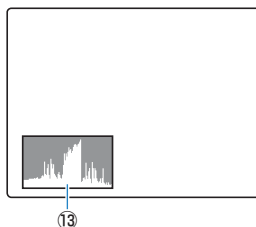
●通常画面での表示

静止画 AUTO モード／
連写 AUTO モード／
SCENE SCENE モード／
EXT. EXT. モード

動画モード

① ストロボモード → 49 ページ
② ホワイトバランス／カラーモード → 76 ページ／ 78 ページ
③ 測光モード → 59 ページ
④ 撮影マーク
⑤ 連写モード → 33 ページ
⑥ ISO 感度 → 62 ページ
⑦ 画素数 → 73 ページ
⑧ 画質 → 74 ページ
⑨ 撮影可能枚数
⑩ AE モード（絞り値）→ 56 ページ
⑪ シャッタースピード／長時間露光 →61 ページ
⑫ AF モード → 68 ページ
⑬ 彩度 → 79 ページ
⑭ シャープネス → 80 ページ
⑮ コントラスト → 82 ページ
⑯ フォーカスフレーム（ワイド AF）→ 66 ページ
⑰ フォーカスフレーム（スポット AF）→ 66 ページ
⑱ マクロ／遠景モード → 42 ページ
⑲ シーンモード → 40 ページ
⑳ セルフタイマー → 44 ページ
㉑ ヒストグラム
㉒ 電子ズーム → 46 ページ
㉓ 露出補正→ 55 ページ
㉔ 手ぶれ警告
㉕ 日付
㉖ バッテリー警告表示
㉗ 音声モード → 37 ページ
㉘ 撮影可能な残りの秒数
㉙ フレームレート → 38 ページ

● MENU ボタン MENU を押したときの表示

静止画 AUTO モード

SCENE SCENE モード／ EXT. EXT. モード

連写 AUTO モード

動画モード

① セルフタイマー → 44 ページ
② 画素数 → 73 ページ
③ 画質 → 74 ページ
④ ドライブモード → 85 ページ
⑤ フレーム／秒 → 38 ページ
⑥ ホワイトバランス → 76 ページ
⑦ 詳細設定

"▶" 再生モードの表示

● MENU ボタン MENU を押したときの表示

① マルチ表示 → 96 ページ
② アフレコ → 108 ページ
③ プロテクト → 105 ページ
④ 消去 → 101 ページ
⑤ 複数消去 → 102 ページ
⑥ リサイズ → 112 ページ
⑦ 回転 → 119 ページ
⑧ スライドショー → 91 ページ
⑨ DPOF → 120 ページ
⑩ PictBridge → 125 ページ

画像データの表示（インフォメーション／ Quick View）

① フォルダー名とファイル名 → 138 ページ
② データ容量
③ 画質（画像の圧縮率）→ 74 ページ
④ 画素数 → 73 ページ
⑤ プロテクトの状態
⑥ 音声の有無
⑦ シャッタースピード → 56ページ／→61 ページ
⑧ 絞り値 → 56 ページ
⑨ 露出補正値 → 55 ページ
⑩ ISO 感度 → 62 ページ
⑪ DPOF 設定の内容 → 120 ページ
⑫ 撮影日時
⑬ ヒストグラム

LED の表示

このカメラには 2 つの LED が付いています。これらの光りかたにより、カメラが今どのような状態であるかをお知らせします。

セルフタイマー LED（赤）

	セルフタイマーが作動しているとき
	動画を撮影しているとき シャッターが作動して撮影が完了したとき 再生モードに設定しているとき セットアップモードに設定しているとき パソコンにつないでいるとき

カードアクセス LED（橙）

	画像などのデータをメモリーカードに記録したり、読み込んだりしているときなど、メモリーカードにアクセスしているときに点滅します。 点滅中は、カードカバーを開けたり、メモリーカードの取り出しは絶対に行わないでください。 カードが破損して、内部データが消えることがあります。

取り扱い上のご注意

安全に関する表示について

この取扱説明書では、カメラを安全に使用していただくために、次のような表示をしています。内容をよくお読みいただき、正しく使用してください。

⚠ 危険	このマークは、製品を正しくお使いいただけなかった場合に、製品の使用者等が死亡または重傷を負う危険性が切迫して想定されることを示します。
⚠ 警告	このマークは、製品を正しくお使いいただけなかった場合に、製品の使用者等が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。
⚠ 注意	このマークは、製品を正しくお使いいただけなかった場合に、製品の使用者等が傷害を負う危険および物的損害の発生が想定されることを示します。

<カメラ使用上のご注意>

⚠ 警告	・カメラを分解、改造しないでください。高電圧がかかり感電する恐れがあります。 ・ストロボ撮影時、ストロボを人の目〈特に乳幼児〉に近づけて撮影しないでください。目の近くでストロボを発光すると視力障害を起こす危険性があります。 ・移動しながらの撮影はおやめください。特にファインダーを覗きながら移動すると事故の原因になります。 ・撮影時は被写体に気をとられすぎずに、周囲の状況にも十分注意をはらってください。

⚠ 注意	・太陽に直接カメラを向けて撮影しないでください。カメラの CCD を損傷します。 ・海岸やほこりの多いところでの撮影後は、カメラをよく清掃してください。潮風は金属を腐食し電子回路の断線ショートの原因となり、発煙・発火を起こすこともあります。また、砂ぼこりは内部機構の作動不良を起こします。 ・寒いところから急に暖かい室内に持ち込むと、レンズがくもることがあります。しばらくするとくもりは消えますが、繰り返し行うとレンズやボディ内部に水滴が生じます。水滴は電子回路の断線、ショートの原因となり、発煙・発火を起こすこともあります。急激な温度変化はできるだけ避けてください。 ・**海外旅行や結婚式など大切な撮影のときは、前もって作動の確認、またはテスト撮影をして正常に記録されていることを確認してから使用してください。** ・カメラは精密な電子機器です。電子回路の断線による発煙・発火や機構の破損の原因となる落下や衝撃は避けてください。 ・このカメラは高性能 IC を使用した電子機器です。ご使用中に IC の放熱によりカメラが熱くなることがあります。故障ではありませんが、長時間皮膚が触れたままになっていると、低温やけどを起こす恐れがありますのでご注意ください。 ・このカメラは防水機構になっていませんので、雨天や水中では使用できません。万一、水に濡れてしまったときは、早めに当社サービスステーションにお持ちいただき、点検を受けてください。 ・撮影レンズ、測光窓などを指紋などで汚すとカメラの精度に影響を及ぼしますので十分注意してください。もし汚れた場合はむやみに拭かず、市販の眼鏡拭き用紙などで軽く拭く程度にしてください。また、ごみやほこりはブロアーで吹き飛ばすかレンズ刷毛で払うようにしてください。 ・本体の汚れを落とすときは、柔らかな布などで拭いてください。ベンジンやシンナーなどの有機溶剤は本体破損の原因になりますので、絶対に使用しないでください。 ・撮影や再生直後など、カードアクセス LED が点滅しているときは、SD メモリーカードまたはマルチメディアカードを取り出さないでください。 ・強力な電磁波を発生させる場所 (テレビやスピーカーのすぐ近くなど) では、画像が乱れて記録されたり、再生画像が乱れることがあります。 ・カメラを落下させたときは、外観に異常がなくても、内部が破損していたり、部品がはずれている場合があります。必ず当社サービスステーションにお持ちいただき、点検を受けてください。 ・カード着脱部の内部には触れないでください。故障の原因となります。

<マイクロコンピューターの保護回路について>

このカメラは外部の強力な静電気に対して、内部のマイクロコンピューターを保護するための安全回路を内蔵しています。この安全回路の働きにより、極めてまれにカメラが作動しなくなることがあります。このような場合はカメラの電源を OFF にし、一旦電池を取り出して、もう一度入れ直してからご使用ください。

<アクセサリーについて>

本製品の機能をフル活用していただくためにも、アクセサリー類は当社製品のご使用をおすすめします。市販されている他社製品、あるいは自作の製品を使用して生じた事故や故障については、当社では保証いたしかねます。

<カメラの保管について>

⚠ 注意	・カメラは湿気やほこりのある場所や防虫剤のあるタンス、実験室のように薬品を扱うところを避け、風通しのよいところに保管してください。電子回路の断線、ショートの原因となり、発煙・発火を起こすこともあります。 ・熱い場所 (夏の海辺、直射日光下の車内など) に長時間置いておくとカメラや SD メモリーカードまたはマルチメディアカード等の性能を低下させ、故障の原因となりますので放置しないでください。 ・カメラを長時間使わないときは電池を取り出しておいてください。電池の液漏れなどによる事故を防ぎます。

<液晶モニターについて>

⚠ 注意	・液晶モニターの画面を強くこすったり、強く押したりすると故障やトラブルの原因になります。もしほこりやゴミが付着した場合は、ブロアーブラシで吹き払ってください。汚れがひどいときは、柔らかい布などで軽く拭き取ってください。 ・万一、液晶モニターが破損した場合、ガラスの破片などでけがをする恐れがありますので十分ご注意ください。 ・液晶モニターの破損により中の液晶が皮膚に付着した場合、すみやかに付着物を拭き取り、水で流し、石鹸でよく洗浄してください。また目に入った場合、きれいな水で最低 15 分間洗浄した後、すみやかに医師の診断を受けてください。 ・液晶モニターの特性上、一部の画素で常時点灯あるいは常時点灯しない画素が存在することがありますが、故障ではありません。また、記録される画像には何ら影響ありません。 ・屋外では日差しの加減で液晶モニターが見えにくくなる場合があります。

<電池取り扱い上のご注意>

⚠ 危険	・電池に直接ハンダ付けしたり、火の中への投入・加熱、変形や分解・改造しないでください。熱により、絶縁物が溶けたり、ガス排出弁や保護機構を損傷したり、電池を漏液、発熱、破裂させる原因となります。

⚠ 警告	・次のようなことは絶対にしないでください。電池が破裂し火災、けがや周囲を汚損する原因となります。 ① このカメラで指定されている電池以外は、使用しないでください。 ② 電池の極性 (＋と－) を逆に入れないでください。 ③ 以下の電池は充電禁止です。絶対に充電しないでください。 ・単 3 形マンガン乾電池 ・単 3 形アルカリ乾電池 ・単 3 形リチウム乾電池 ・電池の液が目に入ると失明の原因になります。こすらずに、すぐに水道水などのきれいな水で十分に洗い流し、直ちに医師の治療を受けてください。 ・電池の＋と－極を針金などの金属で接続したり、金属製のネックレスやヘアピンなどと一緒に持ち込んだり、また保管しないこと。電池がショート状態になり、電池の漏液、発熱、破裂させる原因となります。 ・電池の外装チューブを剥がしたり、キズつけないで下さい。電池がショート状態になりやすく、電池を漏液、発熱、破裂させる原因になる恐れがあります。 ・電池が漏液していたり、変色、変形、その他異常に気づいたときは使用しないで下さい。電池を発熱、破裂させる原因になる恐れがあります。 ・電池が漏液して液が皮膚や衣服に付着した場合には、皮膚に損傷を起こす原因となります。ただちに水道水などのきれいな水で充分洗い流してください。 ・電池を水や海水などにつけたり濡らさないで下さい。電池を発熱させる原因になる恐れがあります。また電池端子がさびることがあります。 ・電池は乳幼児の手の届かないところで保管および使用してください。万一、電池を飲み込んだ場合、電池の液で胃、腸などが損傷する恐れがありますので、ただちに医師と相談してください。

⚠ 注意	・電池は一般に、低温になるにしたがって一時的に性能が低下します。寒冷地での使用の前後はカメラを防寒具や衣服の内側に入れるなどして保温してください。なお低温のために性能の低下した電池は、常温に戻ると回復します。 ・電池の＋－極が汗や油で汚れていると、接触不良を起こす原因になります。乾布でよく拭いてから使用してください。 ・長期の旅行などには、予備の新しい電池を用意してください。 ・電池の＋－極を間違えて入れるとカメラは作動しません。 ・直射日光の当たる場所、炎天下駐車の車内、ストーブなどの熱源のそばなどの高い温度になる場所に放置しないで下さい。 ・長期間ご使用にならない場合は、カメラから電池を外して高温、多湿の場所を避けて保管してください。電池の漏液・発熱、火災の原因となります。

⚠注意	・使用直後の電池は高温になることがあります。やけどの原因となりますので、電池の取り外しはカメラの電源を切り、電池の温度が下がるのを待ってから行ってください。 ・電池に強い衝撃を与えたり、投げつけたりしないでください。電池を漏液、発熱、破裂させる原因になる恐れがあります。 ・新しい電池と使用した電池、あるいは種類やメーカーの異なる電池を混ぜて使用しないで下さい。

<ニッケル水素電池使用上のご注意>

⚠危険	・充電器を使わずに電池を直接電源コンセントや自動車のシガレットライターの差し込み口に接続しないで下さい。感電したり、高い電圧が加えられることによって過大な電流が流れ、電池を漏液、発熱、破裂させる原因となります。

⚠警告	・ニッケル水素電池の充電が、所定時間を越えても完了しない場合、充電を中止してください。電池を漏液、発熱させる原因になる恐れがあります。 ・電池の＋と－極とを逆にして使用しないで下さい。充電時には逆に充電され電池内部で異常な反応が起きたり、放電時に思わぬ異常な電流が流れたりして、電池を漏液、発熱、破裂させる原因となります。

⚠注意	・電池の充電は、専用充電器を使用し、電池、充電器の「使用説明書」に従って正しく行ってください。 ・複数の電池を使用するときは、同時に充電してご使用ください。充電済みの電池と放電した電池、あるいは種類やメーカーの異なる電池を混ぜて使用しないで下さい。電池を漏液、発熱させる原因になる恐れがあります。

・電池接片や電池端子がよごれたときは、乾いた布などで拭いてください。カメラの電池接片や電池電極部分に、指紋などの汚れが付着していますと、抵抗が大きくなり、撮影枚数が少なくなる場合があります。カメラの電池接片や電池電極部分を乾いた柔らかい布を使用して拭いてください。

・充電式電池をお買い上げ後に初めてご使用になるときは、充電と放電を 2 ～ 3 回繰り返してください。また充電式電池を 1 週間以上使用しなかったときも、再度充電してください（→これは長期間放置すると自己放電することにより内部電極部分に電流が流れにくくなる膜が作られるためで、この現象のことを不活性化といいます。）
使用しないで保管されているときでも、自然に放電し容量が徐々に低下致します。この場合は、ご使用の前に再度充電を行ってください。尚、気温が 30 ℃以上の場合は、この自己放電が顕著に現れますので、保管場所にもご留意ください。（→＊充電・放電のしかた＊参照）

・継ぎ足し充電はおやめください。出来るだけ継ぎ足し充電をせずに、完全放電されてからフル充電してください。（これは電池を使い切らずに、継ぎ足し充電を繰り返すと、見かけ上の電池容量が減っていき、電池の寿命が来ていないのに、短時間しか使用できなくなってしまうためで、この現象のことをメモリー効果といいます。）

（撮影後「LOW BATTERY」表示が出たものでも、再生モードでは電源が入ることがあります。この場合も電池が使い切られておりませんので、完全に放電してからフル充電してください。→＊充電・放電のしかた＊参照）

・ 長期間ご使用にならないときは、電池をカメラから外して置いてください。カメラの電源を切っても微小電流が流れています。電池を長期間入れたままにすると過放電状態になり、充電しても使えなくなることがありますので特にご注意下さい。
・ 電池消耗が早いときは、メモリー効果、不活性化または電池の寿命が考えられます。メモリー効果、不活性化の場合、数回充電・放電を繰り返していただくと改善されます。特に撮影枚数が少ないものは電池容量が少ないと考えられ、充電直後では撮影可能ですが、2, 3 日経つと数枚しか撮れないといった現象が顕著に見られます。電池の寿命の場合は、新品電池に交換してください。
・ ニッケル水素電池にも寿命があります。放電と充電を繰り返しても使用可能時間が短い場合は、寿命の可能性があります。

＊充電・放電のしかた＊

1．電池を充電します。
2．カメラに電池とメモリーカード（撮影済み）を入れます。
3．カメラの電源を入れて、再生モードにしてスライドショーを実行します。
4．そのまま電源が切れるまで放置します（放電）。

この充電・放電の作業を２～３回繰り返します。

＊ただし、ご使用の充電器に放電機能がある場合は、そちらをお使いください。
ご使用済みの電池は、(+) または (−) 端子にテープなど貼り、絶縁し、最寄りの充電式電池リサイクル協力店にお持ちください。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。 取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。
航空機の機内や病院など、使用を禁止された場所ではカメラの電源を OFF にしてください。 電子機器などに影響を与え事故の原因となります。

ためし撮りと撮影内容の補償について

必ず事前に試し撮りをし、画像が正常に記録されていることを確認してください。万一本機や記録媒体（SD メモリーカードまたはマルチメディアカード）の不具合により、撮影画像の記録やパソコンへの読み込みが行われなかった場合の記録内容の補償についてはご容赦ください。

著作権について

必ず事前に試し撮りをし、画像が正常に記録されていることを確認してください。万一本機や記録媒体（SD メモリーカードまたはマルチメディアカード）の不具合により、撮影画像の記録やパソコンへの読み込みが行われなかった場合の記録内容の補償についてはご容赦ください。

・ SD ロゴは商標です。
・ MultiMediaCard™ は、ドイツ Infineon Technologies AG 社の商標であり、MMCA（MultiMediaCard Association）へライセンスされています。
・ Microsoft および Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
・ Macintosh および Mac OS、QuickTime™ および QuickTime ロゴは、Apple Computer,Inc. の登録商標です。
・ PRINT Image Matching および PRINT Image Matching II に関する著作権はセイコーエプソン株式会社が所有しています。
・ Adobe, Adobe Acrobat Reader は Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
・ 商標 DPOF は、「デジタルカメラのプリント情報に関するフォーマット、DPOF」に従った製品であることを示すもので、キヤノン株式会社、イーストマンコダック社、富士フイルム株式会社、松下電機産業株式会社が仕様書 Version1.00 に対する著作権を保有しています。
・ すべての会社名、ブランド名または商品名は、それらの所有者の登録商標または商標です。

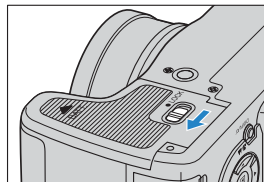
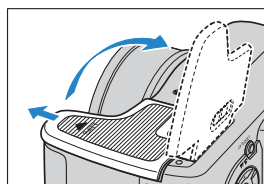
PRINT Image Matching

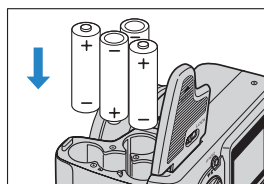
＊本製品は PRINT Image Matching II に対応しています。PRINT Image Matching II 対応プリンタでの出力および対応ソフトウエアでの画像処理において、撮影時の状況や撮影者の意図を忠実に反映させることが可能です。

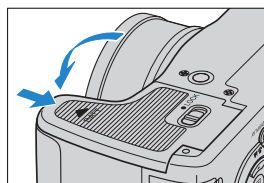
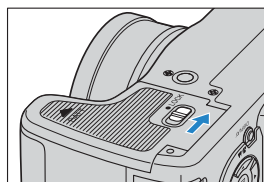
PictBridge

＊本製品は、PictBridge に対応しております。本製品は PictBridge 対応プリンタに直接接続し、デジタルカメラのモニタ上で写真選択や印刷開始を指示することができます。

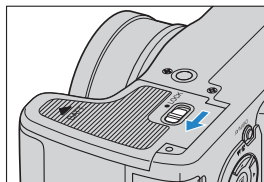
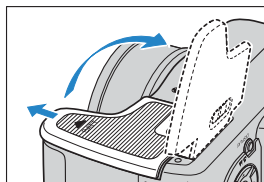
電池を入れる

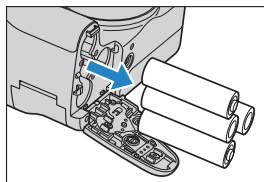
1 バッテリーカバーロックレバーを右図のように動かし、ロックを解除する。

2 バッテリーカバーを △ 方向にスライドして開く。

3 電池を入れる。

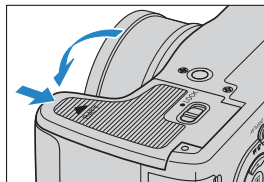
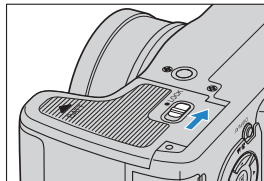
重要　＋とーの向きに注意してください。

4 バッテリーカバーを閉じ、△ 方向と逆にスライドしてロックする。

重要　「カチッ」という音がするまでスライドさせてください。

5 バッテリーカバーロックレバーを右図のように動かし、ロックする。

電池を取り出すときは

重要　カメラの電源が OFF になっていることを確認してください。

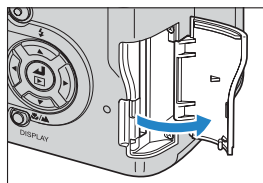
1 バッテリーカバーロックレバーを右図のように動かし、ロックを解除する。

2 バッテリーカバーを △ 方向にスライドして開く。

3 電池を取り出す。

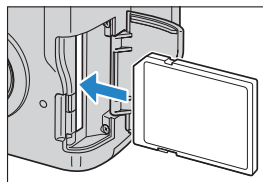
重要　電池を落とさないように注意してください。落下による強い衝撃は液漏れの原因になります。

4 バッテリーカバーを閉じ、△ 方向と逆にスライドしてロックする。

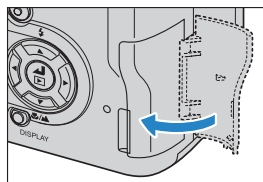
重要　「カチッ」という音がするまでスライドさせてください。

5 バッテリーカバーロックレバーを右図のように動かし、ロックする。

メモリーカードを入れる

重要　カメラの電源が OFF になっていることを確認してください。

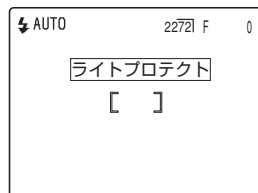
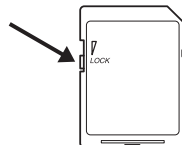
1 カードカバーを開ける。

親指の腹でひっかけるようにして開けてください。

2 メモリーカードを入れる。

重要
- メモリーカードはラベル面を液晶モニター側にして差し込んでください。
- 差し込むときは、「カチッ」という音がして止まるところまで差し込んでください。
- 差し込みがスムーズでない場合は、メモリーカードの裏表を誤って差し込んでいるおそれがあります。無理に差し込まずに、カードの裏表を確認してください。
- メモリーカードにシールなどを貼らないでください。取り出せなくなることがあります。

3 カードカバーを閉める。

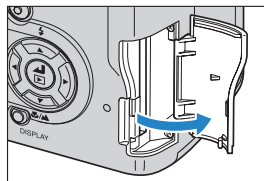
メモ　このカメラの性能を充分に発揮するために、撮影する前に本機でメモリーカードをフォーマットしてください。（→ 150 ページ）

■ライトプロテクト（書込禁止）スイッチ※ SD メモリーカードのみ

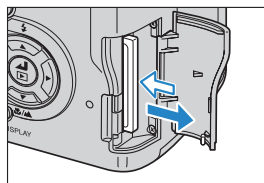
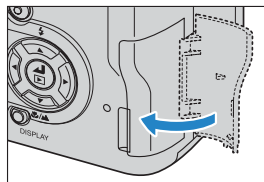
SD メモリーカードにはライトプロテクトスイッチが付いています。
このスイッチを下にスライドするとカードへのデータ書込が禁止され、カードに保存されているデータが保護されます。
“📷”、“[連写]”、“SCENE”、“EXT.”、“[動画]” モードではライトプロテクトされたカードがカメラに入っていると、液晶モニターに “ライトプロテクト” と表示されます。
ライトプロテクトされたカードは撮影や加工ができません。また、カード内の画像を消去したり、フォーマットすることもできません。

ライトプロテクトスイッチ（これを下げるとプロテクトがかかります）

メモリーカードを取り出すときは

重要
- カメラの電源が OFF になっていることを確認してください。
- カードアクセス LED が点滅しているときは、メモリーカードからデータの読み出し／書き込みをしています。点滅中にカードカバーを開けたり、メモリーカードを取り出したりしないでください。データがこわれたり、場合によってはカメラが故障する原因になります。

1 カードカバーを開ける。

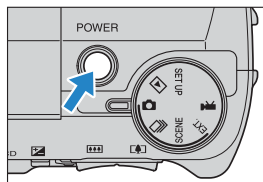
親指の腹でひっかけるようにして開けてください。

2 メモリーカードを指先で軽く押す。

メモリーカードを一回押すと少し飛び出しますので、それを取り出してください。

3 カードカバーを閉める。

電源を ON にする

重要
- 電源を ON にする前に、カメラにメモリーカードが入っていることを確認してください。
- 電源を ON にする前に、レンズキャップをはずしてください。

1 POWER ボタン ◎POWER を押す。

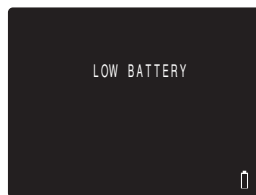
起動画面が表示された後、設定しているモードの通常画面が表示されます。

 メモ
- “”モード以外のモードでは、起動時の液晶表示をEVF（電子ビューファインダー）にするか、液晶モニターにするか選択することができます。（→ 157 ページ）
- POWER ボタン ◎POWER を再び押すと、電源が OFF になります。

■バッテリー警告表示の見かたと電池交換の目安

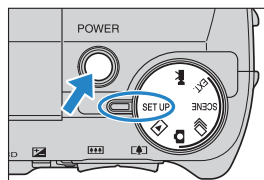
画面に次のバッテリー警告表示が表われたときは、早めに新しい電池またはフル充電した電池に交換してください。

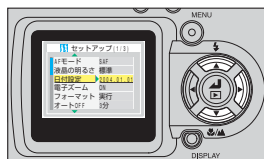
残り少ない状態です。

カメラは作動しません。新しい電池と交換してください。

電池が完全に消耗すると、液晶モニターには“LOW BATTERY”が表示されます。
デジタルカメラは動作環境により、消費電力が大きく変わります。
カメラの動作状態によっては、表示上で電池の容量が残っていても電源が OFF になる場合があります。その際は新しい電池と交換するか、フル充電した電池に交換してください。

日付と時刻を合わせる

初めてご使用になるときは、日付と時刻を合わせてください。
また、電池を取り出したときや、カメラを長い期間お使いになられなかったときも日付がリセットされていることがありますので、この場合も日付と時刻を合わせ直してください。

1 モード切替ダイヤルを“SET UP”に合わせて電源をON にする。

2 上ボタン または下ボタン を押して[日付設定]を選び、右ボタン を押す。

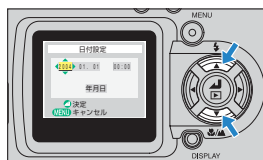
日付設定の詳細画面が表示されます。

3 左ボタンまたは右ボタンを押し、設定する項目を選ぶ。

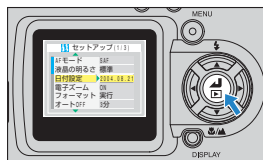
左ボタン または右ボタン を押すと、項目は「年」⇔「月」⇔「日」⇔「時」⇔「分」⇔「日付の表示形式」の順に切り替わります。

■日付の表示形式とは

年、月、日の並び順です。右の 3 通りの表示形式から選ぶことができます。

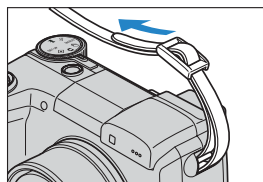
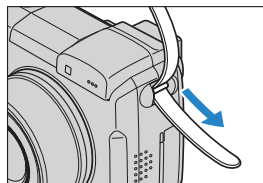
並び順	表示例
年月日	2004. 08. 21
月日年	08. 21. 2004
日月年	21. 08. 2004

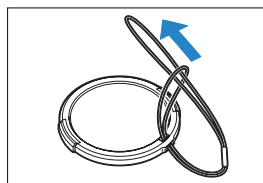
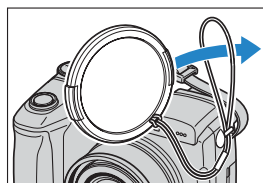
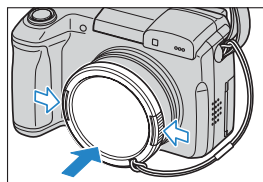
4 上ボタン または下ボタン を押し、年月日の変更／表示形式を選ぶ。

5 決定ボタン を押す。

設定を終了し、セットアップメニュー画面に戻ります。

メモ　このカメラでは、撮影したときの日付と時刻が画像データと一緒にメモリーカードに保存されます。日付を設定しておくと、パソコンを使って画像を管理するときに便利です。

付属品の使いかた

ショルダーストラップの取り付けかた

図のようにして、カメラの両側のストラップ取り付け部に、ショルダーストラップを通します。

レンズキャップの使いかた

1 図のようにして、レンズキャップにひもを取り付けます。

2 ショルダーストラップを少し上に持ち上げながら、カメラのストラップ取り付け部にレンズキャップのひもを取り付けます。

3 レンズキャップの左右のノブを指で軽く押さえながら、カメラに取り付けてください。

撮る

この章では、静止画や動画を撮影する方法を説明します。

▼ご覧になりたい撮影モードをクリックしてください。

静止画を撮る（静止画 AUTO, SCENE, EXT.）

連続して撮影する（連写 AUTO）

動画を撮影する（動画）

この章では各見出しの下に、どのモードで使用できるかアイコンですぐわかるようにしています。
アイコンの意味は下記のとおりです。

対応モード：[静止画]	[静止画]（静止画 AUTO モード）で使用できます。
対応モード：[連写]	[連写]（連写 AUTO モード）で使用できます。
対応モード：SCENE	SCENE（SCENE モード）で使用できます。
対応モード：EXT.	EXT.（EXT. モード）で使用できます。
対応モード：[動画]	[動画]（動画モード）で使用できます

静止画を撮る（静止画 AUTO, SCENE, EXT.）

▼ご覧になりたい項目をクリックしてください。

連写する（連写 AUTO）

▼ご覧になりたい項目をクリックしてください。

動画を撮る（動画）

▼ご覧になりたい項目をクリックしてください。

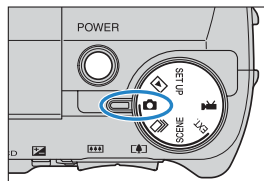
静止画を撮影する

《対応モード：[カメラ]／EXT.》

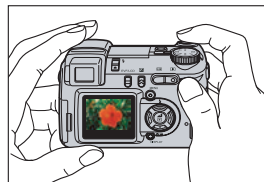
このカメラでは静止画や連写、動画など、様々な撮影を行うことができます。まず、静止画を撮影してみましょう。

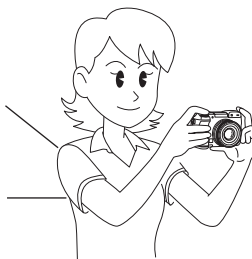
重要　電源を ON にする前に、レンズキャップをはずしてください。

1 モード切替ダイヤルを“[カメラ]”または“EXT.”に合わせて電源を ON にする。

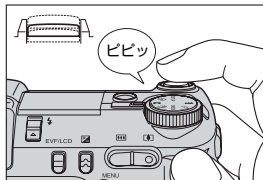
起動画面に続いて、日付が約 3 秒間表示されます。
日付が正しいかどうかを確認してください。

2 構図を決める。

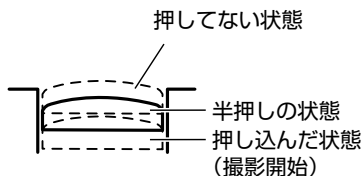
液晶モニターを見ながら撮影する場合は、VF ボタン [EVF/LCD] を押して表示を切り替えます。

メモ　電子ビューファインダーに写る像がぼやけるときは、視度補正ダイヤルを使って調節してください。

■カメラの構えかた

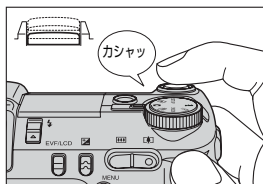
カメラは、左手で本体の底を支えるように持ち、右手はグリップをしっかりと握りましょう。右手の人指し指はシャッターボタンにかけておきます。両ひじを体に密着させるようにすると、カメラが安定し、カメラぶれが少なくなります。

3 シャッターボタンを半押しして、露出とピントを被写体に合わせる。

「ピピッ」という音がして液晶モニター画面に緑色の撮影マーク“●”が点灯すると、ピント合わせは完了です。

メモ 撮影マーク“●”が点滅しているときは、ピントが合っていません。撮影マーク“●”が点灯してピントが合うように、シャッターボタンを半押しし直してください。

■シャッターボタンの半押し

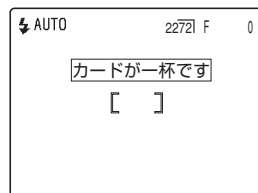
シャッターボタンを押すと、ボタンを押し切る途中で止まるところがあります。シャッターボタンをここまで押した状態を半押しといいます。半押しすることで、カメラはピントを決めて撮影のための準備をします。この状態からさらにシャッターボタンを押し込むと、画像が撮影されます。

4 シャッターボタンをさらに押し込む。

「カシャッ」というシャッター音がして撮影されます。

メモ シャッター音は音量の調節ができます。（→ 156 ページ）

重要 カメラから広角時（[W]）約 60cm 以上、望遠時（[T]）約 2m 以上離れた被写体にピントが合います。それより被写体が近いときは、マクロモードを使って撮影してください。（→ 42 ページ）

■メモリーカードが一杯になったら・・・

メモリーカードが一杯になると、画面に「カードが一杯です」と表示されます。このときは以下のように対処してください。

・ 不要な画像を消去する。
・ パソコンに画像を保存してから、メモリーカードに記録されている画像を消去する。
・ 空き容量のあるメモリーカードに入れ替える。

メモリーカードに記録されている画像を消去する方法は、「消去」、「複数消去」（「選択消去」、「全消去」）、「フォーマット」があります。消去については 101 ページ、フォーマットについては 150 ページをご覧ください。
パソコンに画像を保存する場合は、付属の USB ケーブルを使います。詳しくは「Windows パソコンにつなぐ」（→ 133 ページ）、「Macintosh パソコンにつなぐ」（→ 143 ページ）をご覧ください。

重要

・ シャッターボタンは指先のふくらみで静かに押してください。乱暴に押すとカメラぶれの原因になります。（「カメラぶれにご注意ください」→ 54 ページ）
・ シャッタースピードが遅くなっているときには、画面に手ぶれ警告 [ ] が表示されます。このときはカメラぶれのおそれがありますので、三脚などで固定してセルフタイマーで撮影するか、被写体によってはストロボを使用してください。
（「カメラぶれにご注意ください」→ 54 ページ、「ストロボを使う」→ 49 ページ）
・ 撮影後に赤と白のストロボマーク [ ] が交互に点滅しているときはストロボ充電中です。点灯に変わるまで次の撮影はお待ちください。（「ストロボを使う」→ 49 ページ）
・ カードアクセス LED が点滅しているときは、メモリーカードからデータの読み出し／書き込みをしています。点滅中にカードカバーを開けたり、メモリーカードを取り出したりしないでください。データがこわれたり、場合によってはカメラが故障する原因になります。ただし、カードアクセス LED が点滅中でも撮影はできます。

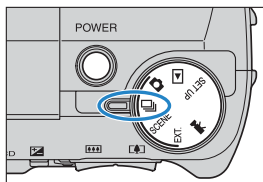
連続して撮影する（連写）

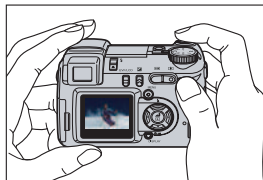
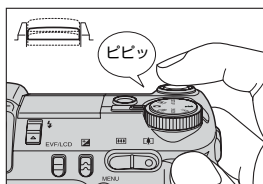
《対応モード：⧉》

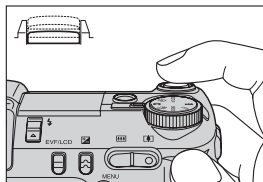
このカメラは最大で毎秒約 3.3 コマ * の連続撮影が可能です。動きのある被写体や、シャッターチャンスを逃したくないときに便利です。

* 高速メモリーカードを使用した場合

重要　電源を ON にする前に、レンズキャップをはずしてください。

1 モード切替ダイヤルを“⧉”に合わせて電源を ON にする。

2 構図を決める。

液晶モニターを見ながら撮影する場合は、VF ボタン EVF/LCD を押して表示を切り替えます。

3 シャッターボタンを半押しして、ピントを被写体に合わせる。

4 シャッターボタンをさらに押し込む。

シャッターボタンを押している間、連写が行われます。

重要

- 毎秒約 3.3 コマの連写性能を発揮するためには、撮影前に本機で SD メモリーカードをフォーマット（→ 150 ページ）してから使用されることをおすすめします。また、撮影と消去を繰り返すと、連写速度が低下する場合があります。このような場合も、一度画像をパソコンなどに保存した後、メモリーカードを本機でフォーマットしてからお使いください。
- 連写できる枚数は、カメラに入っているメモリーカードの容量や種類、または被写体によって異なります。メモリーカードが撮影画像で一杯になると、連写は中断されます。
- メモリーカードへの書き込み速度は、ご使用になるメモリーカードによって異なります。
- 高速記録用の SD メモリーカードをご使用の場合は、毎秒約 3.3 コマの連写速度でメモリーカードが一杯になるまで撮影できます。（被写体によって速度が異なります。）
- 被写体が暗くてシャッタースピードが遅くなるような状況では、連写速度が毎秒約 3.3 コマよりも遅くなることがあります。
- ストロボが発光する場合は、ストロボの充電が完了するまで連続して撮影できません。

メモ

セルフタイマーを併用すると、指定した時間後に毎秒約 3.3 コマの高速連写で 3 枚画像を撮影します。（「[セルフタイマー] セルフタイマーで撮影する」→ 44 ページ）

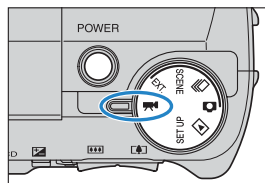
動画を撮影する

《対応モード：》

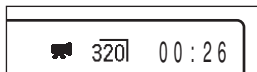
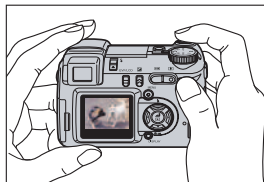
このカメラでは、音声付きの動画を撮影することができます。

重要

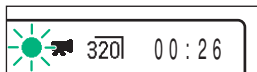
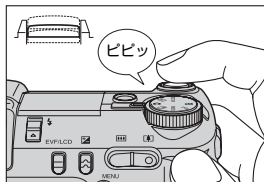
- このカメラは、ズームの作動音を拾わないように、音声ありの動画では撮影中にズームできないようになっています。撮影前にズームして構図を決めるか、電子ズーム（→ 47 ページ）をお使いください。音声なしに設定すると、撮影中でも光学ズームを使用することができます。（「[音声] 音声を付けないで動画を撮影する」→ 37 ページ）
- 電源を ON にする前に、レンズキャップをはずしてください。

1 モード切替ダイヤルを “” に合わせて電源を ON にする。

2 構図を決める。

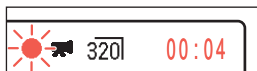
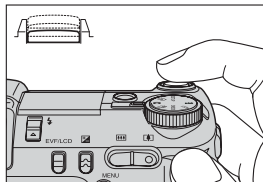
液晶モニターを見ながら撮影する場合は、VF ボタン EVF/LCD を押して表示を切り替えます。
画面右上に撮影できる時間が表示されます。

320 00:26

3 シャッターボタンを半押しして、ピントを被写体に合わせる。

「ピピッ」という音がして液晶モニター画面に緑色の撮影マーク“●”が点灯すると、露出とピント合わせは完了です。

320 00:26

メモ 動画を撮影しているときは周囲の状況に応じて露出が調整されますが、ピントは変わりません。最後まで、撮影を開始する際に合わせたピントで撮影されます。

4 シャッターボタンをさらに押し込む。

動画の撮影が始まります。
動画撮影中は撮影マーク“●”（赤）とセルフタイマー LED が点灯します。画面右上に撮影中の秒数がカウント表示されます。
撮影できる残りの秒数が 10 秒未満になると、カウンター表示が赤に変わります。

256MB のメモリーカードを使用した場合、以下の秒数を目安として各画素数で撮影することができます。
（フレームレート：30fps、新品またはフォーマット済メモリーカードを使った場合）

画素数	秒数
640 × 480	約 1 分 50 秒
320 × 240	約 7 分

動画モードの撮影可能時間表示について
- 動画モードにおいて撮影開始前に液晶画面に表示されている撮影時間は、1 回の撮影で連続して撮影できる時間ではありません。連続して動画撮影できる時間は、SD メモリーカードの書き込み速度に規制されますので、ご使用される SD メモリーカードによって異なります。
- 高速書き込み可能な SD メモリーカード使用時（10MB/S 以上の書き込み速度を有する SD メモリーカード）は、液晶パネルに表示されている撮影可能時間分を目安とした連続動画撮影が可能です。

重要
- SD カードの書き込み速度によっては撮影が途中で止まる場合があります。
- 画素数と撮影できる時間について、詳しくはかんたんマニュアルの「主な仕様」をご覧ください。

5 シャッターボタンを半押しして、撮影を終了する。

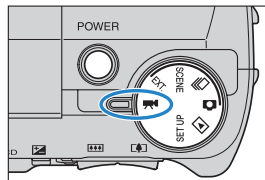
メモ　シャッターボタンを半押ししないと、メモリーカードの容量がなくなるまで撮影が続きます。

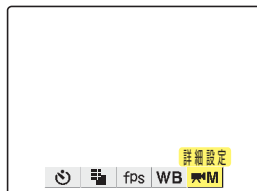
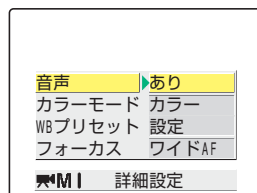
[音声] 音声を付けないで動画を撮影する

《対応モード：》

動画を音声なしで撮影することもできます。

重要　電源を ON にする前に、レンズキャップをはずしてください。

1 モード切替ダイヤルを“”に合わせて電源を ON にする。

2 MENU ボタン MENU を押して、メニューアイコンを表示させる。

3 左ボタン または右ボタン を押して詳細設定［M］を選び、決定ボタン を押す。

4 上ボタン または下ボタン を押して［音声］を選び、右ボタン を押す。

5 上ボタン または下ボタン を押して［なし］を選び、決定ボタン を押す。

音声なしが設定されます。

6 MENU ボタン MENU を押す。

のアイコンが表示されます。

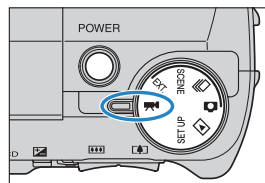
重要　この設定は電源を OFF にしても保持されます。

［fps］動画のコマ数を決める（フレームレート）

《対応モード：》

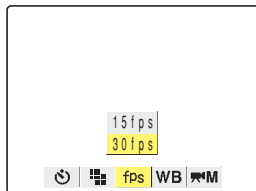
動画で 1 秒間に撮影するコマ（フレーム）数をフレームレートといいます。毎秒 30 コマ撮影できる［30fps］と、毎秒 15 コマ撮影できる［15fps］のいずれかに設定できます。
［30fps］は動画の動きがスムーズになりますが、［15fps］よりも撮影時間は短くなります。

重要　電源を ON にする前に、レンズキャップをはずしてください。

1 モード切替ダイヤルを“”に合わせて電源を ON にする。

2 MENU ボタン MENU を押して、メニューアイコンを表示させる。

3 左ボタン または右ボタン を押してフレーム／秒［fps］を選び、決定ボタン を押す。

4 上ボタン またはは下ボタン を押して設定したいフレームレートを選び、決定ボタン を押す。

フレームレートが設定されます。
[30fps]：毎秒 30 コマ撮影します。（初期設定）
[15fps]：毎秒 15 コマ撮影します。

5 MENU ボタン MENU を押す。

設定したフレームレートが表示されます。

重要　この設定は電源を OFF にしても保持されます。

撮影シーンを選んでフォーカスやストロボを自動設定する

被写体に応じた最適な撮影方法を設定できます。

シーンモードを切り替える

《対応モード：SCENE》

重要　電源を ON にする前に、レンズキャップをはずしてください。

1 モード切替ダイヤルを“SCENE”に合わせて電源を ON にする。

シーンモードメニュー画面が表示されます。

2 上ボタン または下ボタン を押して、被写体に適した撮影モードを選ぶ。

各撮影モードについては 41 ページをご覧ください。

3 決定ボタン を押す。

撮影モードが設定されます。設定したモードで撮影できます。
撮影モードを変更する場合は、MENU ボタン MENU を押して再び撮影モードを選んでください。

重要
- この設定は電源を OFF にすると初期設定に戻ります。設定を保持したい場合は、モードロック（→ 154 ページ）を ON にしてください。
- シーンモードではモードを切り替えるたびに、各種設定がそのモードの初期設定に戻ります。

“SCENE”の撮影モードには以下の４つのモードがあります。

スポーツモード

スポーツなどの動きのある被写体に最適な撮影モードです。

ポートレートモード

人物撮影に適した撮影モードです。
この撮影モードでは、肌の色が美しく再現されるようにホワイトバランスが最適化されます。

夜景モード

夜景を撮影するのに最適な撮影モードです。
ストロボは発光しないように設定され、フォーカスは無限遠に固定されます。

夜景ポートレートモード

夜景を背景にした人物撮影に最適な撮影モードです。
ストロボは周囲の明るさに応じて自動的に発光する「自動発光」、または人物の赤目現象を防ぐ「赤目軽減自動発光モード」が選べます。

重要

- 夜景モード、夜景ポートレートモードは、シャッタースピードが遅くなりますので、撮影時にはカメラを三脚などで固定し、セルフタイマー（→ 44 ページ）を使用するなどして、カメラぶれを防いでください。
- これらの設定は電源を OFF にすると初期設定に戻ります。設定を保持したい場合は、モードロック（→ 154 ページ）を ON にしてください。
- “SCENE”では、ISO、AE モード、長時間露光の設定を変えることはできません。
- 夜景ポートレートモードでは、露出補正を変更することはできません。

マクロ／遠景モードを切り換える

《対応モード：[カメラ]／[連写]／SCENE／EXT.／[動画]》

近くの被写体や風景を撮影するとき、それぞれに適した設定で撮影が行えるようにします。

1 “[カメラ]”、“[連写]”、“SCENE”、“EXT.”、“[動画]” モードで撮影できる状態のときに、下ボタン [マクロ/遠景] を押す。

下ボタン [マクロ/遠景] を押すたびに、マクロ／遠景モードが切り替わります。

重要 この設定は電源を OFF にすると初期設定に戻ります。設定を保持したい場合は、モードロック（→ 154 ページ）を ON にしてください。

メモ 夜景モードと夜景ポートレートモードではマクロ／遠景モードを切り換えることはできません。

[マクロ] マクロモード

被写体に約10cm* までカメラを近づけて撮影できるモードです。マクロモードで撮影できる距離は、以下のようになります。
広角側：約 0.1 ～約 0.6m*
望遠側：約 0.9 ～約 2.0m*
ストロボは発光禁止、または強制発光が選べます。（→ 49 ページ）
* カメラのレンズ前面から被写体までの距離です。

■マクロ撮影のしかた

構図を決めシャッターボタンを半押しします。「ピピッ」という音がして、画面に緑色のマーク“●”が点灯すると、ピント合わせは完了です。
その後、カメラがぶれないようにシャッターを切ります。

重要　撮影倍率が大きいマクロモードは、カメラぶれを防ぐためにカメラを三脚などで固定してセルフタイマーで撮影してください。（→ 44 ページ）

▲遠景モード

遠景が中心の、風景写真に適した撮影モードです。
ストロボは発光しないように設定され、フォーカスは無限遠に固定されます。

[] セルフタイマーで撮影する

《対応モード：／／ SCENE ／ EXT. ／》

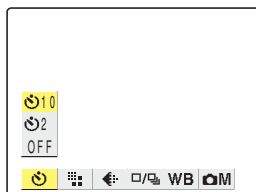
撮影する人も一緒に写りたいときなどに使用します。シャッターボタンを押してから 2 秒後もしくは 10 秒後にシャッターが切れます。2 秒後にシャッターが切れるセルフタイマーは、静止画のマクロ撮影や夜景撮影時に使用すると、カメラぶれを防ぐのに効果があります。

重要　電源を ON にする前に、レンズキャップをはずしてください。

1 モード切替ダイヤルを “”、“”、“SCENE”、“EXT.”、または “” に合わせて、電源を ON にする。

2 MENU ボタン MENU を押して、メニューアイコンを表示させる。

3 左ボタン または右ボタン を押してセルフタイマー [] を選び、決定ボタン を押す。

4 上ボタン または下ボタン を押して設定したい秒数を選び、決定ボタン を押す。

セルフタイマーが設定されます。
設定した秒数に応じたアイコンが表示されます。
[10]　：セルフタイマー 10 秒（10 秒後にシャッターが切れます。）
[2]　：セルフタイマー 2 秒（2 秒後にシャッターが切れます。）
[OFF]：通常の撮影になります。（初期設定）

5 MENU ボタン MENU を押す。

6 シャッターボタンを押す。

セルフタイマーで設定した時間が経過するとシャッターが切れます。動画撮影時はセルフタイマーが設定した時間が経過すると撮影が始まります。

重要

- このモードは、撮影後に設定が解除されます。続けてセルフタイマー撮影するときは、再度設定を行ってください。
- セルフタイマー撮影を途中で中止するときは、シャッターボタンを半押ししてください。

メモ

- カメラは三脚などで固定して撮影してください。
- 連写では、指定した時間後に毎秒約 3.3 コマの高速連写で 3 枚画像を撮影します。

ズームを使って撮影する（望遠と広角）

《対応モード：[カメラ]／[連写]／ SCENE ／ EXT. ／[動画]》

運動会や学芸会など、遠くの被写体を拡大して撮影するときや、遠くの風景を拡大して構図を決めるときに使います。

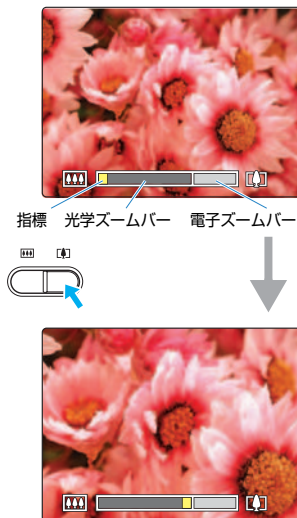
・ズームボタン [T] ：画像が拡大されます。
・ズームボタン [W] ：拡大された画像が元に戻り、広い範囲を撮影できます。

このカメラにはレンズで倍率を変える光学ズームに加えて、画像をデジタル的に拡大する電子ズームがあります。電子ズームと光学ズームの組み合わせで静止画は最大 60 倍まで、動画は最大 20 倍までの拡大ができます。

重要
・電子ズームを使用すると画質が低下します。
・電源を ON にする前に、レンズキャップをはずしてください。

1 撮影する前にズームボタンの [T] 側を押す。

ズームボタンを押すと、画面下にズームバーが表示されます。ズームの拡大､縮小に応じてズームバー中の指標が左右に動きます。

指標　光学ズームバー　電子ズームバー

ズームバーは､ズームボタンから指を離しても約 2 秒間表示されます。

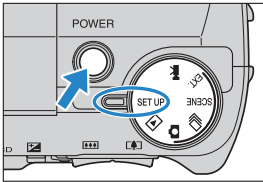
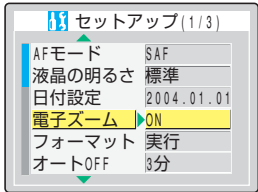
2 画像が最大に拡大されたら、ズームボタンから一度指を離し、再度ズームボタンの [ ] 側を押す。

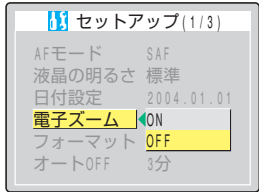
ｘ1.3、ｘ1.6、ｘ2.0、x3.0、x4.0、x5.0、x6.0の順に拡大されます。（電子ズーム）
電子ズームを使用しているときは、ズームバーの右側に電子ズーム用のズームバーが表示されます。
電子ズームで拡大できる倍率は、設定している画素数（→ 73 ページ）によって異なります。

画素数	電子ズームで拡大できる倍率
2272 × 1704	4.0 倍まで
1600 × 1200	5.0 倍まで
1280 × 960	6.0 倍まで
640 × 480	6.0 倍まで

電子ズームを使うかどうかを選ぶ

電子ズームを使わないように設定できます。

1 モード切替ダイヤルを “SET UP” に合わせて電源を ON にする。

2 上ボタン [ ] または下ボタン [ ] を押して［電子ズーム］を選び、右ボタン [ ] を押す。

3 上ボタン または下ボタン を押して [OFF] を選び、決定ボタン を押す。

電子ズームが起動しないように設定されます。
電子ズームを使用する場合は、［ON］を選びます。

重要　この設定は電源を OFF にしても保持されます。

ストロボを使う

《対応モード：[カメラ] ／ [連写] ／ SCENE ／ EXT.》

周囲の明るさに合わせて、カメラがストロボを発光させるかどうかを決定します。その他にも、撮影の状況に適した各種ストロボモードを利用できます。

重要　ストロボを使った近距離撮影時は、ISO 感度を 200 以下に設定することをおすすめします。ISO 感度を高感度に設定して近距離で撮影すると、露出オーバーになります。

ストロボモードの種類

[⚡AUTO] 自動発光モード

周囲の明るさに合わせて、カメラがストロボを発光させるかどうかを決定します。

[赤目AUTO] 赤目軽減自動発光モード

ストロボを撮影直前と撮影時の 2 回発光させて赤目現象を軽減します。自動発光モードと同様に、周囲の明るさに合わせて、カメラがストロボを発光させるかどうかを決定します。

重要　1 回目の発光では撮影が行われずに、2 回目の発光時に撮影されます。1 回目の発光後、カメラや撮影物を動かさないようにしてください。

[発光禁止] 発光禁止モード

周囲の明るさに関係なくストロボの発光を禁止します。 夕暮れや室内の雰囲気を撮影したいときなどに適しています。

重要
- 明るさによってはシャッタースピードが遅くなることがありますので、撮影時にはカメラを三脚などで固定し、セルフタイマー（→ 44 ページ）を使用するなどして、カメラぶれを防いでください。
- 撮影画像が暗いときは、露出補正（→ 55 ページ）や ISO 感度（→ 62 ページ）を使って調節してください。

[⚡] 強制発光モード

周囲の明るさに関係なくストロボを発光させます。 強い日差しの下や逆光下で被写体が暗くなってしまう場合など、ストロボを発光すると被写体も背景もきれいに撮ることができます。

[赤目⚡] 赤目軽減強制発光モード　※長時間露光またはシャッター優先設定時のみ

長時間露光（→ 61 ページ）設定時または AE モードがシャッター優先（→ 56 ページ）のときだけ設定できるモードです。 周囲の明るさに関係なく、撮影直前と撮影時に 2 回発光して、 赤目に写るのを軽減します。

設定のしかた

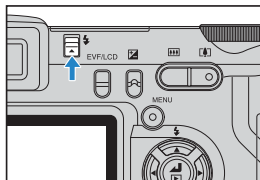
"📷"、"⧉" または "EXT." のとき

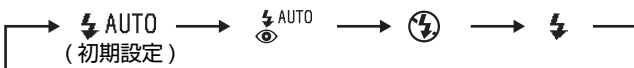
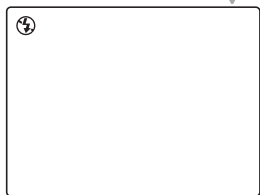
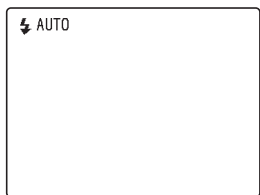
❢ **重要**　電源を ON にする前に、レンズキャップをはずしてください。

1 モード切替ダイヤルを "📷"、"⧉" または "EXT." に合わせて、電源を ON にする。

2 ストロボポップアップレバー を押す。

ストロボがポップアップされます。

メモ　ストロボを閉じるときは、ポップアップしたストロボを指で押し戻してください。

3 上ボタン を押して設定したいモードのアイコンを選ぶ。

上ボタン を押すたびにストロボモードのアイコンが、以下のように切り替わります。

メモ　発光禁止モードをお使いのときは、ストロボのポップアップは不要です。

重要

・マクロ／遠景モード（→ 42 ページ）や AE モード（→ 56 ページ）、長時間露光（→ 61 ページ）の設定によって、選べるストロボモードが以下のように異なります。

AE モード／長時間露光	マクロ／遠景モード	
	ノーマル	マクロ
[プログラム]（自動）	自動発光（初期設定）⇒赤目軽減 AUTO ⇒発光禁止⇒強制発光	発光禁止（初期設定）⇒強制発光
[絞り優先]		
[シャッター優先]	強制発光（初期設定）⇒赤目軽減強制⇒発光禁止	
[長時間露光]	発光禁止（初期設定）⇒赤目軽減強制	選択できません。発光禁止になります。

※マクロモードで強制発光モードをお使いの場合は露出オーバーになりますので、露出補正（→ 55 ページ）を使って調節してください。

※遠景モードにしている場合は発光禁止になり、ストロボモードは選べません。

※ [プログラム]（自動）または [絞り優先] と長時間露光を設定している場合は、長時間露光の選択項目になります。

・ドライブモード（→ 85 ページ）でブラケットを設定している場合は発光禁止になり、ストロボモードは選べません。

・この設定は、電源を OFF にすると初期設定に戻ります。“EXT.”モードでは、モードロック（→ 154 ページ）を ON にすると、設定を保持することができます。

“SCENE” のとき

重要　電源を ON にする前に、レンズキャップをはずしてください。

1 モード切替ダイヤルを “SCENE” に合わせて、電源を ON にする。

2 ストロボポップアップレバー を押す。

ストロボがポップアップされます。

メモ　ストロボを閉じるときは、ポップアップしたストロボを指で押し戻してください。

3 上ボタン を押して設定したいモードのアイコンを選ぶ。

各シーンモードで選べるストロボモードは、以下のようになります。

シーンモード	選択できるストロボモード
スポーツモード	自動発光⇒赤目軽減 AUTO ⇒発光禁止⇒強制発光
ポートレートモード	
夜景モード	発光禁止
夜景ポートレートモード	自動発光⇒赤目軽減強制

重要
- 夜景以外のモードを設定したとき、ストロボモードの初期設定は AUTO になります。
- 夜景ポートレートモードでは、ストロボを閉じた状態で撮影することはできません。
- この設定は電源を OFF にすると、初期設定に戻ります。

■マクロ／遠景モード、AE モード、ドライブモードでのストロボの変化

マクロ／遠景モード（→ 42 ページ）、AE モード（→ 56 ページ）およびドライブモード（→ 85 ページ）の各設定を変更すると、ストロボモードは以下の設定になります。

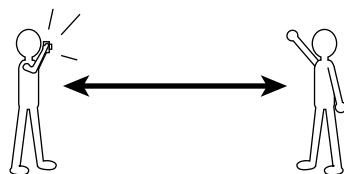
・マクロ／遠景モード
ノーマル：前回設定したノーマル時のストロボモードになります。
マクロ　：発光禁止になります。
遠景　　：発光禁止になります。

・AE モード

AE モードの変化	ストロボの変化
プログラム⇔絞り優先	AE モード変化前のストロボモードを継続します。
プログラム→シャッター優先 絞り優先→シャッター優先	自動発光の場合は強制発光に変わります。 赤目軽減 AUTO の場合は赤目軽減強制に変わります。 発光禁止の場合は発光禁止のままです。 強制発光の場合は強制発光のままです。
シャッター優先→プログラム シャッター優先→絞り優先	赤目軽減強制の場合、赤目軽減 AUTO に変わります。 強制発光の場合は強制発光のままです。 発光禁止の場合は発光禁止のままです。

・ドライブモード
単写　　　　　　　：前回設定した単写時のストロボモードになります。
高速連写／ AF 連写：連写性能を上げるため、一時的に発光禁止になります。
ブラケット　　　　：発光禁止になります。

■ストロボの光が届く距離

ズーミングの状態と ISO 感度、AE モードの設定によって違いがあります。
撮影のときは右図の距離を参考にしてください。（ISO → 62 ページ）
詳しくはかんたんマニュアルの「主な仕様」をご覧ください。

広角時：約 0.6m ～約 4.4m
望遠時：約 0.9m ～約 4.0m
（ISO：AUTO 時）

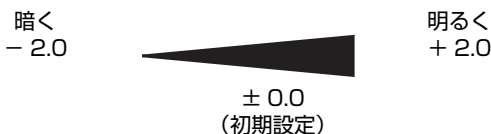
■カメラぶれにご注意ください

カメラぶれとは、撮影時にカメラが揺れたために画像がボケてしまう現象です。シャッタースピードが遅いときやマクロ撮影のときに起こりやすなります。特にマクロ撮影では拡大率が大きく、さらに被写界深度が極端に浅くなるのでシャッターボタンを押したときのカメラの小さな揺れが画像に大きく影響してしまいます。
このような場合は、カメラを三脚などで固定して撮影します。また、シャッターボタンを押したときにカメラが揺れるのを防ぐために、セルフタイマー（→ 44 ページ）を併用するとより効果的です。

明るさを調整する

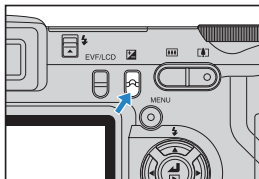
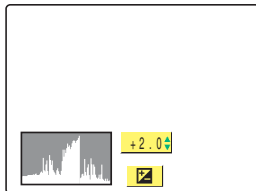
[ ] 露出を補正する

《対応モード：SCENE ／ EXT. ／ 》

露出補正は、撮影画像の明るさを調節したいときに使います。被写体とその背景の明るさが極端に違うために、適正な露出が得られない場合や、意図的に露出がアンダーやオーバーの画像を撮りたいときに利用します。
このカメラでは、1/3EV おきに「－」または「＋」に最大 2.0EV までの補正ができます。

重要　電源を ON にする前に、レンズキャップをはずしてください。

1 モード切替ダイヤルを “SCENE”、“EXT.”、または “ ” に合わせて、電源を ON にする。

2 露出補正ボタン を押す。

露出補正設定メニュー画面が表示され、補正値と画像のヒストグラムが表示されます。

3 上ボタン または下ボタン を押して設定したい補正値を選ぶ。

4 決定ボタン を押す。

補正値が設定されます。
設定した補正値が表示されます。

+2.0

重要

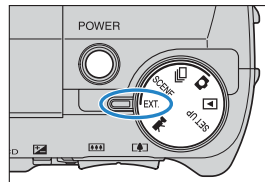
- 設定した補正値は、撮影後も保持されます。
- この設定は電源を OFF にすると、初期設定に戻ります。“EXT.”モードでは、モードロック（→ 154 ページ）を ON にすると設定を保持することができます。
- ストロボ発光時の補正値は、－ 1.0 ～＋ 1.0EV に制限されます。
- 評価測光（→ 59 ページ）使用時は、被写体によっては露出補正が設定通りにならない場合があります。
- 長時間露光を設定すると、露出補正が設定できなくなります。

[AE モード] 露出の合わせかたを選ぶ

《対応モード：EXT.》

AE（自動露出）モードは、「プログラム」（自動）、「絞り優先」または「シャッター優先」のいずれかに設定できます。
[プログラム] は、カメラが自動的に絞り値とシャッタースピードを決めます。初めてカメラをお使いになる方や、露出設定を気にせずに撮影したい方におすすめします。
[絞り優先] は、絞り値を決めると、被写体の明るさに応じたシャッタースピードをカメラが自動的に設定します。
絞り値を小さくして撮影すると、鮮明に写る前後の範囲がせまくなります。背景をぼかして被写体を浮かび上がらせた撮影ができます。絞り値を大きくして撮影すると、鮮明に写る範囲が広くなります。被写体も背景も鮮明に写した撮影ができます。（被写界深度、参照。）
[シャッター優先] は、シャッタースピードを決めると、被写体の明るさに応じた絞り値をカメラが自動的に設定します。たとえば、動きのあるスポーツの瞬間を撮るときは、速いシャッタースピード（値を小さく）にし、ストロボが使えない明るさが足りない場所での撮影には、シャッタースピードを遅く（値を大きく）設定します。（シャッタースピード、シャッタースピード優先 AE、参照。）

重要　電源を ON にする前に、レンズキャップをはずしてください。

1 モード切替ダイヤルを“EXT.”に合わせて電源を ON にする。

2 MENU ボタン MENU を押して、メニューアイコンを表示させる。

3 左ボタン または右ボタン を押して詳細設定［M］を選び、決定ボタン を押す。

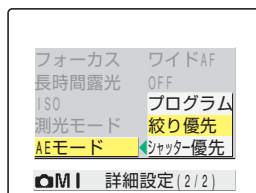
4 上ボタン または下ボタン を押して［AE モード］を選び、右ボタン を押す。

5 上ボタン または下ボタン を押して設定したいモードを選び、決定ボタン を押す。

AE モードが設定されます。

［プログラム］　：カメラが自動的に絞り値とシャッタースピードを決めます。（初期設定）

［絞り優先］　：絞り値を設定すると、カメラが自動的に適切なシャッタースピードを選びます。

［シャッター優先］：シャッタースピードを設定すると、カメラが自動的に適切な絞り値を選びます。

6 MENU ボタン MENU を押す。

絞り値 / シャッタースピードが表示されます。
左ボタン または右ボタン を押すと、絞り値／シャッタースピードを変更することができます。

AE モード対応範囲外のとき

プログラム時	絞り値 / シャッタースピードが赤く表示されます。この状態で撮影しても適正な露出は得られません。
絞り優先時	絞り値が赤く表示されます。この状態で撮影しても適正な露出は得られません。
シャッター優先時	シャッタースピードが赤く表示されます。この状態で撮影しても適正な露出は得られません。

重要
- [シャッター優先] を選択しているときは、長時間露光を設定できません。
- この設定は電源を OFF にしても保持されます。

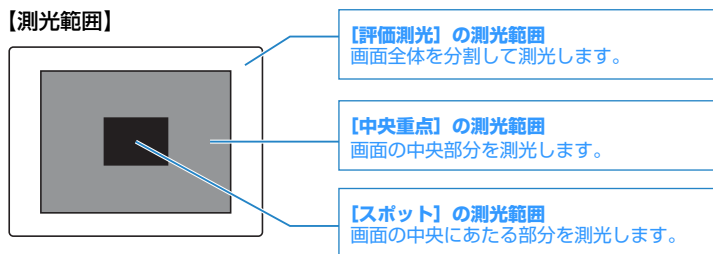
［測光モード］露出を合わせる範囲を選ぶ

《対応モード：SCENE ／ EXT.》

露出を合わせる範囲を選ぶモードです。評価測光、中央重点、またはスポットのいずれかに設定できます。被写体によって使い分けてください。

［評価測光］は、画面を分割して、それぞれの部分を測光して得られたデータから被写体の条件に最適な露出値を決めます。一般的な撮影や逆光などの撮影でもほとんど露出補正なしに撮影できますので、初めてカメラをお使いになる方や、露出設定を気にせずに撮影したい方におすすめします。

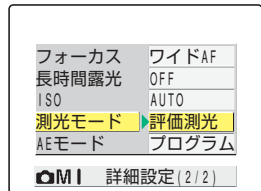
［中央重点］は、主に画面の中央部分の被写体の明るさを重点的に測光して露出値を決める方式です。被写体の周辺に強い光源がある場合の撮影でも容易に露出を決めることができます。

［スポット］は、画面中央にあたる被写体の明るさのみ測光して露出値を決める方式です。たとえば、逆光の人物や特定の部分のライティングを活かした舞台撮影など、被写体と背景の明るさが極端に違う場合、また、画面効果を考えて、特に被写体の一部分を測光したい場合などは、この［スポット］を利用します。

重要　電源を ON にする前に、レンズキャップをはずしてください。

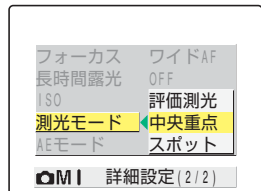
1 モード切替ダイヤルを“SCENE”、“EXT.”に合わせて、電源を ON にする。

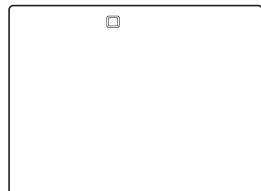
2 MENU ボタン ◎MENU を押して、メニューアイコンを表示させる。

3 左ボタン 〈 または右ボタン 〉 を押して詳細設定［📷M］を選び、決定ボタン ⓓ を押す。

4 上ボタン ︿ または下ボタン ﹀ を押して［測光モード］を選び、右ボタン 〉 を押す。

5 上ボタン ︿ または下ボタン ﹀ を押して設定したいモードを選び、決定ボタン ⓓ を押す。

測光モードが設定されます。

[表示なし]	[評価測光]	：画面全体を 256 分割して光の量を測り（測光）、その被写体に最適な露出値を決めます。（初期設定）
[□]	[中央重点]	：画面の中央部（スポットより大きい範囲）を重点的に測光し、露出値を決めます。
[⊡]	[スポット]	：画面の中央部を測光し、露出値を決めます。

6 MENU ボタン ⓞMENU を押す。

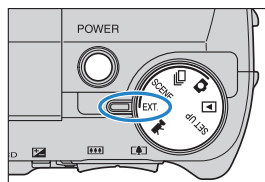
設定した測光モードのアイコンが表示されます。

❢ **重要**　この設定は電源を OFF にしても保持されます。

[長時間露光] シャッタースピードを遅くして暗いものを撮る

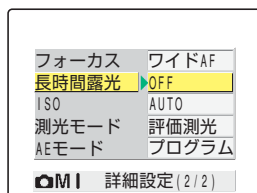
《対応モード：EXT.》

星空や暗がりでの小さな光（ろうそくなど）を撮影するときは、シャッタースピードを遅くします。シャッタースピードが遅いほど被写体を写し込む時間が長くなります。

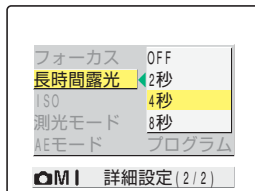
重要
- 長時間露光では、必ずカメラを三脚などで固定して撮影してください。
- 電源を ON にする前に、レンズキャップをはずしてください。

1 モード切替ダイヤルを "EXT." に合わせて電源を ON にする。

2 MENU ボタン MENU を押して、メニューアイコンを表示させる。

3 左ボタン または右ボタン を押して詳細設定 [M] を選び、決定ボタン を押す。

4 上ボタン または下ボタン を押して [長時間露光] を選び、右ボタン を押す。

5 上ボタン または下ボタン を押して設定したいモードを選び、決定ボタン を押す。

秒数が設定されます。

[表示なし]　[OFF]　：通常の撮影（初期設定）
[LT2S]　[2 秒]　：2 秒のシャッタースピード
[LT4S]　[4 秒]　：4 秒のシャッタースピード
[LT8S]　[8 秒]　：8 秒のシャッタースピード

6 MENU ボタン MENU を押す。

設定した秒数のアイコンが表示されます。

重要
- シャッタースピードを長く設定すると､画像にノイズが含まれることがあります。
- 電源を OFF にすると、長時間露光は解除され、通常の撮影（初期設定）に戻ります。
- カメラぶれに注意してください。(→ 54 ページ)
- 長時間露光を設定すると、AE モードの [シャッター優先] は選択できなくなります。

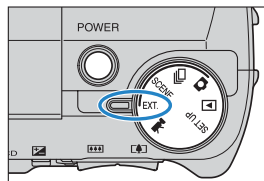
[ISO] ISO 感度を変えて動きの速い被写体を撮る

《対応モード：EXT.》

[ISO] はフィルムの ISO 感度に相当するもので､光に対する敏感さを表しています。

このモードでは、[AUTO]、[100]、[200]、[400]、[800] があり、数値が高いほど画質は荒くなりますが､光に対する感度は高くなり、暗いところでの撮影や高速シャッターでの撮影ができます。また、ストロボ光の届く距離も少し長くなります。初期設定は [AUTO] で、周囲の状況に合わせた ISO 感度をカメラが自動的に設定します。

重要　電源を ON にする前に、レンズキャップをはずしてください。

1 モード切替ダイヤルを "EXT." に合わせて電源を ON にする。

2 MENU ボタン ◎MENU を押して、メニューアイコンを表示させる。

3 左ボタン 《 または右ボタン 》 を押して詳細設定［📷M］を選び、決定ボタン を押す。

4 上ボタン または下ボタン を押して［ISO］を選び、右ボタン 》 を押す。

5 上ボタン または下ボタン を押して設定したいモードを選び、決定ボタン を押す。

ISO のモードが設定されます。

［表示なし］［AUTO］　：周囲の状況に合わせた ISO 感度をカメラが設定します。（初期設定）

［ISO100］［100］　：ISO100 に固定します。

［ISO200］［200］　：ISO200 に固定します。

［ISO400］［400］　：ISO400 に固定します。

［ISO800］［800］　：ISO800 に固定します。

6 MENU ボタン MENU を押す。

設定した数値のアイコンが表示されます。

ISO200

重要 この設定は電源を OFF にしても保持されます。

フォーカス（ピント）を合わせる

フォーカスを画面の中央以外に合わせる（フォーカスロック）

《対応モード： ／ ／ SCENE ／ EXT. ／ 》

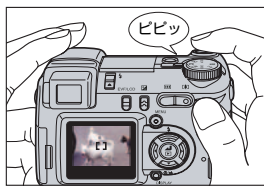
フォーカスロックは、ピントを合わせたい被写体が画面の中央にないときや、中央から被写体をずらした構図を作りたいときに便利な撮影のしかたです。

重要　電源を ON にする前に、レンズキャップをはずしてください。

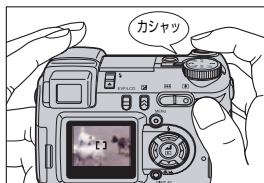
1 モード切替ダイヤルを“ ”、“ ”、“SCENE”、“EXT.” または“ ”に合わせて、電源を ON にする。

2 ピントを合わせたい被写体に画面中央のフォーカスフレームを合わせ、シャッターボタンを半押しする。

「ピピッ」という音がして、画面に緑色の撮影マーク“●”が点灯すると、ピント合わせが完了し、固定されます。（フォーカスロック、AE ロック）

メモ　撮影マーク“●”が点滅しているときは、ピントが合っていないのでフォーカスロックできません。点灯してピントが合うまでシャッターボタンを半押しし直すか、他の被写体でピントを合わせてください。

3 シャッターボタンを半押ししたまま、写したい構図にカメラをずらす。

4 シャッターボタンをさらに押す。

フォーカスロックと AE ロックは、シャッターボタンから指を離すと解除されます。

■ピントの合いにくい被写体

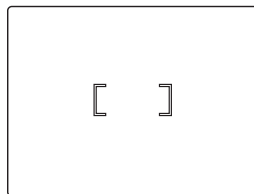
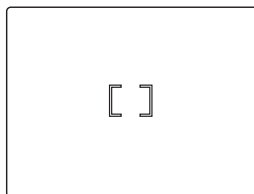
以下のような被写体は、ピントが合いにくいので等距離にある別の被写体でフォーカスをロックして撮影してください。

- 低コントラストの被写体
- 繰り返し同じパターンの被写体
- 暗い被写体
- 水平線など、横線だけの被写体
- 非常に明るい被写体や、光沢のある被写体
- 視野内やその周辺に強い光源がある場合や、太陽光などの強い光源が画面内に入る場合
- 視野の中央付近に距離の違う 2 つ以上の被写体がある場合
- 動いている被写体

[フォーカス] ピントの合わせかたを選ぶ

《対応モード：SCENE ／ EXT. ／ [動画]》

ピントの合わせかたを選ぶモードは、[ワイド AF] と [スポット AF] があります。

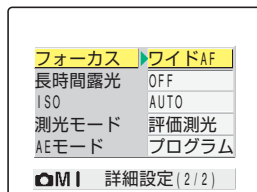
[ワイド AF] ：ピント合わせの範囲が広いので、二人並んだ人物の撮影などに便利です。（初期設定）

[スポット AF] ：被写体の特定の部分にピントを合わせたいときに使用します。フォーカスをロックして撮影するときは、この ［スポット AF］ を使用します。

※ピントを合わせたい被写体がフォーカスフレーム内にないときは、フォーカスロックを利用してピントを合わせてください。（「フォーカスを画面の中央以外に合わせる（フォーカスロック）」→ 65 ページ）

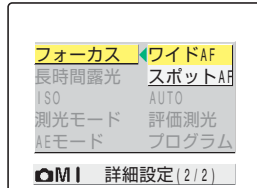
重要　電源を ON にする前に、レンズキャップをはずしてください。

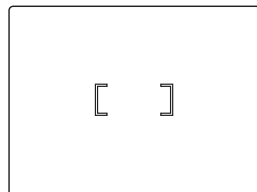
1 モード切替ダイヤルを“SCENE”、“EXT.”または“[動画]”に合わせて、電源を ON にする。

2 MENU ボタン [MENU] を押して、メニューアイコンを表示させる。

3 左ボタン [左] または右ボタン [右] を押して詳細設定［[カメラ]M］を選び、決定ボタン [決定] を押す。

4 上ボタン [上] または下ボタン [下] を押して［フォーカス］を選び、右ボタン [右] を押す。

5 上ボタン [上] または下ボタン [下] を押して設定したいモードを選び、決定ボタン [決定] を押す。

フォーカスフレームが設定されます。

6 MENU ボタン [MENU] を押す。

設定したフォーカスフレームが表示されます。

重要

- “EXT.”モード、“[動画]”モードでは、電源を OFF にしても設定が保持されます。
- “SCENE”モードでは、電源を OFF にすると初期設定に戻ります。
- “[カメラ]”モード、“[連写]”モードでは、[ワイド AF] 固定になります。

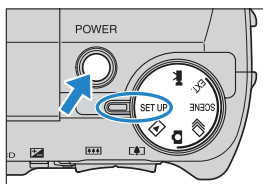
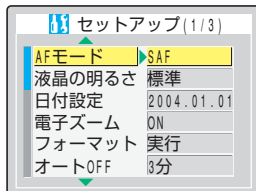
[AF モード] 静止した被写体と動く被写体

《対応モード：[カメラ] ／ [連写] ／ SCENE ／ EXT. ／ [動画]》

カメラが自動でピントを合わせるときの方式です。

SAF:　（シングル・オートフォーカス)(初期設定) 通常の撮影に適しています。
シャッターボタン半押しでピント合わせを行い、ピントが合うと撮影マーク (緑) が点灯し、ピントと露出が固定します。 そのままシャッターボタンを全押しして撮影してください。

CAF:　（コンティニュアス・オートフォーカス)：動きのある被写体を撮影するのに適しています。
カメラ電源 ON の状態で連続的にピントを合わせ続けます。撮影マークの点灯を確認してシャッターボタンを全押ししてください。

1 モード切替ダイヤルを “SET UP” に合わせて電源を ON にする。

2 上ボタン [上] または下ボタン [下] を押して [AF モード] を選び、右ボタン [右] を押す。

3 上ボタン [上] または下ボタン [下] を押して設定したい AF モードを選び、決定ボタン [決定] を押す。

AF モードが設定されます。

重要
- この設定は電源を OFF にしても保持されます。
- [CAF] に設定していても、被写体の動きが速い場合、オートフォーカスが追随できない場合があります。
- [CAF] に設定すると、電池の消耗が早くなります。

画面に情報を表示する

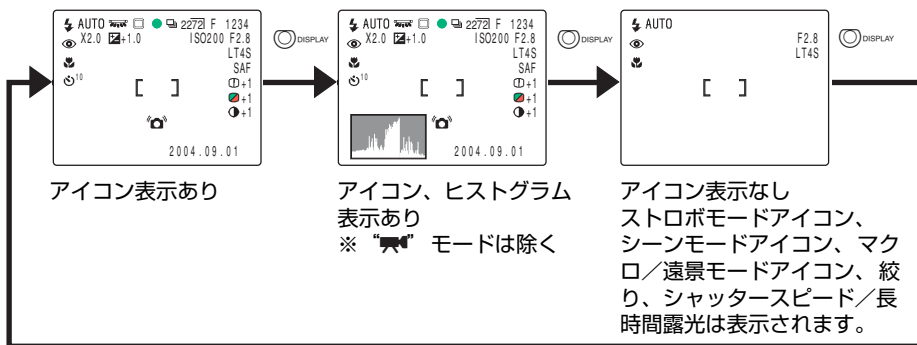
《対応モード：[静止画] ／ [連写] ／ SCENE ／ EXT. ／ [動画]》

“[静止画]” や “[連写]”、“[動画]” では、たくさんのアイコンが液晶モニターやビューファインダーに表示されます。撮影のときにアイコンが邪魔になる場合は、DISPLAY ボタン [DISPLAY] を使うと、アイコンの表示をつけたり消したりできます。

重要　電源を ON にする前に、レンズキャップをはずしてください。

1 モード切替ダイヤルを “[静止画]”、“[連写]”、“SCENE”、“EXT.” または “[動画]” に合わせて、電源を ON にする。

2 DISPLAY ボタン [DISPLAY] を押す。

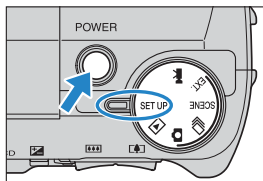
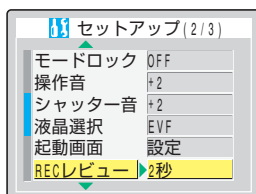
画面の表示状態が以下のように切り替わります。

メモ

- ヒストグラムは、表示されている画像の明るさ分布です。分布が左によるほど暗い画像になり、右によるほど明るい画像になります。（横軸が明暗、縦軸が分布量です。）暗いほうにかたよっているときは露出を＋側に、明るいほうにかたよっているときは－側に補正して撮影することをおすすめします。
- 撮影時に表示されたヒストグラムと、再生時のヒストグラムは異なることがあります。
- シャッタースピードが遅いときや、長時間露光が設定されているときは、ヒストグラムと実際の撮影する画像の明るさが大きく異なります。

[REC レビュー] 撮影直後に撮った画像を表示する

《対応モード：📷 ／ SCENE ／ EXT.》

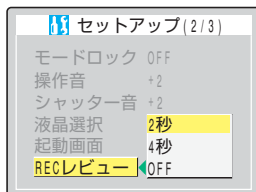
撮影直後、撮った画像を数秒間表示させるように設定できます。

1 モード切替ダイヤルを "SET UP" に合わせて、電源を ON にする。

2 上ボタン または下ボタン を押して [REC レビュー] を選び、右ボタン を押す。

3 上ボタン または下ボタン を押して設定したい秒数を選び、決定ボタン を押す。

表示秒数が設定されます。

[2 秒]：撮影直後に 2 秒間、撮った画像を表示します。(初期設定)

[4 秒]：撮影直後に 4 秒間、撮った画像を表示します。

[OFF]：撮影直後画像を表示しません。

重要　この設定は電源を OFF にしても保持されます。

撮影した画像をすばやく確認／消去する（Quick View）

《対応モード：／／SCENE／EXT.》

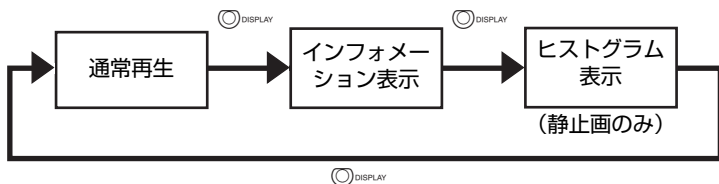
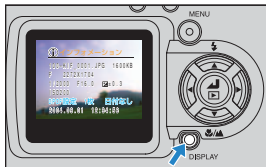
“”、“”、“EXT.”、“SCENE”モード時でも、撮影した直後の画像を確認したり、不要な画像を消去することができます。

画像を確認する

“”、“”、“SCENE”、“EXT.”モードで撮影できる状態のときに、決定ボタンを押す。

最後に撮影した画像が表示されます。
右ボタンを押すと画像が順送りに、左ボタンを押すと画像が逆送りに表示されます。

メモ

- ズームボタンの [ ] 側を押すと、画像を拡大して表示できます。拡大された画像を元の大きさに戻すには、ズームボタンの [ ] 側を押します。
- DISPLAY ボタン DISPLAY を押すと、再生中の画像の情報が表示されます。
- 動画とアフレコ付き静止画は再生できません。（動画は最初の 1 コマが表示されます。）
- DISPLAY ボタン DISPLAY を押すたびに、表示が以下のように切り替わります。

画像を消去する

1 画像が表示された状態で、下ボタン を押す。

画像消去の確認画面が表示されます。

2 上ボタン を押して [実行] を選び、決定ボタン を押す。

画像が消去されます。
シャッターボタンを半押し、または決定ボタン を押すと、通常の撮影画面に戻ります。

重要 ●次の状態のときは Quick View が使えません。
- メモリーカードが入っていないとき
- カードカバーが開いているとき
- メモリーカードに画像が保存されていないとき

画素数・画質を選ぶ

[ ] 画素数を選ぶ

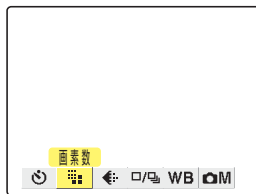
《対応モード：／／SCENE ／EXT. ／》

画素数とは、画像を作り上げている一つ一つの点（ドット）の数のことです。この点の数が多いほど画質は良くなりますが、画像ファイルのサイズが大きくなるので撮影できる枚数は少なくなります。画像の使用目的に合わせて選んでください。（→ 75 ページ）

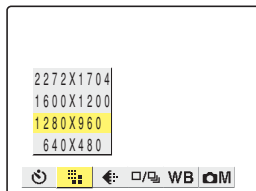
重要　電源を ON にする前に、レンズキャップをはずしてください。

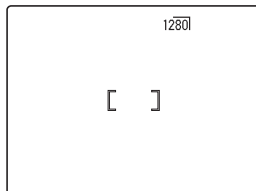
1 モード切替ダイヤルを“”、“”、“SCENE”、“EXT.”または“”に合わせて、電源を ON にする。

2 MENU ボタン MENU を押して、メニューアイコンを表示させる。

3 左ボタン または右ボタン を押して画素数 [ ] を選び、決定ボタン を押す。

4 上ボタン または下ボタン を押して設定したい画素数を選び、決定ボタン を押す。

画素数が設定されます。

静止画	動画
2272 × 1704（初期設定）	640 × 480
1600 × 1200	320 × 240（初期設定）
1280 × 960	
640 × 480	

5 MENU ボタン MENU を押す。

設定した画素数のアイコンが表示されます。

重要　この設定は電源を OFF にしても保持されます。

[ ] 画質（画像の圧縮率）を選ぶ

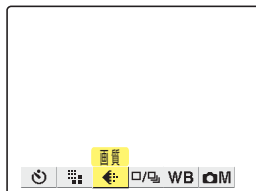
《対応モード： ／ ／ SCENE ／ EXT.》

画質（画像の圧縮率）は、高圧縮の [ノーマル] と低圧縮の [ファイン] が選べます。圧縮率は低いほど、画質は良くなりますがファイルのサイズが大きくなり、撮影できる枚数が少なくなります。画素数と同様、目的に合わせてお選びください。

重要　電源を ON にする前に、レンズキャップをはずしてください。

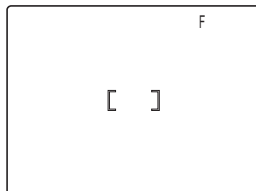
1 モード切替ダイヤルを " "、" "、" SCENE " または " EXT. " に合わせて電源を ON にする。

2 MENU ボタン MENU を押して、メニューアイコンを表示させる。

3 左ボタン または右ボタン を押して画質 [ ] を選び、決定ボタン を押す。

4 上ボタン または下ボタン を押して設定したい画像の圧縮率を選び、決定ボタン を押す。

圧縮率が設定されます。
[F] [ファイン] ：低い圧縮率の画像を撮影します。
[N] [ノーマル] ：高い圧縮率の画像を撮影します。（初期設定）

5 MENU ボタン MENU を押す。

設定した圧縮率を表すアイコンが表示されます。

重要　この設定は電源を OFF にしても保持されます。

画素数と画質（画像の圧縮率）の組合せによる撮影枚数と容量

撮影枚数と容量はかんたんマニュアルの「主な仕様」をご覧ください。

■画素数や画像の圧縮率を選ぶときの目安

きれいにプリントしたいときや、画像の質を重視するときは大きい画素数を選び、メールに添付するときは小さい画素数にしてファイルのサイズを小さくします。

特に画質を重視する場合は、画像の圧縮率を「ファイン」に設定し、それ以外は「ノーマル」に設定すると、ファイルのサイズが抑えられて撮影枚数が多くなります。

画像の色調などを調整する

[WB] 光源の種類を選ぶ（ホワイトバランス）

《対応モード：SCENE ／ EXT. ／ 》

被写体の色は光源によって変化します。
様々な光源の下でも、実際と同じような色に撮影できるように色調を調整することを「ホワイトバランス」といいます。

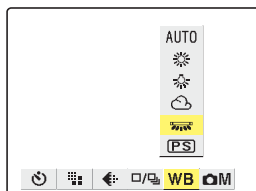
重要　電源を ON にする前に、レンズキャップをはずしてください。

1 **モード切替ダイヤルを“SCENE”、“EXT.”または“”に合わせて電源を ON にする。**

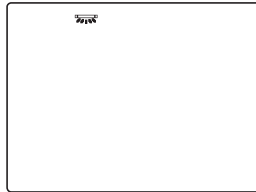
2 **MENU ボタン を押して、メニューアイコンを表示させる。**

3 **左ボタン または右ボタン を押してホワイトバランス［WB］を選び、決定ボタン を押す。**

4 **上ボタン または下ボタン を押して設定したい機能を選び、決定ボタン を押す。**

ホワイトバランスが設定されます。

[AUTO] 自動	周囲の状況に合わせて自動でホワイトバランスを設定します。（初期設定）
[ ] 太陽	光源を指定します。
[ ] 白熱電球	
[ ] 曇天	
[ ] 蛍光灯	
[PS] プリセット	[詳細設定] で設定したホワイトバランスを使います。あらかじめ設定が必要です。（→ 77 ページ）

5 MENU ボタン MENU を押す。

設定したホワイトバランスのアイコンが表示されます。

重要　電源を OFF にすると、初期設定（AUTO）に戻ります。“EXT.”モードでは、モードロック（→ 154 ページ）を ON にすると設定を保持することができます。

[WB プリセット] 白を自分で決める

《対応モード：SCENE ／ EXT. ／ 動画》

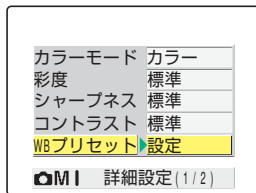
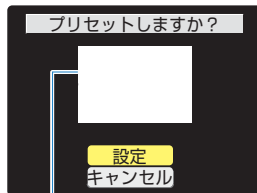
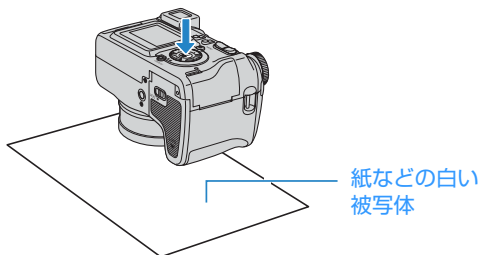
光源が複数ある場合や、白を厳密に設定したいときは、このモードをお使いください。

重要　電源を ON にする前に、レンズキャップをはずしてください。

1 モード切替ダイヤルを “SCENE”、“EXT.” または “動画” に合わせて、電源を ON にする。

2 MENU ボタン MENU を押して、メニューアイコンを表示させる。

3 左ボタン または右ボタン を押して詳細設定 [M] を選び、決定ボタン を押す。

4 上ボタン または下ボタン を押して [WB プリセット] を選び、決定ボタン を押す。

5 あらかじめ用意した白の被写体を画面の枠一杯に合わせる。

この枠一杯に被写体を合わせる

6 上ボタンまたは下ボタンを押して[設定]を選び、決定ボタンを押す。

ホワイトバランスのプリセット値が設定されます。
キャンセルしたい場合は、[キャンセル] を選び決定ボタン を押します。

7 MENU ボタン MENU を押す。

ホワイトバランスは［PS］に設定されます。

重要
・この設定は電源を OFF にしても保持されます。
・光源が変わったときは、プリセットをし直してください。

[カラーモード] カラー、白黒、セピアから選ぶ

《対応モード：SCENE ／ EXT. ／ 動画》

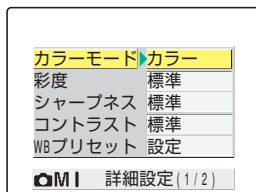
セピア調やモノクロのフィルムで撮影した写真と同じような色合いが選べます。

重要 電源を ON にする前に、レンズキャップをはずしてください。

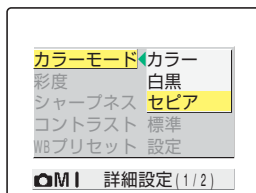
1 モード切替ダイヤルを“SCENE”、“EXT.”または“動画”に合わせて、電源を ON にする。

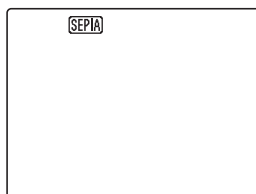
2 MENU ボタン MENU を押して、メニューアイコンを表示させる。

3 左ボタン または右ボタン を押して詳細設定［M］を選び、決定ボタン を押す。

4 上ボタン または下ボタン を押して[カラーモード]を選び、決定ボタン を押す。

5 上ボタン または下ボタン を押して設定したいモードを選び、決定ボタン を押す。

カラーモードが設定されます。

[表示なし]　[カラー]　：カラーで撮影します。（初期設定）
[B/W]　[白黒]　：白黒で撮影します。
[SEPIA]　[セピア]　：セピアカラーで撮影します。

6 MENU ボタン MENU を押す。

設定したカラーモードのアイコンが表示されます。

重要　電源を OFF にすると、設定したモードは解除され、カラー（初期設定）に戻ります。

[彩度] 鮮やかさを変える

《対応モード：SCENE ／ EXT.》

[彩度] では、色の鮮やかさを強くした画像や抑えた画像を撮ることができます。

重要　電源を ON にする前に、レンズキャップをはずしてください。

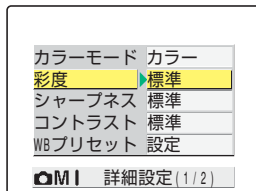
1 モード切替ダイヤルを“SCENE”または“EXT.”に合わせて、電源を ON にする。

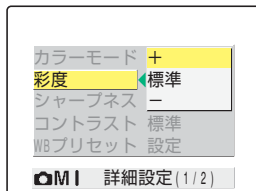
2 MENU ボタン ⊙MENU を押して、メニューアイコンを表示させる。

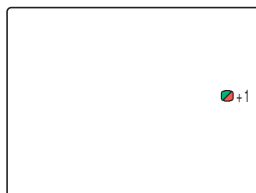
3 左ボタン 〈 または右ボタン 〉 を押して詳細設定［📷M］を選び、決定ボタン を押す。

4 上ボタン または下ボタン を押して［彩度］を選び、決定ボタン を押す。

5 上ボタン または下ボタン を押して設定したいモードを選び、決定ボタン を押す。

カラーモード ＋
彩度 標準
シャープネス －
コントラスト 標準
WBプリセット 設定
詳細設定（1/2）

彩度が設定されます。

[∅+1]　[＋]　：鮮やかさを強くして撮影します。
[表示なし]　[標準]：標準で撮影します。（初期設定）
[∅-1]　[－]　：鮮やかさを抑えて撮影します。

6 MENU ボタン ⊙MENU を押す。

設定した彩度のアイコンが表示されます。

重要
・“EXT.”モードでは、電源を OFF にしても設定が保持されます。
・“SCENE”モードでは、電源を OFF にすると初期設定に戻ります。

[シャープネス] 輪郭をくっきりさせる

《対応モード：SCENE ／ EXT.》

被写体の輪郭を強調したり、柔らかくした画像を撮ることができます。

重要　電源を ON にする前に、レンズキャップをはずしてください。

1 モード切替ダイヤルを “SCENE” または “EXT.” に合わせて、電源を ON にする。

2 MENU ボタン MENU を押して、メニューアイコンを表示させる。

3 左ボタン または右ボタン を押して詳細設定［ M］を選び、決定ボタン を押す。

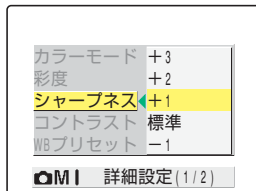
4 上ボタン または下ボタン を押して［シャープネス］を選び、決定ボタン を押す。

5 上ボタン または下ボタン を押して設定したいモードを選び、決定ボタン を押す。

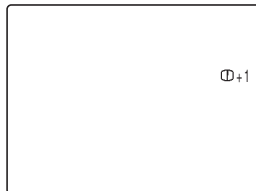
カラーモード ＋3
彩度 ＋2
シャープネス ＋1
コントラスト 標準
WBプリセット －1
M 詳細設定（1/2）

シャープネスが設定されます。

［ +3］ ：＋３
［ +2］ ：＋２
［ +1］ ：＋１
［表示なし］：標準（初期設定）
［ -1］ ：－１

輪郭強調を強く
輪郭強調を抑える

6 MENU ボタン MENU を押す。

設定したシャープネスのアイコンが表示されます。

重要

- “EXT.” モードでは、電源を OFF にしても設定が保持されます。
- “SCENE” モードでは、電源を OFF にすると初期設定に戻ります。
- シャープネスを上げると画像のノイズが多くなることがあります。

[コントラスト] 明暗をはっきりさせる

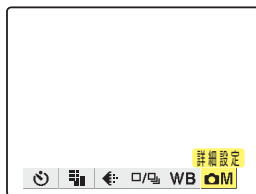
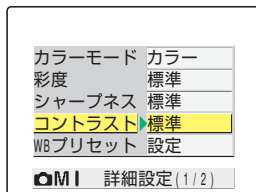
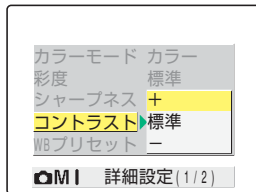
《対応モード：SCENE ／ EXT.》

画像の明暗をはっきりさせて撮影することができます。コントラストを上げると明暗がくっきりし、コントラストを下げると明暗の幅が広がって滑らかな画像になります。

重要　電源を ON にする前に、レンズキャップをはずしてください。

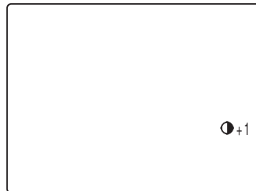
1 モード切替ダイヤルを " SCENE " または " EXT. " に合わせて、電源を ON にする。

2 MENU ボタン MENU を押して、メニューアイコンを表示させる。

3 左ボタン または右ボタン を押して詳細設定［M］を選び、決定ボタン を押す。

4 上ボタン または下ボタン を押して [コントラスト] を選び、決定ボタン を押す。

5 上ボタン または下ボタン を押して設定したいモードを選び、決定ボタン を押す。

コントラストが設定されます。

[+1]　[＋]　：コントラストが強い設定です。
[表示なし] [標準]：一般的なコントラストです。（初期設定）
[-1]　[−]　：コントラストが弱い設定です。

6 MENU ボタン MENU を押す。

設定したコントラストのアイコンが表示されます。

+1

重要

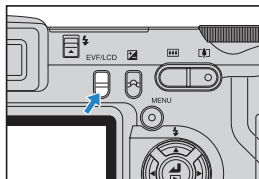
- “EXT.” モードでは、電源を OFF にしても設定が保持されます。
- “SCENE” モードでは、電源を OFF にすると初期設定に戻ります。

表示画面を切り換える（電子ビューファインダーと液晶モニター）

《対応モード：[カメラ]／[連写]／SCENE／EXT.／[動画]／[再生]》

撮影画像を、電子ビューファインダー（EVF）か液晶モニター（LCD）のどちらかに表示を切り換えて見ることができます。

1 画像が表示されている状態で VFボタン [EVF/LCD] を押す。

VF ボタン [EVF/LCD] を押すたびに、表示画像が電子ビューファインダー→液晶モニターに切り替わり表示されます。

メモ　電源を ON にしたときの表示画面を設定することもできます。（→ 157 ページ）

連続撮影時の露出やピントを設定する（ドライブモード）

《対応モード：[連写]／SCENE／EXT.》

連続撮影するときの露出やピントの合わせかたを選ぶことができます。

重要　電源を ON にする前に、レンズキャップをはずしてください。

1 モード切替ダイヤルを“[連写]”、“SCENE”または“EXT.”に合わせて、電源を ON にする。

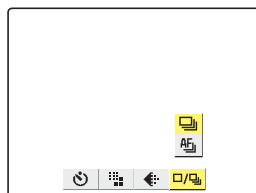
2 MENU ボタン [MENU] を押して、メニューアイコンを表示させる。

3 左ボタン [◁] または右ボタン [▷] を押してドライブモード［□/[連写]］を選び、決定ボタン [決定] を押す。

4 上ボタン [△] または下ボタン [▽] を押して設定したい機能を選び、決定ボタン [決定] を押す。

ドライブモードが設定されます。

“[連写]”モード

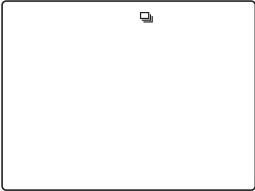
[[連写]]（高速連写）	撮影前にピント、露出が決定され、連写します。（初期設定）
[[AF連写]]（AF 連写）	1 枚ごとにピントを合わせながら連写します。連写速度は遅くなります。

“EXT.”モード

[□]（単写）	通常撮影します。（初期設定）
[[連写]]（高速連写）	撮影時にピント、露出が決定され、連写します。
[[AF連写]]（AF 連写）	1 枚ごとにピントを合わせながら連写します。連写速度は遅くなります。
[[ブラケット]]（ブラケット）	1 枚ごとに露出を変えて 3 枚（標準、＋、－の順）連写します。ピントは最初の 1 枚目で決定されます。

“SCENE”モード

[□]（単写）	通常撮影します。（初期設定）
[高速連写アイコン]（高速連写）	撮影時にピント、露出が決定され、連写します。
[AF連写アイコン]（ＡＦ 連写）	１枚ごとにピントを合わせながら連写します。連写速度は遅くなります。

5 MENU ボタン ◎MENU を押す。

設定したドライブモードのアイコンが表示されます。

重要

- 電源を OFF にすると､初期設定に戻ります。モードロック（→ 154 ページ）を使うと設定を保持することができます。
- EXT. モードのブラケットでは、１ 度の撮影で露出の違う画像が ３ 枚撮れます。撮影可能枚数が １ 枚または ２ 枚の場合は撮影できません。

再生する

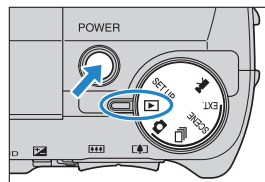
この章では、撮影画像を確認する再生モードについて説明します。

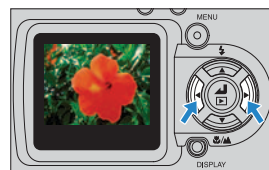
▼ご覧になりたい項目をクリックしてください。

静止画を再生する

《対応画像：静止画のみ》

1 モード切替ダイヤルを“▶”に合わせて、電源をON にする。

最後に撮影した画像が画面に表示されます。

2 左ボタン または右ボタン を押して再生する画像を選ぶ。

右ボタン を押すと画像が順送りに、左ボタン を押すと画像が逆送りに表示されます。

メモ

- リサイズした画像がある場合、リサイズ画像は通常の画像の前に表示されます。
- リサイズ画像は、画像サイズに応じて大きさを変えて表示されます。その際、液晶モニターの左上にリサイズアイコン［ ］が表示されます。画像のリサイズについては詳しくは「［ ］画素数の変更とトリミング（リサイズ）」（→ 112 ページ）をご覧ください。

画像を拡大して表示する

《対応画像：静止画のみ》

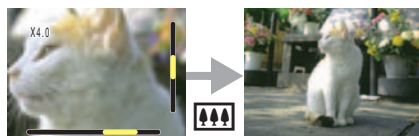
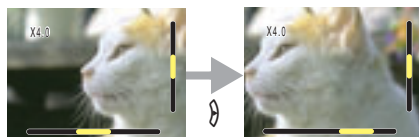
ズームボタンで再生中の画像を拡大して表示できます。

1 モード切替ダイヤルを “[▶]” に合わせて、電源を ON にする。

2 左ボタン または右ボタン を押して再生する画像を選ぶ。

3 ズームボタンの [ ] 側を押す。

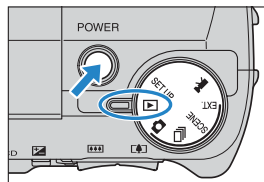
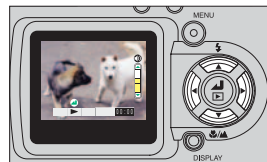
ズームボタンの [ ] 側を押すたびに画像が 2 倍→ 4 倍→ 8 倍に拡大されます。

メモ
- ズーム再生中は画面の下側と右側にスクロールバーが表示され、元の画像のどの部分を表示しているかの目安になります。上下左右ボタン を押すと、ボタンを押した方向に画面がスクロールします。
- 拡大された画像を元の大きさに戻すには、ズームボタンの [ ] 側を押します。[ ] 側を押すたびに、画像が 4 倍→ 2 倍→元の大きさに戻ります。
- ズーム再生中に MENU ボタン を押すと、簡単に元の大きさに戻すことができます。

重要
- リサイズした画像をズーム再生で拡大表示することはできません。

動画を再生する

《対応画像：動画のみ》

通常の再生に加えて、一時停止やコマ送り、音量の調節ができます。

1 モード切替ダイヤルを "▶" に合わせて、電源を ON にする。

2 左ボタン または右ボタン を押して再生する動画を選び、上ボタン または下ボタン を押して音量を調節する。

メモ　音量は動画再生中でも調節できます。

3 決定ボタン を押す。

動画の再生が始まります。
動画の再生中は、以下の操作ができます。

ボタン操作	説明
上ボタン	音量が大きくなります。
下ボタン	音量が小さくなります。
左ボタン	1 回押すと動画が止まり、以後、押すたびに逆コマ送りで再生されます。1 秒以上押すと、2 倍速で巻き戻し再生されます。さらに 2 秒以上押すと、4 倍速で巻き戻し再生されます。
右ボタン	1 回押すと動画が止まり、以後、押すたびにコマ送りで再生されます。1 秒以上押すと、2 倍速で早送り再生されます。さらに 2 秒以上押すと、4 倍速で早送り再生されます。（早送り中に音声は再生されません。）
決定ボタン	動画の再生を途中で終了します。

[] 自動的に次々と表示する（スライドショー）

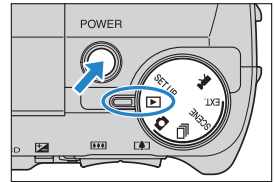
《対応画像：静止画／動画》

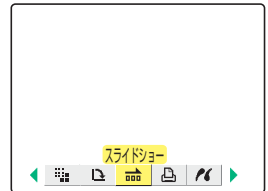
画像を撮影した順に一定間隔で表示させせます。動画やアフレコした画像の音声も再生でき、画像が切り替わるときの効果（エフェクト）も設定できます。

スライドショーの設定をする

このカメラのスライドショーは、以下のような設定ができます。

- 再生間隔：次の画像を表示するまでの時間を設定します。
- 開始画像：最初に再生する画像を設定します。
- アフレコ·動画：アフレコ音声や動画を再生するかどうかを設定します。
- エフェクト：画像が切り替わるときの効果（エフェクト）を設定します。

1 モード切替ダイヤルを“▶”に合わせて、電源をON にする。

2 MENU ボタン ◎MENU を押してメニューアイコンを表示させる。

3 左ボタン または右ボタン を押してスライドショー［］を選び、決定ボタン を押す。

4 上ボタン または下ボタン を押して［再生間隔］を選び、右ボタン を押す。

スライドショー設定	
スライド	スタート
再生間隔	2秒
開始画像	現在の画像
アフレコ・動画	再生する
エフェクト	なし
戻る	

5 上ボタン または下ボタン を押して項目を選び、決定ボタン を押す。

スライドショー設定	
スライド	スタート
再生間隔	2秒
開始画像	10秒
アフレコ・動画	15秒
エフェクト	30秒
戻る	

再生間隔は 2 秒、10 秒、15 秒、30 秒から選べます。

メモ　動画・アフレコは記録時間が優先されます。

6 上ボタン または下ボタン を押して［開始画像］を選び、右ボタン を押す。

スライドショー設定	
スライド	スタート
再生間隔	2秒
開始画像	現在の画像
アフレコ・動画	再生する
エフェクト	なし
戻る	

7 上ボタン または下ボタン を押して項目を選び、決定ボタン を押す。

スライドショー設定	
スライド	スタート
再生間隔	2秒
開始画像	現在の画像
アフレコ・動画	最初の画像
エフェクト	なし
戻る	

［現在の画像］：表示されている画像から再生されます。
［最初の画像］：ファイル名の番号が若い順から再生されます。

8 上ボタン または下ボタン を押して［アフレコ・動画］を選び、右ボタン を押す。

9 上ボタン または下ボタン を押して項目を選び、決定ボタン を押す。

スライドショー設定

スライド	スタート
再生間隔	2秒
開始画像	現在の画像
アフレコ・動画	再生する
エフェクト	再生しない
戻る	

[再生する]　：アフレコ音声と動画が再生されます。
[再生しない]：アフレコ音声と動画は再生されません。

10 上ボタン または下ボタン を押して [エフェクト] を選び、右ボタン を押す。

スライドショー設定

スライド	スタート
再生間隔	2秒
開始画像	現在の画像
アフレコ・動画	再生する
エフェクト	なし
戻る	

11 上ボタン または下ボタン を押して項目を選び、決定ボタン を押す。

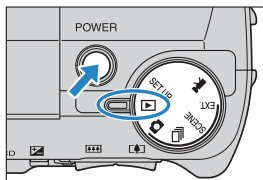
スライドショー設定

スライド	なし
再生間隔	フェード
開始画像	オーバーラップ
アフレコ・動画	シャッター
エフェクト	ワイプ
戻る	

標準　　　　　：エフェクトは設定されません。
フェード　　　：前の画像は徐々に暗くなります。次の画像が徐々に明るくなって表示されます。
オーバーラップ：再生中の画像に次の画像が重なり、入れ替わります。
シャッター　　：黒い幕が上下から閉じて再生中の画像が消えます。その後、黒い幕が上下に開いて次の画像が表示されます。
ワイプ　　　　：再生中の画像が左から拭き取られるように消え、次の画像に入れ替わります。

スライドショーの開始と終了

スライドショーの設定については 91 ページをご覧ください。

1 モード切替ダイヤルを “▶” に合わせて、電源を ON にする。

2 MENU ボタン ⊙MENU を押してメニューアイコンを表示させる。

3 左ボタン または右ボタン を押してスライドショー [ ] を選び、決定ボタン を押す。

4 上ボタン または下ボタン を押して［スライド］を選び、決定ボタン を押す。

スライドショーが始まります。

メモ MENU ボタン ⊙MENU を押すと、スライドショーを途中で終了します。

動画とアフレコ付き静止画の再生中は以下の操作ができます。

ボタン操作	説明	
	動画	アフレコ付き静止画
上ボタン	音量が大きくなります。	音量が大きくなります。
下ボタン	音量が小さくなります。	音量が小さくなります。
左ボタン	1 回押すと動画が止まり、以後、押すたびに逆コマ送りで再生されます。1 秒以上押すと、2 倍速で巻き戻し再生されます。さらに 2 秒以上押すと、4 倍速で巻き戻し再生されます。	押し続けると 1/2 倍速再生（遅くなる）になり、離すと通常再生に戻ります。
右ボタン	1 回押すと動画が止まり、以後、押すたびにコマ送りで再生されます。1 秒以上押すと、2 倍速で早送り再生されます。さらに 2 秒以上押すと、4 倍速で早送り再生されます。	押したままにすると倍速再生になり、離すと通常再生に戻ります。
MENU ボタン MENU	スライドショーを途中で終了します。	

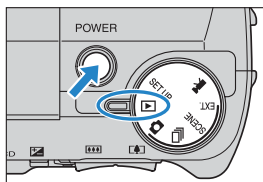
[] 画像を一覧表示する

《対応画像：静止画／動画》

マルチ表示では、画面に 6 枚の小さい画像（サムネイル）を表示できます。撮影した画像を並べて比較したり、見たい画像を探すときなどに便利です。

メモ マルチ表示画面から、アフレコ、プロテクト、消去、複数消去、リサイズ、スライドショー、プリント設定、PictBridge の操作を行うことができます。

一覧表示する

1 モード切替ダイヤルを “▶” に合わせて、電源を ON にする。

2 MENU ボタン MENU を押してメニューアイコンを表示させる。

3 左ボタン または右ボタン を押してマルチ表示 [] を選び、決定ボタン を押す。

画像が一覧表示されます。

■マルチ表示時の画面と使いかた

DPOF アイコン
プリント設定がされている画像に表示されます。

プロテクトアイコン
画像保護の設定がされている場合に表示されます。

何枚目／総枚数
撮影した画像の総枚数に対して何枚目の画像が選ばれているかを表しています。

3 / 18

動画アイコン
動画の場合に表示されます。

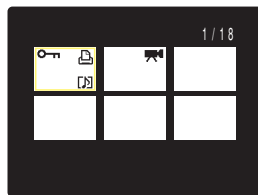
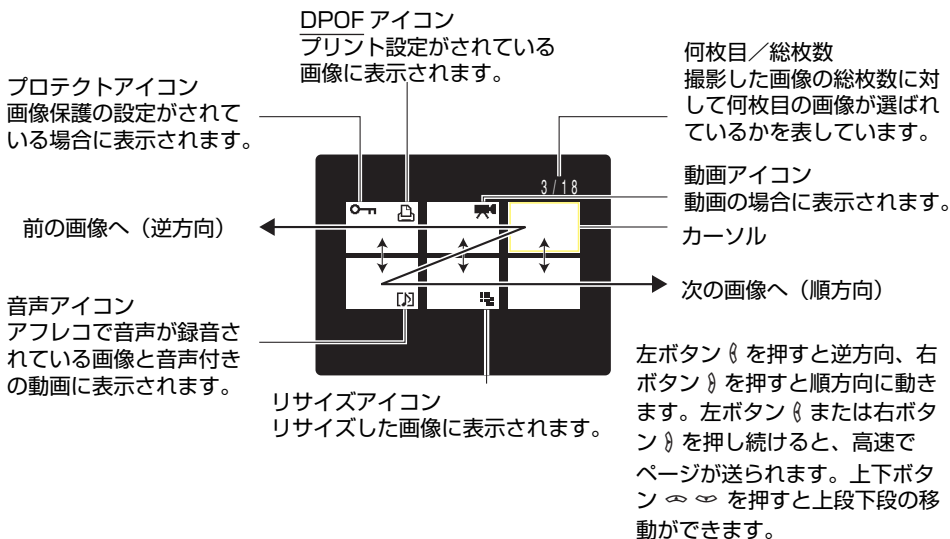
カーソル

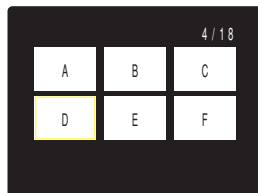
前の画像へ（逆方向）

次の画像へ（順方向）

音声アイコン
アフレコで音声が録音されている画像と音声付きの動画に表示されます。

リサイズアイコン
リサイズした画像に表示されます。

左ボタン を押すと逆方向、右ボタン を押すと順方向に動きます。左ボタン または右ボタン を押し続けると、高速でページが送られます。上下ボタン を押すと上段下段の移動ができます。

通常の再生（シングル表示）に戻すには

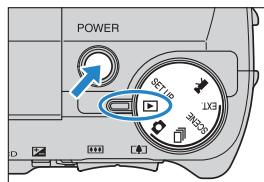
1 上下左右ボタン を押して、通常の再生に戻したい画像を選ぶ。

2 決定ボタン を押す。

Dの画像

マルチ表示で画像を消去する

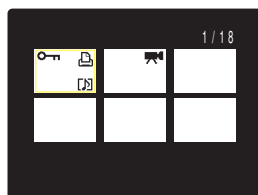
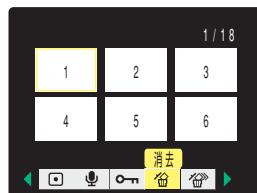
重要

・プロテクトされた画像（→ 105 ページ）は消すことができません。
・マルチ表示では画像が小さく表示されます。連続撮影した画像をマルチ表示で消去するときは、必要な画像を消去してしまわないように注意してください。
・アフレコした画像（→ 108 ページ）を消去すると、音声も一緒に消えます。

1 モード切替ダイヤルを“▶”に合わせて、電源を ON にする。

2 MENU ボタン ◎MENU を押してメニューアイコンを表示させる。

3 左ボタン 〈 または右ボタン 〉 を押してマルチ表示［ ］を選び、決定ボタン を押す。

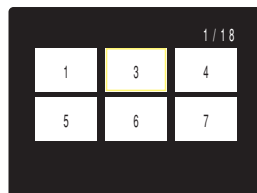
画像が一覧表示されます。

4 MENU ボタン ◎MENU を押してメニューアイコンを表示させる。

5 左ボタン または右ボタン を押して消去［ ］を選び、決定ボタン を押す。

6 左ボタン または右ボタン を押して消去したい画像を選ぶ。

7 上ボタン を押して［実行］を選び、決定ボタン を押す。

画像が消去されます。

メモ 続けて消去するときは、操作６と７を繰り返します。

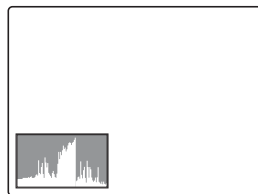
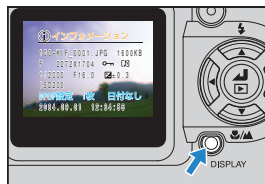
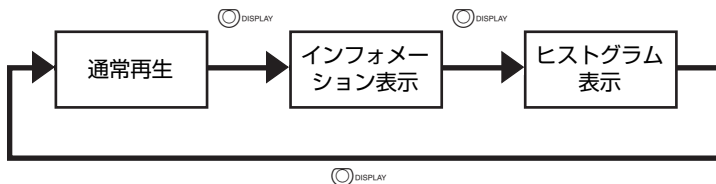
8 MENU ボタン MENU を押す。

情報を表示する（インフォメーション）

《対応画像：静止画、動画》

再生中の画像の絞りやシャッタースピードなどの情報を確認できます。

1 画像再生中に DISPLAY ボタン を押す。

再生中の画像の情報が表示されます。

DISPLAY ボタン を押すたびに表示が以下のように切り替わります。

メモ

- 表示される画面の詳細については 8 ページをご覧ください。
- 動画ではヒストグラムは表示されません。
- 情報を表示している間に MENU ボタン を押すと、通常の再生画面に戻ります。

[ ]/[ ] 不要な画像を消す

《対応画像：静止画／動画》

メモリーカードに記録されている画像を、以下の方法で消すことができます。

- 消去　　：画像が 1 枚だけ消去されます。
- 選択消去：消したい画像を選んで消去できます。
- 全消去　：すべての画像が消去されます。

また、マルチ表示（→ 96 ページ）や Quick View（→ 71 ページ）からも画像を消すことができます。

画像を一枚だけ消す（消去）

画像を一枚だけ消去することができます。

重要
- プロテクトされた画像（→ 105 ページ）は消すことができません。
- アフレコした画像（→ 108 ページ）を消去すると、音声も一緒に消えます。

1 モード切替ダイヤルを“ ”に合わせて、電源を ON にする。

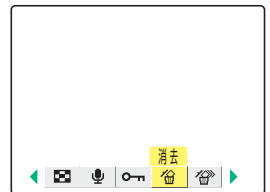
2 MENU ボタン MENU を押してメニューアイコンを表示させる。

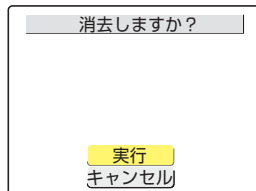
3 左ボタン または右ボタン を押して消去 [ ] を選び、決定ボタン を押す。

4 左ボタン または右ボタン を押して消去したい画像を選ぶ。

5 上ボタン を押して［実行］を選び、決定ボタン を押す。

消去しますか？

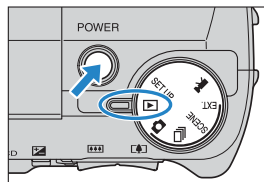
実行
キャンセル

画像が消去され、次の画像が表示されます。
他に画像がない場合は「画像がありません」と表示されます。

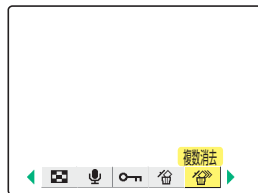
メモ　続けて消去するときは、操作４と５を繰り返します。

6 MENU ボタン MENU を押す。

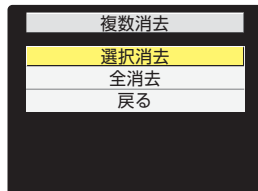
画像を選んで消す（選択消去）

消したい画像を選んで、まとめて消すことができます。

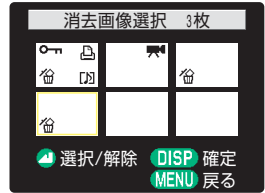
重要
・プロテクトされた画像（→ 105 ページ）は消すことができません。
・アフレコした画像（→ 108 ページ）を消去すると、音声も一緒に消えます。

1 モード切替ダイヤルを“▶”に合わせて、電源を ON にする。

2 MENU ボタン MENU を押してメニューアイコンを表示させる。

3 左ボタン または右ボタン を押して複数消去［🗑］を選び、決定ボタン を押す。

4 上ボタン または下ボタン を押して［選択消去］を選び、決定ボタン を押す。

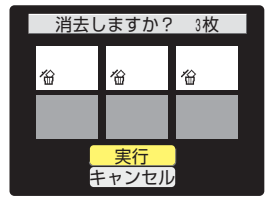
消去画像の選択画面が表示されます。

5 上下左右ボタン を押して消したい画像を選び、決定ボタン を押す。

選んだ画像に [ ] が表示されます。以後、この操作を繰り返して消したい画像を選びます。選択を解除するには、ゴミ箱 [ ] が表示されている画像を選び、決定ボタン を押します。

メモ
- ズームボタンの [ ] ／ [ ] を押すと、シングル表示／マルチ表示を切り替えることができます。
- 選べる画像は 99 枚までです。

6 DISPLAY ボタン を押す。

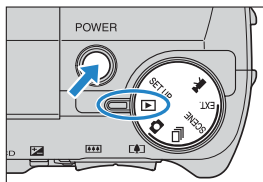
画像消去の確認画面が表示されます。

7 上ボタン を押して［実行］を選び、決定ボタン を押す。

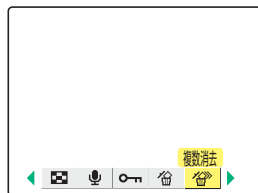
選択した画像が消去されます。

すべての画像を消す（全消去）

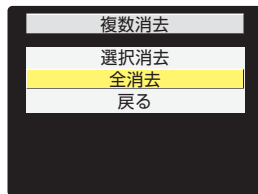
メモリーカードに記録されているすべての画像を消すことができます。

重要
・プロテクトされた画像（→ 105 ページ）は消すことができません。
・アフレコした画像（→ 108 ページ）を消去すると、音声も一緒に消えます。

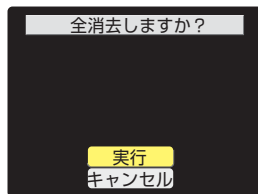
1 モード切替ダイヤルを “▶” に合わせて、電源を ON にする。

2 MENU ボタン MENU を押してメニューアイコンを表示させる。

3 左ボタン または右ボタン を押して複数消去 [ ] を選び、決定ボタン を押す。

複数消去の設定画面が表示されます。

4 上ボタン または下ボタン を押して［全消去］を選び、決定ボタン を押す。

画像消去の確認画面が表示されます。

5 上ボタン を押して［実行］を選び、決定ボタン を押す。

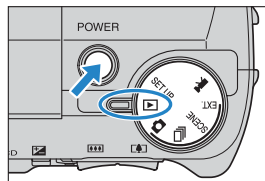
画像がすべて消去され、「画像がありません」の画面が表示されます。

重要 全消去しても画像が表示された場合は、その画像がプロテクトされていた可能性があります。強制的にすべての画像を消去するにはメモリーカードをフォーマットしてください。（「[フォーマット] メモリーカードを初期化する」→ 150 ページ）

[O-π] 画像を消せないようにする（プロテクト）

《対応画像：静止画／動画》

大切な画像を間違えて消さないように保護（プロテクト）することができます。

プロテクトする

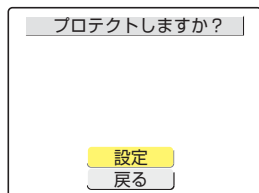
1 モード切替ダイヤルを“▶”に合わせて、電源を ON にする。

2 MENU ボタン ⊙MENU を押してメニューアイコンを表示させる。

3 左ボタン または右ボタン を押してプロテクト［O-π］を選び、決定ボタン を押す。

4 左ボタン または右ボタン を押してプロテクトしたい画像を選ぶ。

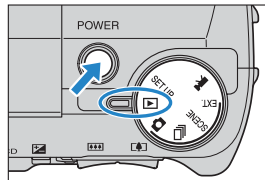
5 上ボタン を押して［設定］を選び、決定ボタン を押す。

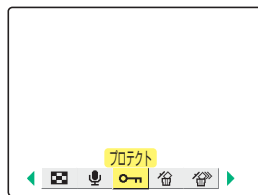
［O-π］マークが表示され、プロテクトが設定されます。

メモ　続けてプロテクトするときは、操作4と5を繰り返します。

6 MENU ボタン ⊙MENU を押す。

重要　プロテクトした画像は、［全消去］（→ 104 ページ）では残りますが、［フォーマット］（→ 150 ページ）すると消去されてしまいますのでご注意ください。

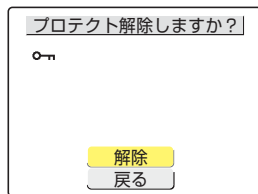
プロテクトを解除する

1 モード切替ダイヤルを “▶” に合わせて、電源を ON にする。

2 MENU ボタン ◎MENU を押してメニューアイコンを表示させる。

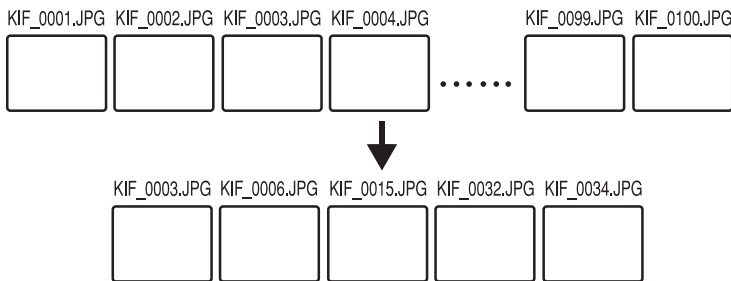
3 左ボタン または右ボタン を押してプロテクト［O━ ］を選び、決定ボタン を押す。

4 左ボタン または右ボタン を押してプロテクトを解除したい画像を選ぶ。

5 上ボタン を押して［解除］を選び、決定ボタン を押す。

プロテクトが解除されます。

メモ 続けてプロテクトを解除するときは、操作 4 と 5 を繰り返します。

6 MENU ボタン ◎MENU を押す。

■プロテクトと全消去を使った便利な画像の消しかた

例えば、画像が 100 枚記録されていて、そのうちの 5、6 枚の画像を残しておきたいとき、[消去] や [選択消去] で 1 枚ずつ消していくのは大変です。
このように画像がたくさん記録されていて、その中の数枚だけ残したいという場合は、[プロテクト] と [全消去] を使うと操作の手間が少なくて便利です。

1 **残しておきたい画像をプロテクトする。(「プロテクトする」→ 105 ページ)**

2 **次に、すべての画像を消去する。(「すべての画像を消す（全消去)」→ 104 ページ)**

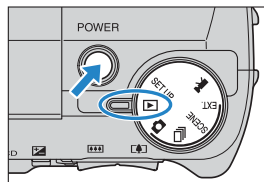
プロテクトされている画像だけが残り、それ以外の画像は消去されます。

[ ] 静止画に声のメッセージを入れる（アフレコ）

《対応画像：静止画のみ》

撮った画像（静止画のみ）に後から音声を入れることができます。

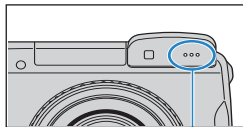
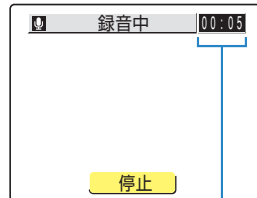
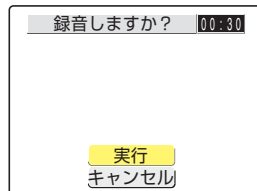
録音する

1 モード切替ダイヤルを“▶”に合わせて、電源をON にする。

2 MENU ボタン MENU を押してメニューアイコンを表示させる。

3 左ボタン または右ボタン を押してアフレコ [ ] を選び、決定ボタン を押す。

4 左ボタン または右ボタン を押して音声を入れたい画像を選ぶ。

5 上ボタン を押して［実行］を選び、決定ボタン を押す。

音声の録音が始まります。
カメラ正面のマイクに向かって話すと、音声が録音されます。

録音中の秒数がカウントダウンで表示されます。最長 30 秒まで録音できます。

6 決定ボタン を押す。

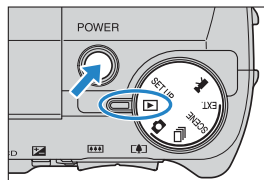
録音が終了し、操作 3 の画面に戻ります。

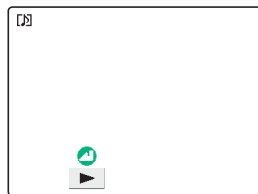
7 MENU ボタン MENU を押す。

重要
- メモリーカードの空き容量が少なくなると、録音できないことがあります。
- 動画にアフレコはできません。
- リサイズした画像にアフレコはできません。

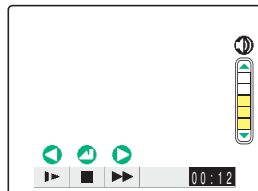
録音した音声を再生する

アフレコで録音した音声を再生します。

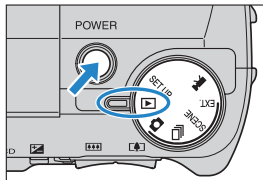
1 モード切替ダイヤルを“▶”に合わせて、電源を ON にする。

2 左ボタン または右ボタン を押して音声を再生したい画像を選ぶ。

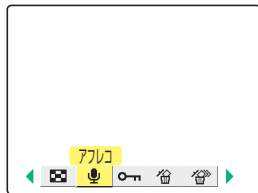
音声付きの画像には [♪] が表示されます。

3 決定ボタン を押す。

音声の再生が始まります。
再生中は、以下の操作ができます。

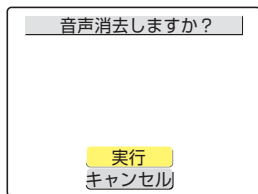
ボタン操作	説明
上ボタン	音量が大きくなります。
下ボタン	音量が小さくなります。
左ボタン	押し続けると 1/2 倍速再生（遅くなる）になり、離すと通常再生に戻ります。
右ボタン	押し続けると倍速再生になり、離すと通常再生に戻ります。
決定ボタン	音声の再生を途中で終了します。

録音した音声を消去する

アフレコで録音した音声を消去します。

1 モード切替ダイヤルを "▶" に合わせて、電源をON にする。

2 MENU ボタン MENU を押してメニューアイコンを表示させる。

3 左ボタン または右ボタン を押してアフレコ [ ] を選び、決定ボタン を押す。

4 左ボタン または右ボタン を押して音声を消去したい画像を選ぶ。

5 上ボタン を押して［実行］を選び、決定ボタン を押す。

音声が消え、[録音しますか？］が表示されます。

6 MENU ボタン MENU を押す。

[ ] 画素数の変更とトリミング（リサイズ）

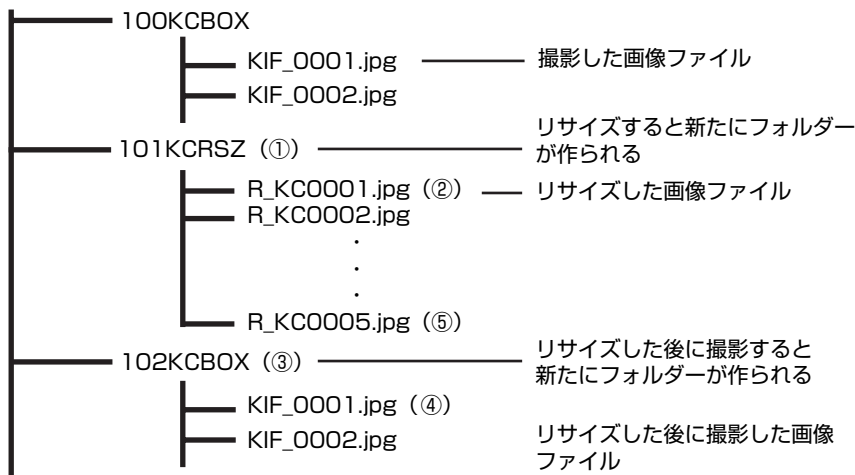
《対応画像：静止画のみ》

撮った画像の画素数を変更したり（リサイズ）、不要な部分を切り取ったりする（トリミング）ことができます。画素数は「320 × 240」と「160 × 120」から選ぶことができます。

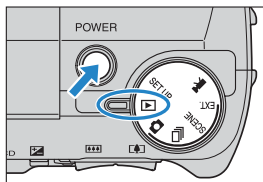
リサイズしたりトリミングした画像は元の画像に上書きされず、新たな画像ファイルとして保存されます。

重要

・コンタックスおよび他社製のデジタルカメラで撮影した画像は、リサイズできません。
・動画はリサイズできません。
・メモリーカードの空き容量が少なくなると、リサイズできないことがあります。
・リサイズした画像は通常の再生で見ることができますが、ズーム再生で拡大することはできません。また、リサイズした画像を再度リサイズしたり、アフレコ、回転を行うこともできません。

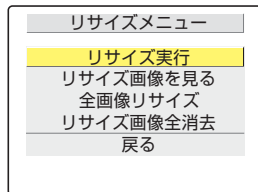
メモ リサイズした画像は、以下のように記録されています。

・画像をリサイズすると新しい番号のフォルダーが作られ（①）、リサイズした画像ファイルはその中に記録されます（②）。画像をリサイズした後、撮影をおこなうと、再度新しい番号のフォルダーが作られ（③）、画像が記録されます（④）。その後、画像をリサイズした場合には、リサイズした画像（⑤）ははじめに作られたリサイズフォルダー（①）に記録されます。

リサイズする

1 モード切替ダイヤルを "▶" に合わせて、電源を ON にする。

2 MENU ボタン ◎MENU を押してメニューアイコンを表示させる。

3 左ボタン または右ボタン を押してリサイズ [ ] を選び、決定ボタン を押す。

リサイズメニューが表示されます。

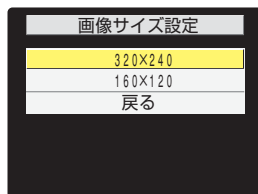
4 上ボタン または下ボタン を押して [リサイズ実行] を選び、決定ボタン を押す。

5 左ボタン または右ボタン を押してリサイズしたい画像を選ぶ。

6 上ボタン を押して ［決定］ を選び、決定ボタン を押す。

7 リサイズする範囲を決め、決定ボタン ⓓ を押す。

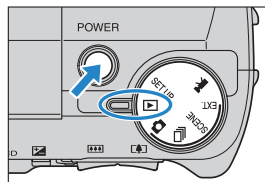
画素数だけを変えるときは決定ボタン ⓓ を押します。
範囲を拡大するときは、ズームボタンの [♠] 側を押して 2 倍、4 倍に拡大し、上下左右ボタン で範囲を決めたら、決定ボタン ⓓ を押します。

8 上ボタン または下ボタン を押して画像サイズを選び、決定ボタン ⓓ を押す。

リサイズした新たな画像の名前が表示されます。
確認した後、決定ボタン ⓓ を押します。

9 MENU ボタン ⊙MENU を押す。

リサイズした画像の確認と消去

リサイズした画像は通常の再生でも確認できますが、以下の手順ではリサイズした画像のみを再生または消去することができます。

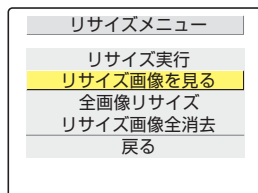
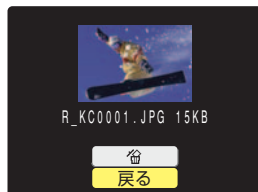
1 モード切替ダイヤルを "▶" に合わせて、電源を ON にする。

2 MENU ボタン ⊙MENU を押してメニューアイコンを表示させる。

3 左ボタン または右ボタン を押してリサイズ [ ] を選び、決定ボタン を押す。

リサイズメニューが表示されます。

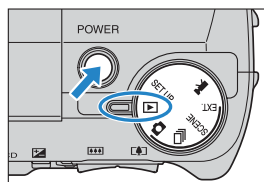
4 上ボタン または下ボタン を押して [リサイズ画像を見る] を選び、決定ボタン を押す。

リサイズした画像が表示されます。

メモ リサイズした画像が複数枚ある場合は、左ボタン または右ボタン を押すと画像が切り替わります。

5 消去する場合は上ボタン を押して [ ] を選び、決定ボタン を押す。

6 MENU ボタン ⊙MENU を押す。

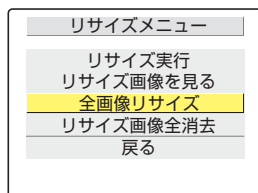
すべての画像をリサイズする

メモリーカードに記録されているすべての画像をリサイズできます。

1 モード切替ダイヤルを "▶" に合わせて、電源を ON にする。

2 MENU ボタン MENU を押してメニューアイコンを表示させる。

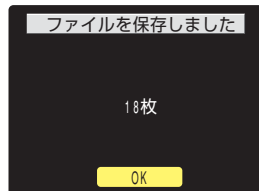
3 左ボタン または右ボタン を押してリサイズ [ ] を選び、決定ボタン を押す。

リサイズメニューが表示されます。

4 上ボタン または下ボタン を押して [全画像リサイズ] を選び、決定ボタン を押す。

5 上ボタン または下ボタン を押して画像サイズを選び、決定ボタン を押す。

リサイズした画像数が表示されます。

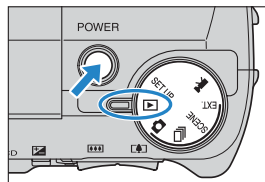
メモ リサイズ処理中に MENU ボタン MENU を押すと処理を中断できますが、何枚かの画像はリサイズされて保存されます。

6 確認したら決定ボタン を押す。

7 MENU ボタン MENU を押す。

重要
- 動画と他社製のデジタルカメラで撮影した画像はリサイズされません。
- 全画像リサイズ中にメモリーカードが一杯になるとリサイズは中断され、途中までリサイズした画像だけが保存されます。
- リサイズの範囲指定（トリミング）はできません。

リサイズ画像を全消去する

リサイズした画像をすべて消去します。

1 モード切替ダイヤルを “▶” に合わせて、電源を ON にする。

2 MENU ボタン MENU を押してメニューアイコンを表示させる。

3 左ボタン または右ボタン を押してリサイズ [ ] を選び、決定ボタン を押す。

リサイズメニューが表示されます。

4 上ボタン を押して［リサイズ画像全消去］を選び、決定ボタン を押す。

リサイズメニュー
リサイズ実行
リサイズ画像を見る
全画像リサイズ
リサイズ画像全消去
戻る

5 上ボタン を押して［実行］を選び、決定ボタン を押す。

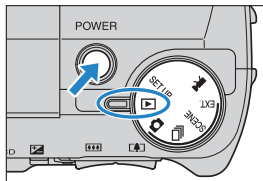
リサイズ画像がすべて消去されます。

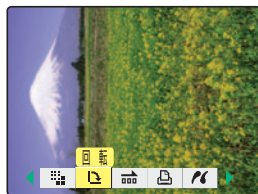
6 MENU ボタン MENU を押す。

[ ] 画像を回転させる

《対応画像：静止画のみ》

画像を右 90°または左 90°に回転させることができます。

1 モード切替ダイヤルを“[▶]”に合わせて、電源を ON にする。

2 MENU ボタン MENU を押してメニューアイコンを表示させる。

3 左ボタン を押して回転［ ］を選び、決定ボタン を押す。

4 左ボタン または右ボタン を押して回転させたい画像を選ぶ。

5 上ボタン または下ボタン を押して項目を選び、決定ボタン を押す。

回転した画像が表示されます。

90° ：左に 90°回転します。

90° ：右に 90°回転します。

［戻る］：メニューアイコンの画面に戻ります。

メモ 続けて画像を回転させるときは、操作 4 と 5 を繰り返します。

6 MENU ボタン MENU を押す。

重要 リサイズした画像を回転させることはできません。

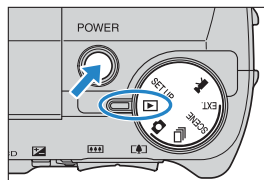
[凸]DPOF でプリントの設定をする

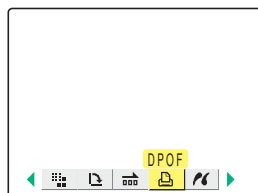
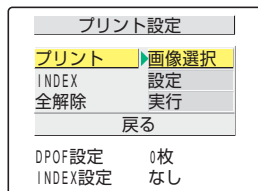
《対応画像：静止画のみ》

DPOF とは、デジタルカメラで撮影した画像を家庭用プリンターやプリント取扱店で手軽にプリントするための規格です。

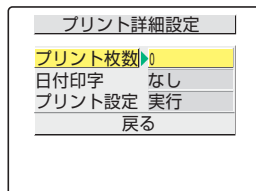
プリントする画像や枚数の指定、日付の印字指定などの簡単な設定ができます。ご使用のプリンター、プリント取扱店が DPOF サービスに対応しているかご確認ください。DPOF については、お使いの DPOF 対応プリンターの取扱説明書も併せてお読みください。

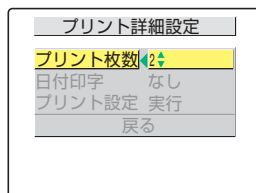
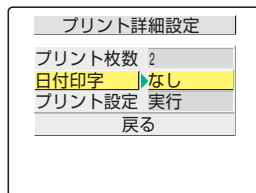
DPOF の設定をする

1 モード切替ダイヤルを “▶” に合わせて、電源を ON にする。

2 MENU ボタン ⊙MENU を押してメニューアイコンを表示させる。

3 左ボタン または右ボタン を押して DPOF [凸] を選び、決定ボタン を押す。

4 上ボタン または下ボタン を押して [プリント] を選び、右ボタン を押す。

5 左ボタン または右ボタン を押してプリントの設定をしたい画像を選ぶ。

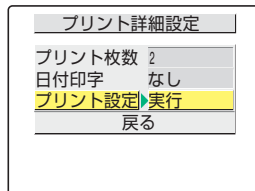
6 上ボタン を押して［決定］を選び、決定ボタン を押す。

7 上ボタン または下ボタン を押して［プリント枚数］を選び、右ボタン を押す。

8 上ボタン または下ボタン を押して枚数を決め、決定ボタン を押す。

プリント枚数が設定されます。

9 上ボタン または下ボタン を押して［日付印字］を選び、右ボタン を押す。

10 上ボタン または下ボタン を押して項目を選び、決定ボタン を押す。

[なし]：日付が印字されません。
[あり]：日付が印字されます。

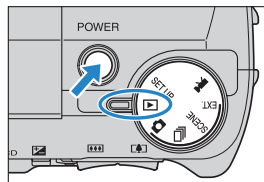
11 上ボタン または下ボタン を押して[プリント設定］を選び、右ボタン を押す。

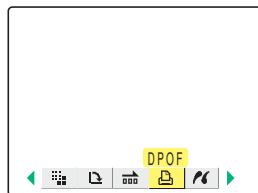
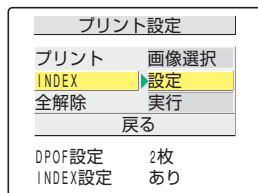
DPOF が設定され、プリント設定の画面に戻ります。

メモ

- 他の画像の DPOF 設定を続ける場合は、操作４～ 11 を繰り返します。
- ［戻る］を選ぶと、操作 11 までの手順で設定した内容をキャンセルしてプリント設定の画面に戻ります。

インデックスプリントを設定する

メモリーカードに記録されている画像の一覧をプリントします。

1 モード切替ダイヤルを “ ” に合わせて、電源を ON にする。

2 MENU ボタン MENU を押してメニューアイコンを表示させる。

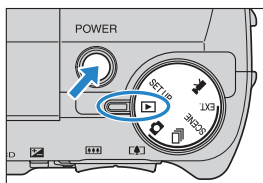
3 左ボタン または右ボタン を押して DPOF［ ］を選び、決定ボタン を押す。

4 上ボタン または下ボタン を押して［INDEX］を選び、右ボタン を押す。

5 上ボタン または下ボタン を押して［INDEX設定を行う］を選び、決定ボタン を押す。

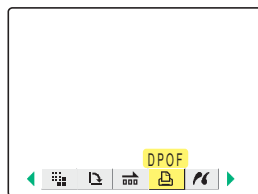
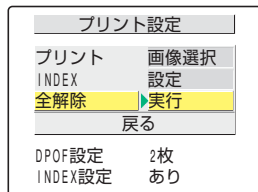
インデックスプリントが設定され、プリント設定の画面に戻ります。

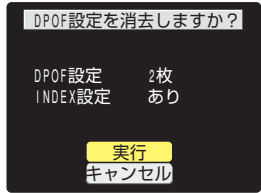
メモ

・［INDEX 設定を消去する］を選んで決定ボタン を押すと、インデックスプリントの設定を解除してプリント設定の画面に戻ります。
・［戻る］を選ぶとプリント設定の画面に戻ります。

プリント設定をすべて解除する

1 モード切替ダイヤルを“▶”に合わせて、電源を ON にする。

2 MENU ボタン MENU を押してメニューアイコンを表示させる。

3 左ボタン または右ボタン を押してDPOF［ ］を選び、決定ボタン を押す。

4 上ボタン または下ボタン を押して［全解除］を選び、右ボタン を押す。

5 上ボタン を押して［実行］を選び、決定ボタン を押す。

プリントの設定がすべて解除され、プリント設定の画面に戻ります。

[▭] カメラをプリンターに接続してプリントする（PictBridge）

《対応画像：静止画のみ》

カメラを PictBridge 対応のプリンターに接続して、カメラからの簡単な操作で画像をプリントすることができます。また、プリンターが DPOF に対応していれば、DPOF 設定した画像（→ 120 ページ）もプリントすることができます。ご使用の際は、お使いのプリンターの取扱説明書も併せてお読みください。

重要
- ご使用のプリンターが PictBridge に対応しているかご確認ください。
- ご使用の前に、プリンターの準備をしてください。（プリンターの取扱説明書をご覧ください。）

カメラとプリンターを接続する

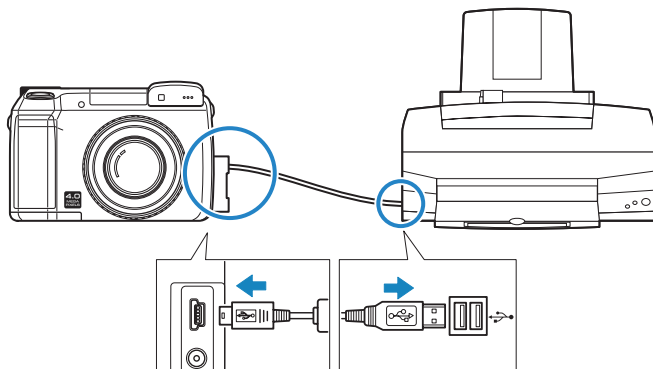
1 プリンターの電源を入れる。

2 モード切替ダイヤルを“▶”に合わせて、カメラの電源を ON にする。

3 MENU ボタン ◎MENU を押してメニューアイコンを表示させる。

4 左ボタン ◁ または右ボタン ▷ を押して PictBridge［▭］を選び、決定ボタン ▭ を押す。

プリンターの接続待ち画面が表示されます。

5 付属の USB ケーブルでカメラとプリンターを接続する。

重要　USB 端子の大きさを確認してください。小さい端子はカメラに、大きな端子はプリンターの USB ポートに接続します。

プリントメニュー画面が表示されます。

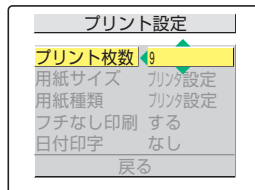
プリントの設定をする

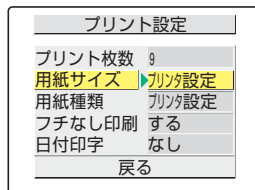
1 プリントメニュー画面で上ボタン または下ボタン を押して［プリント設定］を選び、決定ボタン を押す。

2 上ボタン または下ボタン を押して［プリント枚数］を選び、右ボタン を押す。

3 上ボタン または下ボタン を押してプリント枚数を選び、決定ボタン を押す。

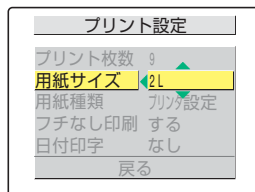
プリント部数が設定されます。

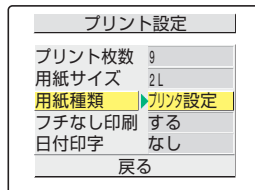
プリント設定	
プリント枚数	9
用紙サイズ	プリンタ設定
用紙種類	プリンタ設定
フチなし印刷	する
日付印字	なし
戻る	

4 上ボタン または下ボタン を押して［用紙サイズ］を選び、右ボタン を押す。

プリント設定	
プリント枚数	9
用紙サイズ	プリンタ設定
用紙種類	プリンタ設定
フチなし印刷	する
日付印字	なし
戻る	

5 上ボタン または下ボタン を押して用紙サイズを選び、決定ボタン を押す。

用紙サイズが設定されます。

メモ 用紙サイズは、プリンタ設定またはプリンターでサポートしているものが表示されます。

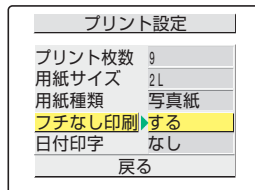
プリント設定	
プリント枚数	9
用紙サイズ	2L
用紙種類	プリンタ設定
フチなし印刷	する
日付印字	なし
戻る	

6 上ボタン または下ボタン を押して［用紙種類］を選び、右ボタン を押す。

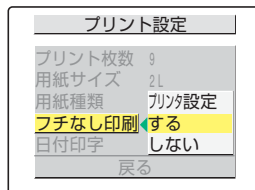
プリント設定	
プリント枚数	9
用紙サイズ	2L
用紙種類	プリンタ設定
フチなし印刷	する
日付印字	なし
戻る	

7 上ボタン または下ボタン を押して用紙種類を選び、決定ボタン を押す。

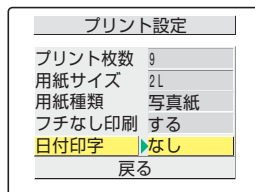
用紙種類が設定されます。

メモ 用紙種類は、プリンタ設定またはプリンターでサポートしているものが表示されます。

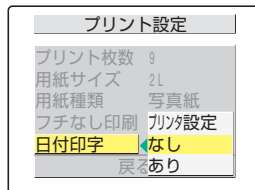
プリント設定	
プリント枚数	9
用紙サイズ	2L
用紙種類	写真紙
フチなし印刷	する
日付印字	なし
戻る	

8 上ボタン または下ボタン を押して［フチなし印刷］を選び、右ボタン を押す。

9 上ボタン または下ボタン を押して項目を選び、決定ボタン を押す。

［プリンタ設定］：プリンターの設定が優先されます。
［する］：用紙一杯にプリントします。
［しない］：フチを付けてプリントします。

10 上ボタン または下ボタン を押して［日付印字］を選び、右ボタン を押す。

プリント設定
プリント枚数 9
用紙サイズ 2L
用紙種類 写真紙
フチなし印刷 する
日付印字 なし
戻る

11 上ボタン または下ボタン を押して項目を選び、決定ボタン を押す。

［プリンタ設定］：プリンターの設定が優先されます。
［なし］：日付が印字されません。
［あり］：日付が印字されます。

プリント設定
プリント枚数 9
用紙サイズ 2L
用紙種類 写真紙
フチなし印刷 プリンタ設定
日付印字 なし
戻る あり

12 上ボタン または下ボタン を押して［戻る］を選び、決定ボタン を押す。

1 つ前の画面に戻ります。

画像を一枚ずつプリントする

1 プリントメニュー画面で上ボタン ⌃ または下ボタン ⌄ を押して［1 画像プリント］を選び、決定ボタン ⓐ を押す。

2 左ボタン ‹ または右ボタン › を押してプリントしたい画像を選ぶ。

3 上ボタン ⌃ を押して［決定］を選び、決定ボタン ⓐ を押す。

印刷設定の変更をする場合は「プリントの設定をする」(→ 126 ページ) をご覧ください。

メモ　MENU ボタン ◎MENU を押すと、プリントメニュー画面が表示されます。

4 上ボタン ⌃ を押して［実行］を選び、決定ボタン ⓐ を押す。

プリント枚数　9
用紙サイズ　2L
用紙種類　写真紙
フチなし印刷　する
日付印字　なし
実行
キャンセル

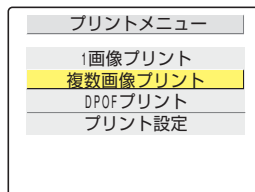
プリントが開始され、正常に終了すると印刷完了画面が表示されます。

重要　印刷中にエラーが起きた場合は画面にエラーメッセージが表示され、印刷が中断されます。表示されるメッセージと対処のしかたは 175 ページをご覧ください。

メモ
- この操作をする前に DISPLAY ボタン ◎DISPLAY を押すと、プリントの設定ができます。(設定のしかたは 126 ページの 2 ～ 12 をご覧ください。)
- 印刷中は、画面に印刷されている枚数と総印刷枚数が表示されます。
- 印刷を途中で中止する場合は、MENU ボタン ◎MENU を押します。

複数の画像をプリントする

1 プリントメニュー画面で上ボタン または下ボタン を押して［複数画像プリント］を選び、決定ボタン を押す。

プリント画像選択画面が表示されます。

2 上下左右ボタン を押してプリントしたい画像を選び、決定ボタン を押す。

選んだ画像に［ ］が表示されます。以後、この操作を繰り返してプリントしたい画像を選択します。選択を解除するには、［ ］が表示されている画像を選び、決定ボタン を押します。

メモ
- ズームボタンの［ ］／［ ］を押すと、シングル表示／マルチ表示を切り替えることができます。
- 選べる画像は 99 枚までです。

3 DISPLAY ボタン DISPLAY を押す。

印刷実行の確認画面が表示されます。
印刷設定の変更をする場合は「プリントの設定をする」(→ 126 ページ）をご覧ください。

メモ MENU ボタン MENU を押すと、プリントメニュー画面が表示されます。

4 上ボタン を押して［実行］を選び、決定ボタン を押す。

プリントが開始され、正常に終了すると印刷完了画面が表示されます。

重要 印刷中にエラーが起きた場合は画面にエラーメッセージが表示され、印刷が中断されます。表示されるメッセージと対処のしかたは 175 ページをご覧ください。

メモ

- この操作をする前に DISPLAY ボタン を押すと、プリントの設定ができます。（設定のしかたは 126 ページの 2 ～ 12 をご覧ください。）
- 印刷中は、画面に印刷されている枚数と総印刷枚数が表示されます。
- 印刷を途中で中止する場合は、MENU ボタン を押します。

DPOF の設定でプリントする

重要　画像が DPOF 設定されていないと DPOF 印刷することができません。（→ 120 ページ）

1 プリントメニュー画面で上ボタン または下ボタン を押して［DPOF プリント］を選び、決定ボタン を押す。

DPOF プリント画面が表示されます。

2 上ボタン を押して［実行］を選び、決定ボタン を押す。

印刷実行の確認画面が表示されます。
印刷設定の変更をする場合は「プリントの設定をする」（→ 126 ページ）をご覧ください。

メモ　MENU ボタン を押すと、プリントメニュー画面が表示されます。

3 上ボタン を押して［実行］を選び、決定ボタン を押す。

プリントが開始され、正常に終了すると印刷完了画面が表示されます。

重要　印刷中にエラーが起きた場合は画面にエラーメッセージが表示され、印刷が中断されます。表示されるメッセージと対処のしかたは 175 ページをご覧ください。

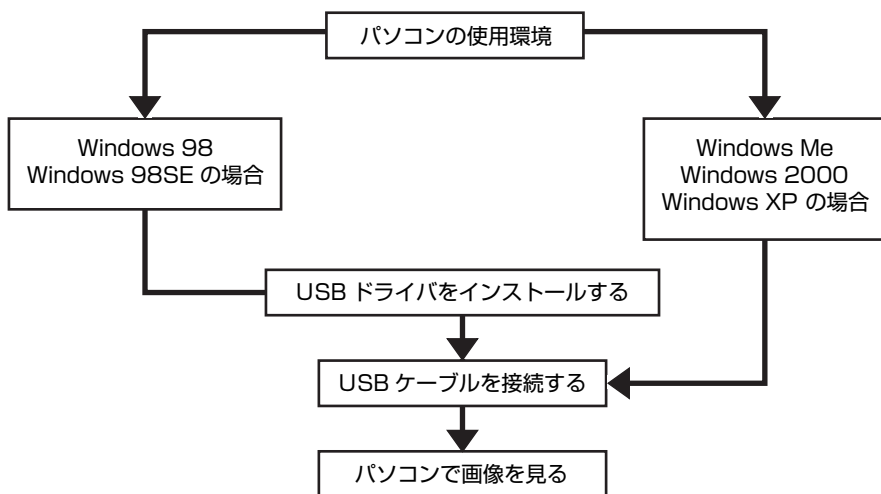
メモ

- この操作をする前にDISPLAY ボタン DISPLAY を押すと、プリントの設定ができます。(設定のしかたは 126 ページの 2 ～ 12 をご覧ください。
- プリント枚数と日付印字は DPOF の設定が優先されるため、表示されません。
- 印刷中は、画面に印刷されている枚数と総印刷枚数が表示されます。
- 印刷を途中で中止する場合は、MENU ボタン MENU を押します。
- 総印刷部数が 1000 枚以上になる場合は、正常な印刷ができないことがあります。

PictBridge を終了する

プリントメニュー画面が表示された状態で、USB ケーブルを取り外してください。

Windows パソコンにつなぐ

このカメラは、撮影した画像をパソコンで見たり、パソコンにコピーして加工したり、パソコンから E メールで送ることができます。
まずはお使いのパソコンの OS をご確認いただき、OS に合わせてお読みください。

パソコンの使用環境

- USB 端子が標準で装備されていること（カメラを接続するときに必要です。）
- CD-ROM ドライブが装備されていること（インストール時に必要です。）
- Windows98、Windows98SE、WindowsMe、Windows2000 Professional、WindowsXPHomeEdition および Professional がプレインストールされていること

※上記の OS でもアップグレードされた場合は動作保証いたしません。

USB ドライバーをインストールする（Windows98、Windows98SE のみ）

Windows98、Windows98SE の場合は、USB ドライバーのインストールが必要です。USB ドライバーはカメラに付属している CD-ROM（「取扱説明書」とドライバーソフト）に収録されています。

重要 USB ケーブルは、USB ドライバーのインストールが完了してから接続してください。先に USB ケーブルを接続すると USB ドライバーが正しくインストールされません。接続してしまった場合は、「デバイスの削除と対処法（Windows98、Windows98SE のみ）」（→ 141 ページ）をご覧ください。

1 パソコンの電源を ON にしてパソコンを起動する。

2 付属の CD-ROM（「取扱説明書」とドライバーソフト）をパソコンの CD-ROM ドライブにセットする。

CD-ROM が自動的に起動します。CD-ROM が自動的に起動しない場合は、「マイコンピュータ」内の「FinecamM400R」アイコンをダブルクリックしてください。

3 言語選択の画面が表示されたら、使用する言語をクリックする。

4 「USB ドライバーのインストール」をクリックする。

インストールが始まります。ガイドに従ってインストールを行ってください。

5 「InstallShield Wizard の完了」のメッセージが表示されたら、[はい、今すぐコンピュータを再起動します。] がチェックされていることを確認して、[完了] をクリックする。

インストールが完了し、パソコンが再起動します。

重要 インストールに失敗した場合は「デバイスの削除と対処法（Windows98、Windows98SE のみ）」（→ 141 ページ）の手順に従ってアンインストールし、再度インストールを行ってください。

USB ドライバーが不要になった場合

1 パソコンの電源を ON にしてパソコンを起動する。

2 [マイコンピュータ] をダブルクリックする。

3 [コントロールパネル] をダブルクリックする。

4 [アプリケーションの追加と削除] をダブルクリックし、[Digital Camera USB Device3] を選ぶ。

5 [追加と削除] をクリックする。

[選択したアプリケーション、およびすべてのコンポーネントを完全に削除しますか？] と表示されますので、[OK] をクリックしてください。これでドライバーは削除されます。

Windows パソコンで画像を見る

重要
- Windows98、Windows98SE をお使いの場合は、USB ドライバーをインストールしてから USB ケーブルを接続してください。（→ 134 ページ）
- WindowsMe、Windows2000、WindowsXP は USB ドライバーのインストールが不要です。ドライバーをインストールせずに USB ケーブルを接続してください。
- パソコンに画像を見るためのソフトウエアがインストールされている必要があります。（動画の再生には QuickTime4.1 以上のインストールが必要です。）

1 カメラにメモリーカードを挿入する。（→ 19 ページ）

重要 カメラにメモリーカードが挿入されていないと、パソコンで画像を確認できません。

2 カメラに電池を入れる。

3 付属の USB ケーブルでカメラとパソコンを接続し、パソコンを起動する。

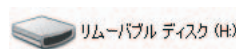
重要 USB 端子の大きさを確認してください。小さい端子はカメラに、大きな端子はパソコンの USB ポートに接続します。

4 POWER ボタン ◎POWER を押してカメラの電源を ON にする。

画面には［PC モード］と表示され、カメラのメモリーカードに保存されている画像をパソコンで確認したり、パソコンにコピーできるようになります。

重要
- WindowsXP をお使いの場合は［スキャナとカメラウィザード］のウィンドウが表示されますが、［キャンセル］をクリックしてウィンドウを閉じてください。
- パソコンにつないで画像を見たり、画像をコピーしているときは、カードアクセス LED が点滅します。このときに USB ケーブルを抜いたり、パソコンの電源を切らないでください。

メモ
- カメラとパソコンが接続され、データのやりとりが可能な通信状態にあるときはセルフタイマー LED が点灯します。
- 通信状態から USB ケーブルを抜く手順は、お使いの Windows のバージョンによって異なります。（→ 139 ページ）
- 長時間この作業を行うときは、別売りの AC アダプターのご使用をおすすめします。

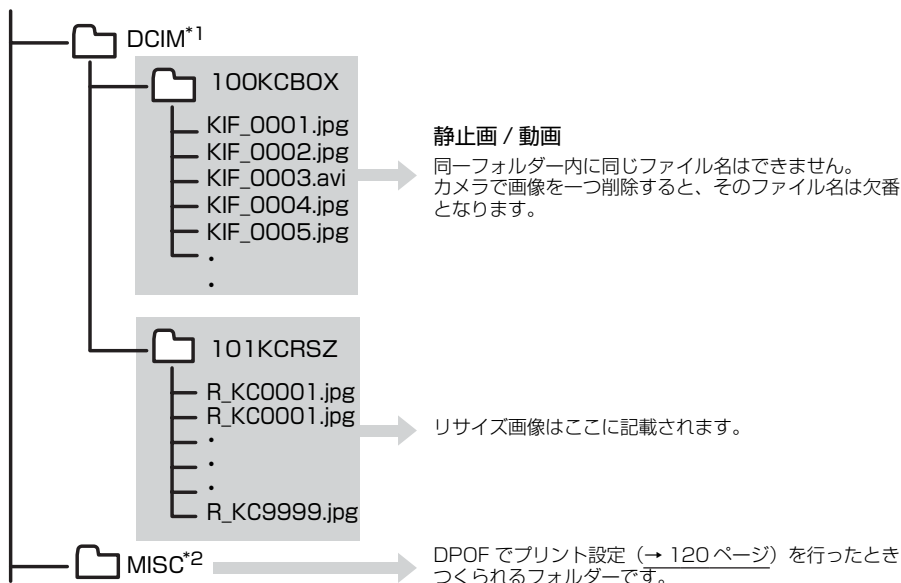
5 ［マイコンピュータ］に［リムーバブルディスク］のアイコンが表示されたら、ダブルクリックしてウインドウを開く。

重要　「PC モード」が表示されていても、パソコン上に［リムーバブルディスク］のアイコンが表示されない場合には、USB ケーブルが確実に接続されているかをご確認ください。

6 DCIM フォルダー内の［xxxKCBOX］または［xxxKCRSZ］を開き、見たい画像ファイルを選んでダブルクリックする。

メモ　フォルダー［xxxKCBOX］、［xxxKCRSZ］の xxx には、100 ～ 999 の数字が入ります。（→ 164 ページ）

■メモリーカードのフォルダー構成

Windows パソコン上で、カメラのメモリーカードのフォルダー構成は以下のようになっています。

リムーバブルディスク
- DCIM*1
  - 100KCBOX
    - KIF_0001.jpg
    - KIF_0002.jpg
    - KIF_0003.avi
    - KIF_0004.jpg
    - KIF_0005.jpg
    - ・
    - ・
  - 101KCRSZ
    - R_KC0001.jpg
    - R_KC0001.jpg
    - ・
    - ・
    - ・
    - R_KC9999.jpg
- MISC*2

静止画 / 動画
同一フォルダー内に同じファイル名はできません。
カメラで画像を一つ削除すると、そのファイル名は欠番となります。

リサイズ画像はここに記載されます。

DPOF でプリント設定（→ 120 ページ）を行ったときつくられるフォルダーです。

*1 DCIM：Digital Camera Image の略
*2 MISC：Miscellaneous の略

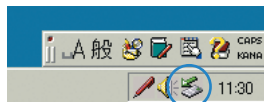
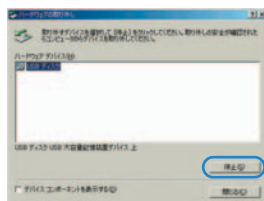
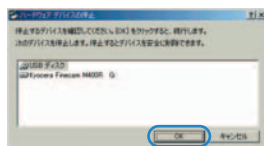
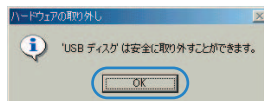
重要

- パソコンからメモリーカードの画像データを削除しないでください。必ずカメラ側で行ってください。
- 同一フォルダー内に同じファイル名はできません。カメラで画像を一つ削除すると、そのファイル名は欠番となります。
- パソコンがサスペンド・レジューム機能、またはスリープ機能から復帰しても、通信状態が復帰できないことがあります。
- 画像のサイズを変えたり、回転するなど画像を加工するときは、その前にパソコンにコピーすることを忘れないでください。メモリーカードの画像を直接加工すると、カメラで再生ができなくなります。
- パソコンからメモリーカードをフォーマットしないでください。カメラで使用できなくなるおそれがあります。

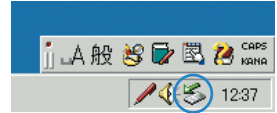
Windows パソコンから USB ケーブルを取り外す

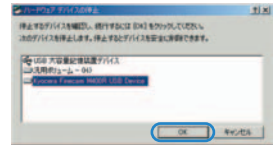
Windows パソコンから USB ケーブルを取り外すときは以下の手順で行ってください。

● WindowsMe をお使いの場合

1 デスクトップ右下にある「タスクバー」の［ハードウェアの取り外し］アイコンをダブルクリックする。

2 ［USB ディスク］を選択して［停止］をクリックする。

3 ［USB ディスク］を選択して［OK］をクリックする。

4 ［‘USB ディスク’は安全に取り外すことができます。］とメッセージが表示されたら、［OK］をクリックする。

5 USB ケーブルをパソコンとカメラから取り外す。

● Windows2000、WindowsXP をお使いの場合

1 デスクトップ右下にある「タスクバー」の［ハードウエアの取り外し］アイコンをダブルクリックする。

2 ［USB 大容量記憶装置デバイス］を選択して［停止］をクリックする。

3 ［Kyocera Finecam M400R USB Device］を選択して［OK］をクリックする。

4 ［'USB 大容量記憶装置デバイス' は安全に取り外すことができます。］とメッセージが表示されたら、［OK］をクリックする。

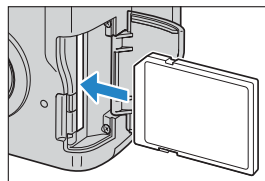
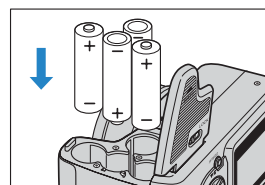
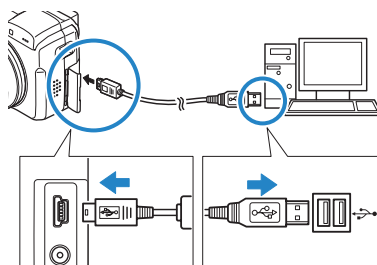
5 USB ケーブルをパソコンとカメラから取り外す。

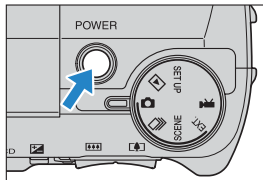
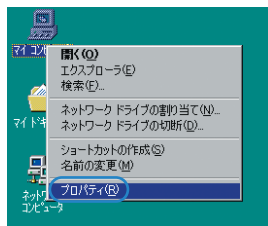
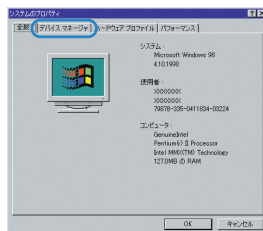
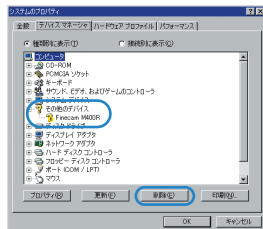
● Windows98、Windows98SE お使いの場合

カメラの電源を OFF にし、そのまま USB ケーブルを取り外してください。

デバイスの削除と対処法（Windows98、Windows98SE のみ）

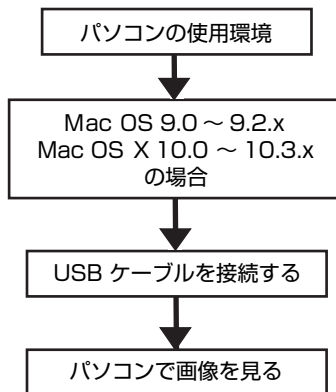
ドライバーソフトが正常にインストールされていないと、パソコンがカメラを認識できません。
その場合は、次の手順に従ってデバイスを削除してください。その後、134 ページに記載されている手順に従って、再度ドライバーをインストールしてください。
※以下は Windows98、Windows98SE にのみ必要な手順です。

1 カメラにメモリーカードを挿入する。（→ 19 ページ）

2 カメラに電池を入れる。

3 付属の USB ケーブルでカメラとパソコンを接続し、パソコンを起動する。

重要　USB 端子の大きさを確認してください。小さい端子はカメラに、大きな端子はパソコンの USB ポートに接続します。

4 POWER ボタン ◎POWER を押してカメラの電源を ON にする。

5 ［マイコンピュータ］を右クリックし、［プロパティ］を選ぶ。

6 システムのプロパティが表示されたら、［デバイスマネージャ］のタブをクリックする。

7 ［その他のデバイス］の、“?” マークのついた［Finecam M400R］を選択して［削除］をする。

8 デバイス削除の確認画面が表示されたら、［OK］をクリックする。

9 カメラの電源を OFF にしてから USB ケーブルを取り外し、パソコンを再起動する。

Macintosh パソコンにつなぐ

このカメラは、撮影した画像をパソコンで見たり、パソコンにコピーして加工したり、パソコンから E メールで送ることができます。
まずはお使いのパソコンのOSをご確認いただき、OSに合わせてお読みください。

パソコンの使用環境

- USB 端子が標準で装備されていること（カメラを接続するときに必要です。）
- CD-ROM ドライブが装備されていること（インストール時に必要です。）
- Mac OS 9.0 ～ 9.2.x または OS X 10.0 ～ 10.3.x（OS X サーバーを除く）がプレインストールされていること

※上記の OS でもアップグレードされた場合は動作保証いたしません。

Macintosh パソコンで画像を見る

重要
- Macintosh パソコンは USB ドライバーのインストールが不要です。ドライバーをインストールせずに USB ケーブルを接続してください。
- パソコンに画像を見るためのソフトウエアがインストールされている必要があります。（動画の再生には QuickTime4.1 以上のインストールが必要です。）

1 カメラにメモリーカードを挿入する。（→ 19 ページ）

重要　カメラにメモリーカードが挿入されていないと、パソコンで画像を確認できません。

2 カメラに電池を入れる。

3 付属の USB ケーブルでカメラとパソコンを接続し、パソコンを起動する。

重要　USB 端子の大きさを確認してください。小さい端子はカメラに、大きな端子はパソコンの USB ポートに接続します。

4 POWER ボタン ◎POWER を押してカメラの電源を ON にする。

画面には［PC モード］と表示され、カメラのメモリーカードに保存されている画像をパソコンで確認したり、パソコンにコピーできるようになります。

重要 パソコンにつないで画像を見たり、画像をコピーしているときは、カードアクセス LED が点滅します。このときに USB ケーブルを抜いたり、パソコンの電源を切らないでください。

メモ
・カメラとパソコンが接続されると、セルフタイマー LED が点灯します。
・長時間この作業を行うときは、別売りの AC アダプターのご使用をおすすめします。

5 デスクトップに［名称未設定］のアイコンが表示されたら、ダブルクリックしてウインドウを開く。

※ Mac OS 10.0 〜 10.3.x は［NO_NAME］と表示されます。

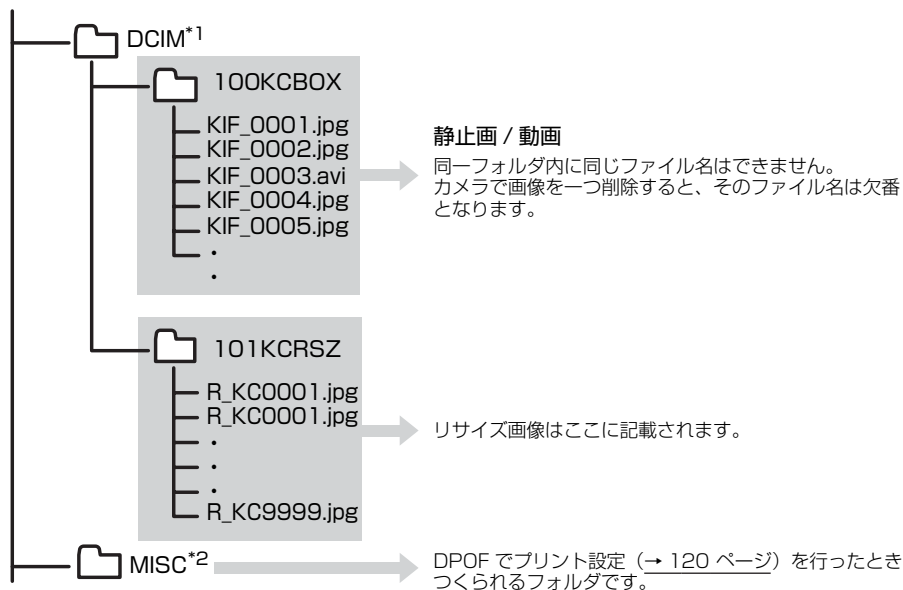
重要 「PC モード」が表示されていても、パソコン上に［名称未設定］または［NO_NAME］のアイコンが表示されない場合には、USB ケーブルが確実に接続されているかをご確認ください。

6 DCIM フォルダー内の［xxxKCBOX］または [xxxKCRSZ] を開き、見たい画像ファイルを選んでダブルクリックする。

メモ フォルダー［xxxKCBOX]、[xxxKCRSZ] の xxx には、100 〜 999 の数字が入ります。(→ 164 ページ)

■メモリーカードのフォルダー構成

Macintosh パソコン上で、カメラのメモリーカードのフォルダー構成は以下のようになっています。

新しいリムーバブルディスク
- DCIM*1
  - 100KCBOX
    - KIF_0001.jpg
    - KIF_0002.jpg
    - KIF_0003.avi
    - KIF_0004.jpg
    - KIF_0005.jpg
    - ・
    - ・
  - 101KCRSZ
    - R_KC0001.jpg
    - R_KC0001.jpg
    - ・
    - ・
    - ・
    - R_KC9999.jpg
- MISC*2

静止画 / 動画
同一フォルダ内に同じファイル名はできません。
カメラで画像を一つ削除すると、そのファイル名は欠番となります。

リサイズ画像はここに記載されます。

DPOF でプリント設定（→ 120 ページ）を行ったときつくられるフォルダです。

*1 DCIM：Digital Camera Image の略
*2 MISC：Miscellaneous の略

重要

・パソコンからメモリーカードの画像データを削除しないでください。必ずカメラ側で行ってください。
・同一フォルダー内に同じファイル名はできません。カメラで画像を一つ削除すると、そのファイル名は欠番となります。
・パソコンが省エネルギー設定によるスリープ機能から復帰しても、通信状態が復帰できないことがあります。
・画像のサイズを変えたり、回転するなど画像を加工するときは、その前にパソコンにコピーすることを忘れないでください。メモリーカードの画像を直接加工すると、カメラで再生ができなくなります。
・パソコンからメモリーカードをフォーマットしないでください。カメラで使用できなくなるおそれがあります。

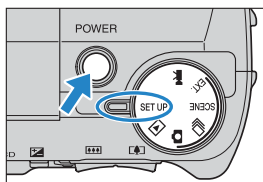
Macintosh パソコンから USB ケーブルを取り外す

デスクトップ上の［名称未設定］（Mac OS 9 の場合）または［NO_NAME］（Mac OS X の場合）のフォルダーをドラッグしてゴミ箱に入れてください。[安全に取り外すことができます］のメッセージが表示されているか、「名称未設定」のアイコンがディスプレイ上から消えていることを確認してから USB ケーブルを取り外してください。

設定

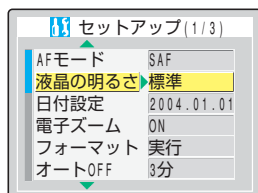
この章では、様々なカメラの設定について説明します。

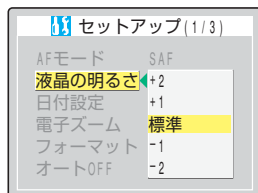
▼ご覧になりたい項目をクリックしてください。

液晶の明るさを調整する 液晶の明るさ	フォーマットする フォーマット	オート OFF を設定する オートOFF
モードロックを設定する モードロック	操作音を調整する 操作音	シャッター音を調整する シャッター音
起動時の表示画面を選ぶ 液晶選択	起動画面を設定する 起動画面	言語を選ぶ 言語LANGUAGE
ビデオ出力の設定をする ビデオ出力	連番リセットする 連番リセット	設定リセットする 設定リセット

[液晶の明るさ] 液晶モニターの明るさを調整する

液晶モニターの明るさを 5 段階で調節できます。お好みに応じて設定してください。

1 モード切替ダイヤルを “SET UP” に合わせて、電源を ON にする。

2 上ボタン または下ボタン を押して[液晶の明るさ] を選び、右ボタン を押す。

3 上ボタン または下ボタン を押して明るさを選び、決定ボタン を押す。

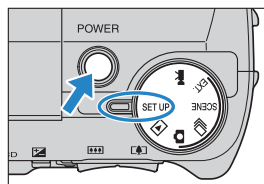
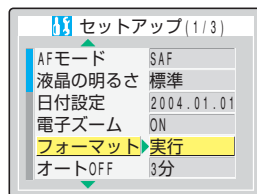
選んだ明るさが設定され、セットアップメニュー画面に戻ります。

[＋2] ：明るさが一番強い設定です。
[＋1] ：標準よりもやや明るい設定です。
[標準] ：一般的な明るさです。(初期設定)
[－1] ：標準よりもやや暗い設定です。
[－2] ：明るさが一番暗い設定です。

メモ この設定は電源を OFF にしても保持されます。

［フォーマット］ メモリーカードを初期化する

新しいメモリーカードを使う前や、画像を含むすべてのデータを消去したいときは、メモリーカードをフォーマットします。

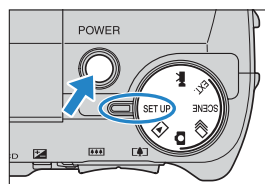
重要
- 本機の性能を充分に発揮するため、フォーマットは本機で行うことをおすすめします。
- フォーマットすると、プロテクトした画像も消去されますのでご注意ください。

1 モード切替ダイヤルを “SET UP” に合わせて、電源を ON にする。

2 上ボタン または下ボタン を押して［フォーマット］を選び、右ボタン を押す。

3 上ボタン を押して［実行］を選び、決定ボタン を押す。

フォーマットが始まります。
フォーマットが完了するとセットアップメニュー画面に戻ります。

[オートOFF] 電源を自動的にOFFにして節電する

このカメラは電源の切り忘れによる電池の消費を少なくするため、電源をONにしたまま放置しておくと数分後にカメラの電源がOFFになるオートOFF機能が付いています。オートOFF機能を使うと、カメラは数分後に休止状態になり、その2分後に電源がOFFになります。休止状態になるとカメラの電源はOFFにならずに、電子ビューファインダーと液晶モニターの表示が消えます。
ここではカメラの電源がOFFになるまでの時間を設定できます。

1 モード切替ダイヤルを"SET UP"に合わせて、電源をONにする。

2 上ボタン または下ボタン を押して[オートOFF]を選び、右ボタン を押す。

3 上ボタン または下ボタン を押して項目を選び、決定ボタン を押す。

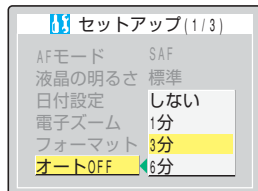
セットアップ（1/3）
AFモード　SAF
液晶の明るさ　標準
日付設定　しない
電子ズーム　1分
フォーマット　3分
オートOFF　6分

選んだ設定が反映され、セットアップメニュー画面に戻ります。

[しない] : 電源は自動的に OFF になりません。切り忘れにご注意ください。

[1 分]　：“”モード、“SCENE”モード、“EXT.”モード、“”モードでは 1 分後にビューファインダーと液晶モニターの表示が消え、さらに 2 分後に電源が OFF になります。“”モード、“SET UP”モードでは 1 分後に電源が OFF になります。

[3 分]　：“”モード、“SCENE”モード、“EXT.”モード、“”モードでは 3 分後にビューファインダーと液晶モニターの表示が消え、さらに 2 分後に電源が OFF になります。“”モード、“SET UP”モードでは 3 分後に電源が OFF になります。（初期設定）

[6 分]　：“”モード、“SCENE”モード、“EXT.”モード、“”モードでは 6 分後にビューファインダーと液晶モニターの表示が消え、さらに 2 分後に電源が OFF になります。“”モード、“SET UP”モードでは 6 分後に電源が OFF になります。

重要　●以下の場合は、オート OFF になりません。
・スライドショー実行中
・PC モード時（パソコンとカメラの接続中）

メモ　この設定は電源を OFF にしても保持されます。

■オート OFF 使用上のご注意（“📷” モード、“SCENE” モード、“EXT.” モード、“🎥” モードのとき）

オート OFF の設定により、カメラは以下のように動作します。

● ［オート OFF］を［1 分］、［3 分］、［6 分］に設定したとき

電源を ON にしたまま設定時間以上カメラを放置すると、2 分間、ビューファインダーと液晶モニターの表示が消えます。

この間にシャッターボタンを半押しするか他のボタンを押すと、撮影できる状態に戻りますが、この 2 分間を超えるとカメラの電源が OFF になります。

● ［オート OFF］を［しない］に設定したとき

電源を ON にしたまま 6 分間以上カメラを放置すると、ビューファインダーと液晶モニターの表示が消えます。

カメラの電源は OFF にならずにビューファインダーと液晶モニターの表示が消えた状態が続きます。シャッターボタンを半押しするか他のボタンを押すと、撮影できる状態に戻ります。

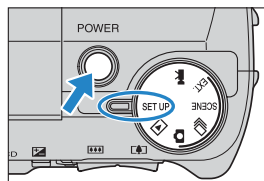
：撮影可能な状態。

：ビューファインダーと液晶モニターの表示が消えた状態。シャッターボタンを半押しするか他のボタンを操作すると、撮影できる状態に戻る。

：電源が OFF の状態。

［モードロック］ 設定した機能を残しておく

“📷”モード、“▭”モード、“SCENE”モード、“EXT.”モード、“🎥”モードで設定した内容を、電源を OFF にした後も有効にしておくことをモードロックといいます。モードロックできる機能の詳細については 167ページをご覧ください。

1 モード切替ダイヤルを “SET UP” に合わせて、電源を ON にする。

2 上ボタン または下ボタン を押して［モードロック］を選び、右ボタン を押す。

3 上ボタン または下ボタン を押して［ON］選び、決定ボタン を押す。

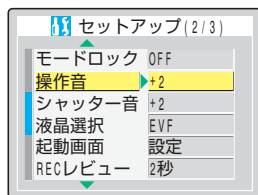
選んだ設定が反映され、セットアップメニュー画面に戻ります。
電源を OFF にしたときに設定内容を初期設定に戻す場合は［OFF］を選びます。

メモ この設定は電源を OFF にしても保持されます。

［操作音］　ボタンを押したときの音量を調節する

各ボタンを押したときの操作音とカメラの起動音の音量を調節します。

1　モード切替ダイヤルを “SET UP” に合わせて、電源を ON にする。

2　上ボタン または下ボタン を押して［操作音］を選び、右ボタン を押す。

3　上ボタン または下ボタン を押して音量を選び、決定ボタン を押す。

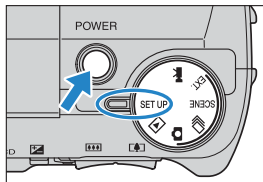
選んだ音量が反映され、セットアップメニュー画面に戻ります。

［＋3］：音量大
［＋2］：音量中（初期設定）
［＋1］：音量小
[OFF]　：操作音を OFF にします。

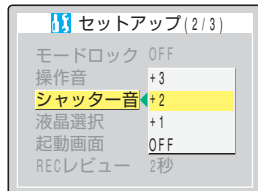
メモ　この設定は電源を OFF にしても保持されます。

［シャッター音］ シャッター音の音量を調節する

シャッター音の音量を調節します。

1 モード切替ダイヤルを “SET UP” に合わせて、電源を ON にする。

2 上ボタン または下ボタン を押して［シャッター音］を選び、右ボタン を押す。

3 上ボタン または下ボタン を押して音量を選び、決定ボタン を押す。

選んだ音量が反映され、セットアップメニュー画面に戻ります。

［＋3］：音量大
［＋2］：音量中（初期設定）
［＋1］：音量小
[OFF]：シャッター音を OFF にします。

メモ この設定は電源を OFF にしても保持されます。

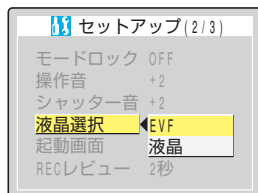
[液晶選択] 起動時の表示画面を選択する

カメラの電源を ON にしたときに画面が電子ビューファインダー（EVF）に表示されるか、液晶モニター（LCD）に表示されるかを選択することができます。

1 モード切替ダイヤルを “SET UP” に合わせて、電源を ON にする。

2 上ボタン または下ボタン を押して [液晶選択] を選び、右ボタン を押す。

3 上ボタン または下ボタン を押して表示する画面を選び、決定ボタン を押す。

選んだ設定が反映され、セットアップメニュー画面に戻ります。

[EVF] ：カメラを ON にしたとき、電子ビューファインダー（EVF）に画面が表示されます。（初期設定）

[液晶]：カメラを ON にしたとき、液晶モニター（LCD）に画面が表示されます。

メモ

・この設定は電源を OFF にしても保持されます。

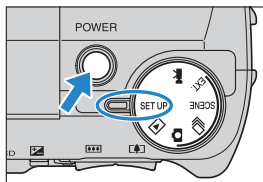
・“▶” モード、“SET UP” モード、PC モード（パソコン接続時）でカメラの電源を ON にしたときは、この設定に関係なく液晶モニターが ON になります。

［起動画面］ 起動画面を選ぶ

電源を入れた直後に表示される起動画面を、以下の中から選ぶことができます。

- Finecam ロゴの画面 ：Finecam ロゴの画面が表示されます。（初期設定）
- ユーザー設定画面 ：メモリーカードに保存されている画像から設定できます。
- OFF 画面 ：起動画面は表示されません。

Finecam ロゴの画面にする

1 モード切替ダイヤルを “SET UP” に合わせて、電源を ON にする。

2 上ボタンまたは下ボタンを押して［起動画面］を選び、右ボタンを押す。

3 左ボタンを押して Finecam ロゴの画面を選ぶ。

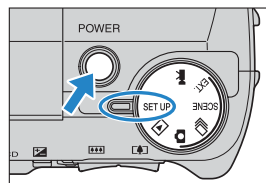
4 決定ボタンを押す。

Finecam ロゴの画面が設定され、セットアップメニュー画面に戻ります。

メモ この設定は電源を OFF にしても保持されます。

ユーザー設定画面にする

重要　設定したい画像が記録されているメモリーカードが、カメラに入っていることを確認してください。

1 モード切替ダイヤルを "SET UP" に合わせて、電源を ON にする。

2 上ボタン または下ボタン を押して［起動画面］を選び、右ボタン を押す。

3 左ボタン または右ボタン を押して中央を選び、下ボタン を押す。

画像選択の画面が表示され、メモリーカードに記録されている静止画が表示されます。

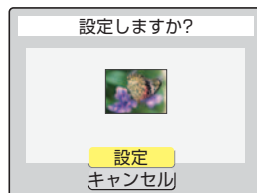
4 左ボタン または右ボタン を押して画像を選び、決定ボタン を押す。

画像設定の確認画面が表示されます。

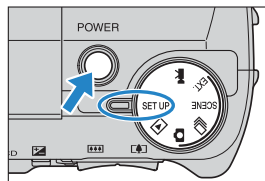
メモ　リセットを選ぶとリセット確認の画面が表示されます。［実行］を選んで決定ボタン を押すと、設定されていたユーザー設定画面がメモリーから削除されます。

5 上ボタン を押して［設定］を選び、決定ボタン を押す。

ユーザー設定画面が設定され、セットアップメニュー画面に戻ります。

メモ

- この設定は電源を OFF にしても保持されます。
- 設定した画像はカメラ内のメモリーに保存されますので、メモリーカードを変えたり、画像をメモリーカードから消去しても設定した起動画面は変わりません。

起動画面を OFF にする

1 モード切替ダイヤルを "SET UP" に合わせて、電源を ON にする。

2 上ボタンまたは下ボタンを押して [起動画面] を選び、右ボタンを押す。

3 右ボタンを押して OFF を選ぶ。

4 決定ボタンを押す。

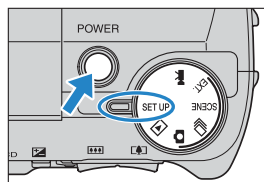
起動画面が OFF になり、セットアップメニュー画面に戻ります。

メモ　この設定は電源を OFF にしても保持されます。

［言語LANGUAGE］ メニューに表示する言語を選ぶ

画面に表示する言語を以下の中から選べます。

・ 日本語（初期設定）
・ 英語
・ フランス語
・ ドイツ語
・ スペイン語
・ 中国語（簡体字）

1 モード切替ダイヤルを “SET UP” に合わせて、電源を ON にする。

2 上ボタン または下ボタン を押して［言語LANGUAGE］を選び、右ボタン を押す。

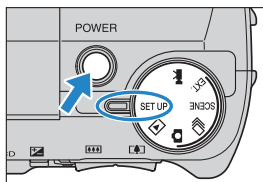
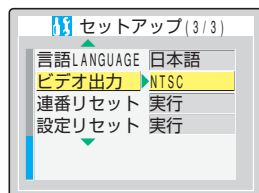
3 上ボタン または下ボタン を押して項目を選び、決定ボタン を押す。

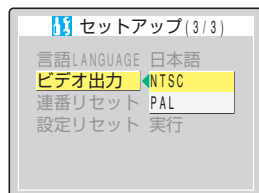
選んだ設定が反映され、セットアップメニュー画面に戻ります。

メモ　この設定は電源を OFF にしても保持されます。

[ビデオ出力]　テレビにつなぐときの出力形式を設定する

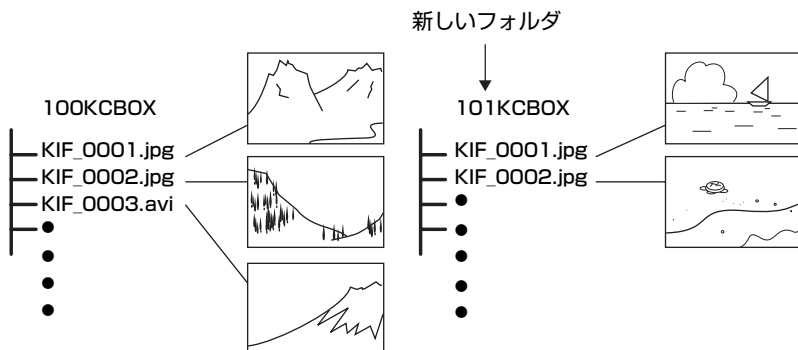
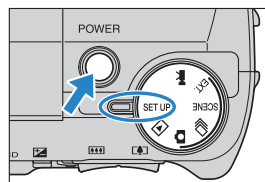
ビデオ出力形式をNTSC方式とPAL方式から選べます。テレビの送受信形式は国によって異なりますので、旅先でカメラをテレビにつなぐときはその国の形式を設定してください。
※日本はNTSC形式です。

1　モード切替ダイヤルを“SET UP”に合わせて、電源をONにする。

2　上ボタンまたは下ボタンを押して[ビデオ出力]を選び、右ボタンを押す。

3　上ボタンまたは下ボタンを押して項目を選び、決定ボタンを押す。

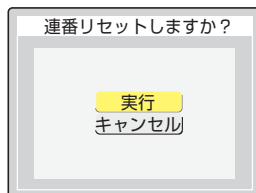
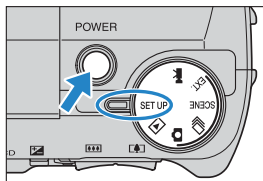
選んだ設定が反映され、セットアップメニュー画面に戻ります。

[NTSC]：日本やアメリカで使われているビデオ出力形式です。（初期設定）
[PAL]　：おもにヨーロッパで使われているビデオ出力形式です。

メモ　この設定は電源をOFFにしても保持されます。

[連番リセット] 画像データの名前を 0001 から始める

このカメラで撮影した画像は連続した番号が順にファイル名に付けられ、「100KCBOX」というフォルダーに保存されています。
連番リセットを行うと、新しく「101KCBOX」というフォルダーが作られ、以後、撮影される画像はそのフォルダーに保存されます。ファイル名は新しく「0001」から番号が付けられます。
撮影シーンごとにフォルダーを変えたいときなどに連番リセットは便利です。

1 モード切替ダイヤルを “SET UP” に合わせて、電源を ON にする。

2 上ボタン または下ボタン を押して [連番リセット] を選び、右ボタン を押す。

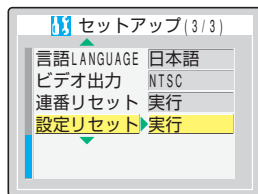
3 上ボタンを押して[実行]を選び、決定ボタンを押す。

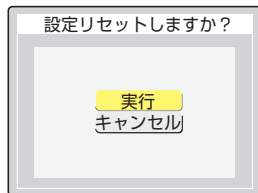
連番がリセットされ、セットアップメニュー画面に戻ります。

メモ

- 作成できるフォルダーは、「100KCBOX」〜「999KCBOX」です。
- 「999KCBOX」があるときは、連番リセットができません。
- フォルダー番号をリセットして「100KCBOX」に戻す場合は、メモリーカードを入れずに連番リセットを行い、フォーマット済みのメモリーカードを入れて撮影してください。

［設定リセット］ 設定した機能を初期状態に戻す

設定したモードやメニューを初期状態に戻したいときに使います。

1 モード切替ダイヤルを“SET UP”に合わせて、電源をONにする。

2 上ボタン を押して［設定リセット］を選び、右ボタン を押す。

3 上ボタン を押して［実行］を選び、決定ボタン を押す。

設定がリセットされ、セットアップメニュー画面に戻ります。

モードロックされるメニューと初期設定の一覧表

モード	メニュー	モードロック	OFF 後	初期設定	ページ
静止画 AUTO モード	ストロボモード	×	初	発光禁止（非ポップアップ時）／自動発光（ポップアップ時）	49
	マクロ／遠景モード	○	ロック	ノーマル	42
	セルフタイマー	×	初	OFF	44
	画素数	×	前	2272 × 1704	73
	画質	×	前	ノーマル	74
連写 AUTO モード	ストロボモード	×	初	発光禁止	49
	マクロ／遠景モード	○	ロック	ノーマル	42
	セルフタイマー	×	初	OFF	44
	画素数	×	前	2272 × 1704	73
	画質	×	前	ノーマル	74
	ドライブモード	○	ロック	高速連写	85

OFF 後　：電源を OFF にした後のメニューの設定状態
ロック　：モードロックの設定による
初　　　：初期設定に戻る
前　　　：電源を OFF にする前の設定を保持する
―　　　：対象外

モード	メニュー	モードロック	OFF 後	初期設定	ページ
EXT. EXT. モード	ストロボモード	○	ロック	発光禁止（非ポップアップ時）／自動発光（ポップアップ時）	49
	マクロ／遠景モード	○	ロック	ノーマル	42
	セルフタイマー	×	初	OFF	44
	画素数	×	前	2272 × 1704	73
	画質	×	前	ノーマル	74
	ドライブモード	○	ロック	単写	85
	露出補正	○	ロック	± 0.0	55
	ホワイトバランス	○	ロック	AUTO	76
	詳細→カラーモード	×	初	カラー	78
	詳細→彩度	×	前	標準	79
	詳細→シャープネス	×	前	標準	80
	詳細→コントラスト	×	前	標準	82
	詳細→ WB プリセット	×	前	お客様が設定されたホワイトバランス	77
	詳細→フォーカス	×	前	ワイド AF	66
	詳細→長時間露光	×	初	OFF	61
	詳細→ ISO 感度	×	前	AUTO	62
	詳細→測光モード	×	前	評価測光	59
	詳細→ AE モード	×	前	プログラム	56

OFF 後　：電源を OFF にした後のメニューの設定状態
ロック　：モードロックの設定による
初　　　：初期設定に戻る
前　　　：電源を OFF にする前の設定を保持する
—　　　：対象外

モード	メニュー	モードロック	OFF 後	初期設定	ページ
SCENE SCENE モード	ストロボモード（スポーツモード）	×	初	発光禁止	49
	ストロボモード（ポートレートモード）	×	初	発光禁止（非ポップアップ時）／自動発光（ポップアップ時）	49
	ストロボモード（夜景モード）	×	初	発光禁止	49
	ストロボモード（夜景ポートレート）	×	初	発光禁止（非ポップアップ時）／自動発光（ポップアップ時）	49
	マクロ／遠景モード	×	初	ノーマル	42
	シーンモード	○	ロック	スポーツモード	40
	セルフタイマー	×	初	OFF	44
	画素数	×	前	2272 × 1704	73
	画質	×	前	ノーマル	74
	ドライブモード	○	ロック	単写	85
	露出補正	×	初	± 0.0	55
	ホワイトバランス	×	初	AUTO	76
	詳細→カラーモード	×	初	カラー	78
	詳細→彩度	×	初	標準	79
	詳細→シャープネス	×	初	標準	80
	詳細→コントラスト	×	初	標準	82

OFF 後 ：電源を OFF にした後のメニューの設定状態
ロック ：モードロックの設定による
初 ：初期設定に戻る
前 ：電源を OFF にする前の設定を保持する
— ：対象外

モード	メニュー	モードロック	OFF 後	初期設定	ページ
SCENE SCENE モード	詳細→ WB プリセット	×	前	お客様が設定されたホワイトバランス	77
	詳細→フォーカス	×	初	ワイド AF	66
	詳細→長時間露光	×	初	OFF	61
	詳細→ ISO 感度	×	初	AUTO	62
	詳細→測光モード	×	初	評価測光	59
	詳細→ AE モード	×	初	プログラム	56
動画モード	マクロ／遠景モード	○	ロック	ノーマル	42
	セルフタイマー	×	初	OFF	44
	画素数	×	前	320 × 240	73
	音声	×	前	あり	37
	露出補正	○	ロック	± 0.0	55
	詳細→カラーモード	×	初	カラー	78
	詳細→ WB プリセット	×	前	お客様が設定されたホワイトバランス	77
	詳細→フォーカス	×	前	ワイド AF	66
	詳細→フレーム／秒	×	前	30fps	38

OFF 後 ：電源を OFF にした後のメニューの設定状態
ロック ：モードロックの設定による
初 ：初期設定に戻る
前 ：電源を OFF にする前の設定を保持する
— ：対象外

モード	メニュー	モードロック	OFF 後	初期設定	ページ
SET UP SET UP モード	AF モード	×	前	SAF	68
	液晶の明るさ	×	前	標準	149
	日付設定	×	前	お客様が設定された日付	23
	電子ズーム	×	前	ON	47
	フォーマット	×	—	—	150
	オート OFF	×	前	3 分	151
	モードロック	×	前	OFF	154
	操作音	×	前	+2	155
	シャッター音	×	前	+2	156
	液晶選択	×	前	EVF	157
	起動画面	×	前	Finecam ロゴの画面	158
	REC レビュー	×	前	2 秒	70
	言語 LANGUAGE	×	前	お客様が設定された言語	162
	ビデオ出力	×	前	NTSC	163
	連番リセット	×	—	—	164
	設定リセット	×	—	—	166

OFF 後　: 電源を OFF にした後のメニューの設定状態
ロック　: モードロックの設定による
初　　　: 初期設定に戻る
前　　　: 電源を OFF にする前の設定を保持する
—　　　: 対象外

困ったときには

故障とお考えになる前に、以下の事項を確認してください。

現象と処置

現象	原因	処置
液晶モニターに何もでてこない。	電池切れ、または電池が入っていません。	未使用または充電済みの電池を入れてください。
	オート OFF 機能で電源が OFF になりました。（→ 151 ページ）	再度 POWER ボタン ◎POWER を押して ON にしてください。
液晶モニターが消えている。	液晶選択が EVF（電子ビューファインダー）に設定されています。	VF ボタンを押して液晶モニターを選択します。
	カメラの操作を行わずにしばらく放置すると、カメラが休止の状態になります。	シャッターボタンを半押しするか、他のボタンを操作すると、撮影できる状態に戻ります。オート OFF で設定した内容によって異なります。（→ 151 ページ）
	カメラの近くに磁石やテレビなどの磁気を発生するものがあります。	磁気を発生するものからカメラを遠ざけてください。
	カメラにビデオケーブルがつながっています。	ビデオケーブルを外します。
テレビに映らない。	ビデオ出力方式がテレビと合っていません。	ビデオ出力方式をテレビに合わせてください。（→ 163 ページ）
撮影したのに撮影可能枚数が変わらない。	撮影した画像の容量が少ないためです。	画質モードや被写体の状態によるものなので、問題ありません。
画像が消去できない。“O┳” 点灯	画像がプロテクトされています。	プロテクトを解除してください。（→ 106 ページ）。
画像を消去したのに撮影可能枚数が増えない。	消去した画像の容量が少なかったためです。	画質モードや被写体の状態によるものなので、問題ありません。

現象	原因	処置
カメラが熱くなる。	液晶モニター使用時は大量に電流が流れるため長時間使用すると熱くなります。	故障ではありませんが、しばらく休止してからお使いください。
ピントが合わない。撮影マーク点滅。	ピントが合いにくい被写体を撮影しています。(→ 66 ページ)	フォーカスロックを使って被写体のコントラストの強いところにピントを合わせてから、構図を決めて撮影してください。(→ 65 ページ)
真っ白な画像ばかり撮れてしまう。	露出オーバーです。または長時間露光が設定されています。	露出補正を－に設定する、長時間露光を OFF にする、または設定リセットを行ってください。
画像のノイズが多い。	ISO 感度を上げていたり、長時間露光を長い時間に設定すると、ノイズがでやすくなります。	レタッチソフトなどで、ノイズを除去するか、ライティングする、または ISO 感度を下げるなどして撮影してください。
画像の回転、DPOF 設定、プロテクト、フォーマットができない。	SD メモリーカードのライトプロテクトがロック（書込禁止）されています。	SD メモリーカードのロックを解除してください。(→ 20 ページ)
カメラとパソコンをつないでもパソコンに［リムーバブルディスク］や［名称未設定］が表示されない。	USB ケーブルが確実に差し込まれていません。	USB ケーブルをしっかり差し込んでください。
	キーボードや USB ハブの USB ポートに接続されています。	USB ケーブルをパソコン本体の USB ポートに差し込んでください。
	ドライバーがインストールされていない、またはインストールが失敗しています。	デバイスの削除と対処法（Windows98、Windows98SE のみ）(→ 141 ページ) の手順に従ってください。

現象	原因	処置
プリンターと接続して印刷できない。	PictBridge 対応のプリンターではありません。	プリンターの取扱説明書をご覧ください。
	プリンターと正しく接続されていません。	プリンターと USB ケーブルで正しく接続されているか確認してください。
	動画は印刷できません。	-
	プリンターが DPOF プリント対応になっていないと DPOF プリントができません。	プリンターの取扱説明書をご覧ください。

メッセージとその処置

メッセージ	原因	処置
“カードが一杯です”	メモリーカードの記録容量が不足しています。	新しいメモリーカードを入れる、または不要な画像を消去してください。
“カードがありません”	メモリーカードが入っていません。	カメラにメモリーカードを入れてください。
“ライトプロテクト”	SD メモリーカードのライトプロテクトスイッチがロック（書込禁止）されています。	SD メモリーカードのロックを解除する（→ 20 ページ）、または他のメモリーカードをご使用ください。
“カードエラーです” または “未対応フォーマット”	他の機種でフォーマットされたメモリーカードを使っています。	カメラでメモリーカードのフォーマットをしてください。 (→ 150 ページ)
	このカメラで取り扱いできないフォーマット形式のメモリーカードです。	別のメモリーカードを入れる、またはフォーマットをしてください。
	カードが正しく装着されていません。	メモリーカードを装着し直してください。
“画像がありません”	メモリーカードに何も記録されていません。	撮影済みのメモリーカードを入れてください。または撮影してください。
“⚠ ⚡ 閉じています”	ストロボがポップアップしていません。	ストロボをポップアップしてください。
“ズームエラー”	レンズキャップがついたまま電源が ON になりました。	レンズキャップをはずし、レンズ部に触らないようにして、電源を入れ直してください。
	カメラが誤作動または故障しています。	電源の ON ／ OFF を繰り返してください。それでも復帰できないときは、弊社サービスステーションに修理をご依頼ください。

メッセージ	原因	処置
“撮影できません”	ブラケット撮影でメモリーカードの記録容量が不足しています。	新しいメモリーカードを入れるか、不要な画像を消去してください。
“プリンタエラーです”	プリンターが印刷不可能な状態になりました。	プリンターを印刷可能な状態にしてください。詳しくはプリンターの取扱説明書をご覧ください。
	プリンターとの接続でエラーを検出しました。	もう一度プリンターとの接続からやり直してください。

デジタルカメラの基本用語解説

AE（自動露出 =Auto Exposure）

被写体の明るさに合わせてカメラが自動的に露出（シャッタースピードと絞り値）を調節する機能です。

AF（オートフォーカス =Auto Focus）

被写体に対してカメラが自動的にピントを合わせる機能です。

CCD（電荷結合素子 =Charge Coupled Device）

レンズから入ってきた光の情報をデジタルデータに変換する部品です。CCD はごく小さな部品ですが、この上に光を受ける素子が何十万と並んでいます。その数を画素数といいます。画素数が多いほど光から変換される情報量が多くなり、精巧な画像を撮影できます。

DCF（カメラファイルシステム規格 =Design rule for Camera File system）

デジタルカメラとその関連機器のファイル形式などの規格です。DCF 規格に準拠したデジタルカメラであれば、メーカーが異なっていても撮影した画像を相互に利用できることになっています。このカメラも DCF 規格に準拠しています。

DPOF（デジタルプリントオーダーフォーマット =Digital Print Order Format）

デジタルカメラで撮影した画像を、家庭用のプリンターやプリント取扱店で手軽にプリントするための規格です。DPOF に対応したプリンターやプリント取扱店であれば、このカメラ（DPOF に対応しています）で設定したプリント枚数や形式通りにプリントできます。

・ 商標 DPOF は、「デジタルカメラのプリント情報に関するフォーマット、DPOF」に従った製品であることを示すもので、キヤノン株式会社、イーストマンコダック社、富士フイルム株式会社、松下電機産業株式会社が仕様書 Version1.00 に対する著作権を保有しています。

EV（露出値 =Exposure Value）

露出をあらわす値です。絞り値が「F 1」、シャッター速度が「1 秒」のときの露出を「EV=1」とします。露出が半分になる毎に「EV=2」、「EV=3」・・・となります。逆に、露出が倍になる毎に「EV= − 1」、「EV= − 2」・・・・となります。

ISO（国際標準化機構 =International Organization for Standardition）感度

ISO が定めた、光を感じる能力をあらわす数値です。この数値が大きいほど感度が高くなり、暗い場所でも撮影できるようになりますが、画像のザラつき（ノイズ）も出やすくなります。

JPEG（Joint Photographic Experts Group）

画像データの圧縮方式のひとつです。データを任意の圧縮率で保存できます。
圧縮率が高いと画像ファイルの容量は小さくなりますが、画質は劣化します。

PictBridge

メーカーや機種に関係なく、デジタルカメラやビデオカメラを USB ケーブルで直接プリンターに接続し、プリントするための標準規格です。

TFT（薄膜トランジスタ =Thin Film Transistor）カラー液晶モニター

このカメラで使用している液晶モニターです。解像度が高く応答性にも優れています。

赤目現象

ストロボを使って撮影したときに、被写体の眼底に光が反射し目が赤く写ってしまう現象です。このカメラには赤目現象を防ぐための赤目軽減発光モードがあります。

撮影マーク

撮影準備が整ったときに液晶モニターに点灯する“●”マークのことです。

絞り

レンズを通る光の量を、レンズ内部にある開口部の大きさを変えて調節するしくみです。

絞り値

絞りの開き具合を示す数値のことです。「F2.8」などのように表され、数値が大きくなるほど開口部が小さくなり、レンズを通る光の量が少なくなります。

絞り優先 AE

撮影者が指定した絞り値に対して、最適なシャッター速度をカメラが自動的に設定します。絞り値は撮影者が指定できるので、被写界深度を考慮した撮影ができます。

シャッタースピード

撮影の際にシャッター（レンズの奥にある幕）の開いている時間です。

シャッタースピード優先 AE

撮影者が設定したシャッタースピードに対して、最適な絞り値をカメラが自動的に設定します。
シャッタースピードは撮影者が指定できるので、被写体のスピードに応じた撮影や暗い場所でのストロボを使わない撮影が可能になります。

焦点距離

レンズからピントの合う被写体までの距離をあらわします。焦点距離が短くなれば写せる範囲が広くなり、焦点距離が長くなれば遠いものが大きく写ります。

ズーム

撮影倍率を段階的に変えることです。被写体を大写しにしていくことを「ズームイン」、逆に縮小していくことを「ズームアウト」といいます。

ズームレンズ

撮影倍率を段階的に変えられるレンズのことです。ズームレンズは焦点距離を変えていくことで撮影倍率を変化させます。

ストロボ

シャッターを開いたとき、瞬間的に強い閃光（フラッシュ）を発生させます。室内や夜間などの暗い場所での撮影に使用します。ただし、多用するとカメラのバッテリーを消耗します。

被写界深度

被写体にピントを合わせたとき、被写体の前後にもピントが合った範囲ができます。ピントが合った範囲が広い場合は「被写界深度が深い」、逆に狭い場合は「被写界深度が浅い」といいます。被写体深度は絞り値が大きい、または被写体とカメラの距離が長いほど深くなります。

被写体

カメラで撮影する対象物のことです。人物を撮影するのであれば人物が、風景を撮影するのであれば風景が被写体となります。

ピント

レンズの焦点（フォーカス）のことで、広義には被写体が鮮明に写っている状態も意味します。焦点が合って、被写体が鮮明に写っている状態を「ピントが合った」、そうでない状態を「ピントがはずれた」と表現します。

フォーマット

メモリーカードの内部を、データが書き込めるように整える作業のことです。フォーマットをするとメモリーカード内の全てのファイルが消去されます。初期化とも言います。

プログラム AE

被写体の明るさに応じて、適切なシャッター速度と絞り値をカメラが自動的に設定します。

ホワイトバランス

蛍光灯や白熱灯の光にはそれぞれ微妙な色が付いています。これらの光源の下でそのまま撮影をすると実際とは異なった色になってしまいます。そこで、撮影前に白い被写体を基準にして色調を補正し、実際と同じような色に撮影できるようにします。

無限遠

被写体がレンズからある距離以上に離れるとピントが変化しない状態になります。被写体がピントに変化を生じないほど遠方にある状態を無限遠といいます。

メモリーカード

情報の書き換えが可能な記録媒体です。このカメラでは SD メモリーカードまたはマルチメディアカードが使用できます。

露出

カメラのフィルムやセンサー（このカメラでは CCD）に当たる光の量です。露出はシャッタースピードと絞りの組合せによって調整します。露出によって画像の明るさが決まります。

詳細目次

前へ
次へ

前へ
次へ

前へ

索引

か

さ

た

な

は

ま

や

ら

USB 接続時のご注意

本製品は、USB2.0（High-Speed）に対応しております。
High-Speed に対応したパソコンと接続した場合、より高速にデータのやりとりができます。

High-Speed 対応のパソコンに接続した場合と、USB1.1（High-Speed 非対応）のパソコンに接続した場合では、カードアクセス LED の表示が異なります。

	接続中	アクセス中
High-Speed 対応のパソコン	点灯	点灯
High-Speed 非対応のパソコン	消灯	点滅

High-Speed対応のパソコンと接続した場合の表示は、カードアクセスLEDの点灯のみになります。画像を見たり、コピーしている状態（アクセス中）がわかりにくいので、次のことにご注意ください。

・パソコンと接続して画像を見たり、コピーするときは、別売りの AC アダプターのご使用をおすすめします。電池消耗により電源が OFF になったときに、大切なデータがこわれる場合があります。

・パソコンと接続して画像を見たり、コピーしているときに、USB ケーブルを取り外さないでください。（「Windowsパソコンから USBケーブルを取り外す」または「Macintosh パソコンから USB ケーブルを取り外す」をご参照ください）

また、High-Speed 対応、High-Speed 非対応に関わらず、パソコンに接続した場合は次のことにご注意ください。

・パソコンに接続中は、AC アダプターの接続または取り外しを行わないでください。

・カメラの電源を OFF する場合は、USB ケーブルを取り外してから POWER ボタンを押してください。

・画像データの安全のため、メモリーカードの挿入または取り出しは USB ケーブルを取り外して行ってください。

正誤表

「取扱説明書（CD-ROM）」の記載に誤りがございましたので、お詫びして訂正いたします。
P.140 「Windows98、Windows98SE お使いの場合」

正	そのまま USB ケーブルを取り外してください。
誤	カメラの電源を OFF にし、そのまま USB ケーブルを取り外してください。